

学部紹介

京都大学の10の学部についてご紹介します。

学部の特長, 教育カリキュラム, 学ぶ事ができる科目などについて述べられています。

また, 各学部の在学生や卒業生が自らの学部について語った生の声も収録しています。

みなさんが受験する学部を決める際の指針としてください。





- P48 総合人間学部
Faculty of Integrated Human Studies
- P52 文学部
Faculty of Letters
- P56 教育学部
Faculty of Education
- P60 法学部
Faculty of Law
- P64 経済学部
Faculty of Economics
- P68 理学部
Faculty of Science
- P72 医学部
Faculty of Medicine
- P78 薬学部
Faculty of Pharmaceutical Sciences
- P82 工学部
Faculty of Engineering
- P86 農学部
Faculty of Agriculture

[写真] 上：吉田キャンパス 本部構内
下：桂キャンパス Cクラスター



新たな「人間の学」をめざして

【写真】「哲学・文化史 A」授業風景

総合人間学部

Faculty of Integrated Human Studies

総合人間学部のホームページ：
<http://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ：
総合人間学部教務掛 tel.075-753-6506

総合人間学部が望む学生像

本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間学の開拓を志す学生、また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしめる学生、未知の分野・未踏の地を恐れず限らない好奇心をもてる学生、学を究めるためにはいかなる労苦をもいとわず、その先に見えてくる新たな光に無上の喜びを感じることできる学生、本学部はそういう学生が門をたくことを望んでいます。

総合人間学部への誘い

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され、平成5年4月に第1期生を迎え入れました。京都大学で最も新しい学部です。

この学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、ここでの研究と教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするからです。「総合人間学」は、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てようとする学問です。すなわち、人間と、人間をとりまく世界を、総合的に捉える学問の確立が、総合人間学部にとえられた課題です。

現代社会の危機感の中にあるわれわれは、人間自身を最大のテーマとして取り上げます。そうしてこそ初めて人類生存や文明の可能性が求められるからです。このような根本問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能でしょう。京都大学の自由な学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越え、より多様で総合的な学問の場を提供すること、これをわれわれはめざしています。

総合人間学部は、人間・環境学研究科（大学院）に直結する学部として構成されています。専攻分野の細分化を避けて、1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、認知情報学系、国際文明学系、文化環境学系、自然科学系の5学系を設けました。時代の要請にもかかっていません。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間ほどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系の主専攻を選択します。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、副専攻制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。卒業の際に、学位記と並んで主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

総合人間学部の教育

● 5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叢智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起しています。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総合的な把握がなされねばなりません。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。また、今日、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、焦眉の急務となっています。脳の機能とは何かから、人間の認知、行動発現、言語機能の探求、その基礎にある情報科学と数理科学にいたるまで深く学ぶために「認知情報学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって国際的で新しい文明の理

在学生メッセージ

「総合」することの発見

総合人間学部
認知情報学系 2 年生
糟野 新一 さん

京都大学における総合人間学部の位置づけは文系理系の枠組みにとらわれず、学問を「総合的」にとらえる点だと思っています。大学では1つの学問を主に専攻する場合がありますが、総合人間学部ではより多様な学問に触れることができます。力学・自然科学・脳科学・情報科学などといった理系分野、文学・教育学・哲学・言語学などといった文系分野の学問を文理を股にかけて学ぶことが可能です。レベルや興味に合わせて自分で学ぶものを選択できるということは総合人間学部ならではのものだと思います。1つの分野に限らず多くの分野に興味を持って人や自分自身でやりたい事を見つけれられる人にとって総合人間学部は絶好の学部です。部活動やサークル活動にも学ぶことはもちろんあると思うのであなたなりの大学生活を是非総人で創ってってください！



「自由と可能性に満ちた学部」

総合人間学部
国際文明学系 4 年生
池崎 緑 さん

総合人間学部は、与えられたたくさんの選択肢の中から自分の可能性を見つけ出し、突き進んでいける場所です。無数の道があるからこそさまざまな考えの人が集っていますし、ここで過ごす毎日は感性を刺激されることばかりです。既存の枠に捉われない専門分野に没頭している人がいれば、おもしろいと思ったものをいくつかつまみ食いしている人、大学というフィールド以外で開花している人もいます。そのどれもが「総人」らしい学びです。刺激的な日々の中で自分の進む道について悩むことも多いですが、それを共有できるのもやはり同じ環境のもとで悩んだ友人たちです。総人の学生には、悩んだだけの「柔らかさ」が共通していると感じます。柔軟であることは大きな強みです。その柔らかさと幅広い学びを活かし、ぜひ自分だけの道を開拓してってください。



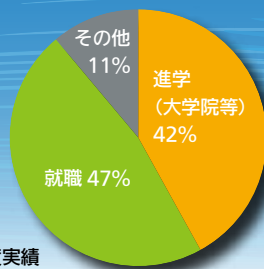
● 卒業後の進路

進学：約4割が人間・環境学研究科等の大学院へ進学します。

就職：就職先は官公庁や教育機関、マスコミやIT関係といった情報通信業、金融業、化学・電気・機械等のメーカー、広告会社等のサービス業等、総合人間学部の特色を示すように多岐に渡っており、卒業生は社会の広い分野で活動しています。

就職先の例

(株)京都銀行／東京海上日動火災保険(株)／明治製菓(株)／東レ(株)／ダイキン工業(株)／日本放送協会(NHK)／教員(高等学校・中学校)／(株)リクルート／(株)毎日新聞社／近畿日本鉄道(株)／(株)ドン・キホーテ／東京都庁／三井物産(株)／大和証券投資信託委託(株)／(株)JTB 西日本／(株)紀伊國屋書店



2010年度実績

念を構築するために、「国際文明学系」が設置されています。また、世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために「文化環境学系」が設置されています。

さらに自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探求し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観を養成するために「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学学科が構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

● 専攻の決定

「文系」、「理系」という入学試験の形態にかかわらず、自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に所属されます。

● 4年一貫教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目を、4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムで実施します。大学院「人間・環境学研究科」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、卒業研究指導

教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

● 副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野にも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに対しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

● 大学院「人間・環境学研究科」

総合人間学部の大学院進学志望者の多くは、「人間・環境学研究科」を受験して進学しています。また、本学の他の各研究科や他大学の大学院に進学することもできます。「人間・環境学研究科」には、次の3専攻が設けられています。

共生人間学専攻

本専攻では、「人間相互の共生」という視点から生み出される諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理科学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

● 総合人間学部で取得可能な資格

総合人間学部では、下記の種類、教科について課程認定を受けています。教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。また、博物館等の学芸員や図書館司書の資格も他学部の科目を修得することで、取得することができます。

総合人間学部で取得できる教育職員免許の種類及び教科

種類	教科
中学校一種	国語、社会、数学、理科、保健体育、英語、ドイツ語、フランス語
高等学校一種	国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、情報、英語、ドイツ語、フランス語

共生文明学専攻

本専攻では、自然と人間・社会とを対峙させ、自然を制御することを文明の営みとしてきた西欧文明、及び自然との共生を文明の営みとしてきた地球上の他の文明を考察することによって、「文明相互の共生」を可能にする方策を探究し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

相関環境学専攻

本専攻では、従来の科学・技術・産業に内在する「開発」の論理を見直し、人類を含めた生態系の、全体としての存続に寄与することを志向する「人間と自然の共生」の論理を学問的営為に根づかせるべく、そのための新しい科学・技術のあり方を探求し、それとともに自然と人間との共生を図る新しい社会システムのあり方を模索し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質相関論講座の4講座を設置しています。

卒業生メッセージ

「総合」するのは、あなたです

2005年卒業

科学史家 電気通信大学協力研究員

有賀 暢迪 さん

あの授業も面白そう、でもこれもちょっと興味ある……。総合人間学部は、そんな期待にこたえてくれる学部です。僕自身、とにかくいろいろな分野のことが知りたいと思い、この学部を選びました。とはいえ注意が必要です。多彩なメニューが用意されているとはいえ、ただつまみ食いしているだけではどれも中途半端で終わってしまう可能性があるからです。大事なのは、自分から積極的に「総合」していこうとする姿勢なのではないでしょうか。

僕の場合は、主専攻として物理学を選び、それと並行して人文・社会系のさまざまな学問分野を学びました。その経験が、卒業後に進んだ科学史という道につながっています。「総合」されたものがあらかじめ用意されているわけではありません。あなたもぜひ、この学部で自分なりの「総合」に挑戦してみてください。



オリジナルの「学び」の場

2008年卒業

NHK・記者

篠崎 麻紀 さん

高校時代もっと広い世界を見たいと、多彩な分野を学べる総合人間学部を選びました。

在学中は、文系理系問わず好きな授業を受けたり、交換留学制度を利用し1年間豪州で学んだり、知識を広げる楽しさで充実していました。4年生で専攻を文学研究とした後も、他分野の友人から刺激を受けていたのを覚えています。みんな自分の専門をベースに、他分野の知識をブレンドし、独自の「学び」を形作っていました。それは試行錯誤の連続でしたが、大変やりがいがありました。この経験は現在の報道の仕事にもつながっています。というのも、このたびの震災のように、社会では想像もしていなかったことが起き、枠に捉われずに知識を広げ、分析し、行動することが求められているからです。

自由にオリジナルの「学び」を作る。それがこの学部の魅力だと思います。



学系紹介

人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根底的な人間理解を目指しています。その道筋として3つが考えられます。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理的解明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的解明です。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究です。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象についての歴史的社会的な研究です。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の6分野から成り、それらは相互に有機的に連関し、人間についての知を刷新して、新たな総合的構築を目指します。

人間存在論、創造行為論、人間形成論、社会行動論、文芸表象論、文化社会論

認知情報学系

脳、身体、言語、数理情報などに関する研究をとおして、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数理機構が関与しています。本学系では、人間の健康や脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる運動・代謝栄養医学、情報科学や数理学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認知行動の包括的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知・行動科学、数理情報論、言語科学、外国語教育論

国際文明学系

「タコツボ化」した社会諸科学や人文諸学が現代社会の直面する深刻な諸問題の解決に十全な有効性を発揮し得ないという指摘がなされるようになってすでに久しい。学生諸君には、本学系が提供する社会科学系諸分野あるいは日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する人文系諸分野のなかから特定のものに専攻として選択しその研究に従事する一方で、関連諸学を領域横断的に学び、言葉の真の意味での「ユニバーシティ」で学んだ人間であれば当然に体得すべき高度で幅広い教養（リベラル・アーツ）と柔軟な思考に裏づけられた専門知識の修得を心がけていただきたい。「何をどう学ぶか」を自分自身で設計したいと願う意欲的で主体的な学生よ、来たれ。

社会相関論、歴史文化社会論

文化環境学系

本学系では近代文明のグローバル化が進化する現代においてその基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な人間活動や居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を迫ります。また各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を種々の記憶にも留意しつつ複眼的な視点から解明します。

教育方針としては、文明・文化や環境に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明・文化はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解し、文明・文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につけてもらいます。

授業は、大学院人間環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

比較文明論、文化・地域環境論

自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球、さらには宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを目指した学系です。物理学、有機・無機化学、生物科学、地球科学で構成されています。それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、新たな知の創造をめざします。講義は、大学院人間・環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。



【写真】新歓合宿にて

学部専門科目

学系	科目
人間科学系	<p>【入門科目】 人間科学入門</p> <p>【人間形成論関係】 人間形成論、人間形成論演習A、人間形成論演習B、人間形成史論、人間形成史論演習A、人間形成史論演習B、関係発達論、関係発達論演習A、関係発達論演習B、精神病理学・精神分析学、精神分析学Ⅰ、精神分析学Ⅱ、精神病理学・精神分析学演習A、精神病理学・精神分析学演習B</p> <p>【社会行動論関係】 グループ・ダイナミクス演習A、グループ・ダイナミクス演習B、人間行動論、社会情報論、人間行動論演習A、人間行動論演習B、社会情報論演習A、社会情報論演習B、宗教現象学、生命倫理学、宗教学研究法論演習A、宗教学研究法論演習B、社会心理学演習A、社会心理学演習B</p> <p>【文化社会論関係】 トランス文化社会論、ヒストリー・オブ・アイディアズA、ヒストリー・オブ・アイディアズB、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習A、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習B、動態映画文化論ⅠA、動態映画文化論ⅠB、動態映画文化論ⅡA、動態映画文化論ⅡB、動態映画文化論演習ⅠA、動態映画文化論演習ⅠB、動態映画文化論演習ⅡA、動態映画文化論演習ⅡB、制度・生活文化史A、制度・生活文化史B、制度・生活文化史演習A、制度・生活文化史演習B、メディア・スタディーズⅠA、メディア・スタディーズⅠB、メディア・スタディーズⅡA、メディア・スタディーズⅡB、メディア・スタディーズ演習A、メディア・スタディーズ演習B</p> <p>【人間存在論関係】 自己存在論A、自己存在論B、自己存在論演習A、自己存在論演習B、認識人間学A、認識人間学B、認識人間学演習A、認識人間学演習B、哲学・文化史A、哲学・文化史B、哲学・文化史演習A、哲学・文化史演習B、人間実践論A、人間実践論B、人間実践論演習A、人間実践論演習B、環境存在論、環境規範論、環境存在論演習、環境規範論演習、人間存在論特論A、人間存在論特論B、人間存在論特別演習</p> <p>【創造行為論関係】 創造行為論演習A、創造行為論演習B、創造行為論講義演習A、創造行為論講義演習B、近代芸術論A、近代芸術論B、近代芸術論演習A、近代芸術論演習B、舞台芸術論A、舞台芸術論B、舞台芸術論演習A、舞台芸術論演習B、創造ルネッサンス論A、創造ルネッサンス論B、創造ルネッサンス演習A、創造ルネッサンス演習B</p> <p>【文芸表象論関係】 英米文芸表象論講義A、英米文芸表象論講義B、英米文芸表象論演習ⅠA、英米文芸表象論演習ⅠB、英米文芸表象論演習ⅡA、英米文芸表象論演習ⅡB、英米文芸表象論講義ⅠA、英米文芸表象論講義ⅠB、英米文芸表象論講義ⅡA、英米文芸表象論講義ⅡB、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B、ドイツ文芸表象論演習A、ドイツ文芸表象論演習B、ドイツ文芸表象論講義A、ドイツ文芸表象論講義B</p>



根源的な人間理解への 多元的なアプローチ

【写真】文学部図書館所蔵 貴重図書「しづか」

文学部

Faculty of Letters

文学部のホームページ：

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ：

文学部第一教務掛 tel.075-753-2709

文学部が望む学生像

文学部における教育は、人文学の名のもとに、思想、言語、文学、歴史、行動、さらに現代文化に関わって展開されてきた諸学の成果を学生に教授し、共に学び考えながら、新たな知的価値を創出することをめざしてなされるものです。そこでの活動には、単に文系の範疇に含まれるものだけではなく、高度な数学的方法や実験的手法、また情報処理の技術が必要とするものもあります。文学部は、人文学の諸学問に関して、こうした幅広い能力を具え、かつ深い教養と倫理性にも優れた人材を育成することをめざしています。過去から現在に至り、さらに未来にまで伸びる人類の営みについて、様々な角度から関心を寄せ、柔軟な思考力によって問題を発見し、その解決のため、論理的に、また歴史的に、創造性豊かな考察を展開することのできる学生を歓迎します。

文学部への誘い

文学部は2006年に創立100周年を迎え、次の100年に向けて新たな一歩を踏み出しました。創立以来何度かの改組を経て、現在文学部

には、哲学基礎文化学、東洋文化学、西洋文化学、歴史基礎文化学、行動・環境文化学、基礎現代文化学の6つの系と、その中に32（大学院では31）の専修が設置され、人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問をカバーしています。

文学部の多種多様な研究を束ねるキーワードは、人間とその文化的営みです。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的に日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の系と専修も実に多種多様です。それぞれの専修は、独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心にした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問的伝統を支えているのです。

「京都学派」と呼ばれる独自の自由な学風を育み、各界に多数の人材を送り出してきた本学部は、わが国の数ある文学部の中でも特筆すべき位置を占めています。100年を超える歴史を通して培われた文学部の勉学環境は、他所ではなかなか体験できるものではありません。これか

ら入学してこられる皆さんには、この文学部という知的交流の場にぜひ加わり、新風を吹き込んでほしいと願っています。

文学部の教育

●国際化と新しい研究者の育成

他学部と同様、文学部における教育の大きな目標は研究者の養成にあります。日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。日本で学んだ研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナリズムの垣根を越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めねばなりません。文学部では学部生の段階から、留学や外国人研究者との交流、さらには学際的国際シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードにかなった研究者を育てようとしています。

●文学部の4年間

文学部の学生が1回生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目です。学年が進むにつ

「知と自由の宝庫」

西洋古典学専修3回生

小瀬木 雄司 さん

京都大学文学部で学んできた中でとくに感心することは、その学ぶべき対象がすべて自らの自由選択に委ねられるということです。同じ年に文学部に入学したAさんとBさんが1つも同じ授業を取ることもなく卒業するということがよくあることです。私はなんとなく国文学を勉強するつもりで文学部に入りましたが、当初の志望に拘泥せず幅広い分野に手を伸ばし、するとラテン語やギリシア語の魅力にひかれ、西洋古典学を専攻するにいたしました。

文学部図書館に入れば、そこには数多くの偉大な先人たちが残した知の遺産があります。まわりを見渡せば種々の分野から知を授かった仲間がいます。文学部では、現存する自由な知の持ち主に関わったり、今は亡き知識人の財産に手を触れたりしながら、自他共に真の成長をする未来が開けていることでしょう。



「大学でしかやれないこと」を

西南アジア史学専修3回生

佐藤 治子 さん

京大文学部に入って3年目、遂に専門の勉強が本格的に始まりました。大変だけれど（特に語学が）、充実した日々を過ごしています。

文学部の学生にとって、1・2回生は自らの興味を焦点化していく時期と言えます。文学部はあらゆる文系の学問を詰め込んだような学部で、扱う領域は多岐に渡ります。その中から、2回生の秋までに自分の専門を決めるわけですね。

私自身、様々な分野の講義を受講し、自分の関心の在り方を見定めていきました。最終的に西南アジア史学を選択したわけですが、決め手となったのは「この分野の本格的な勉強は、大学でもなければ中々出来ないだろう」という思いです。日本には馴染みがない西南アジアという地域について、専門的に学べる場がとても貴重に思えたのです。

文学部でやることは、直接は将来の役に立たないかもしれませんが、そこで学ぶことは自らの成長につながると思うし、何より「大学でしかやれないこと」ばかりだと思います。皆さんも、京大文学部という場でしかやれないことを一杯やって、素敵な大学生活を送ってください。

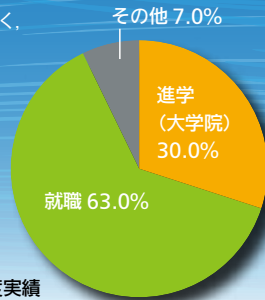


● 卒業後の進路

ここ数年は、就職者が50～60%程度、大学院進学者が30%前後、他大学や各種学校への進学者が3%前後で、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまでは、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めてきましたが、最近では情報通信業、金融業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。

就職先の例

JRグループ/Z会/京都銀行/公立学校教員/国家・地方公務員/住友信託銀行/天満屋/日本放送協会/日本郵政グループ/富士通/楽天



2010年度実績

れて勉強する分野が限定されがちですので、1・2回生の間はできるだけ幅広い学問分野に触れておいた方が長期的にプラスとなるでしょう。また、この時期は所属専修が決まっていなはいえ、ある程度将来分属する専修を念頭にそれぞれに必要なとされる外国語を勉強しておくことが望まれます。

2回生になるときには、3回生で専修に分属する準備として6つの系に仮分属します。各専修が開講している入門講座や基礎演習といった学部専門科目を履修して、2回生の秋に希望専修を決定するのに備えます。もちろん3回生に

なる際に、他の系の専修を選ぶこともできます。2回生で履修する文学部英語や各言語の文献講読は系の分属に従ったクラス編成のもとで行われます。これは、各専門分野に関連した文献を講読するためのものです。

3回生では本格的な専門教育が始まります。各専修に分属して、講義の他、演習や特殊講義といった専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあります。最初は圧倒されてとまどうかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研究が身近に感じられるようになるでしょう。他学部に比べて文献講読の

形式を取る授業が多いかもしれませんが、専修によっては実験や野外実習(フィールドワーク)を課しているところもあります。

4回生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、ときには苦しいかも知れませんが、一つのを完成する重要さを学ぶことができるでしょう。この経験は卒業以後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進学して研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一步となります。

学部	全学共通科目	文学部専門科目	各種資格科目
学部4		特殊講義・演習等 卒業論文	研究指導
学部3	A・B・C・D・EX群	各専修の特殊講義・演習等	
学部2	A・B・C・D・EX群	系共通科目 講義・講読・実習等	
学部1	A・B・C・D・EX群	ポケット・ゼミ 系共通科目 講義	

「京都大学という静謐さの中で」

2007年中国語中国文学専修卒業
京都大学総務部人事課勤務
近藤 太樹 さん



高校時代、好きな科目が「国語」というだけの理由で選んだ文学部。哲学、美学、国文学、史学・・・そのどれもが興味の対象であるとともに、ある意味自分にとって「御しやすい」と思っていた多様な学問領域は、入学してみても一転奥深く、全く歯が立たない世界であると知る。文学部は人間を解き明かす、根源的研究を模索する場所であった。しかし中国語学中国文学研究室では、成績不良の私も、博覧強記の教授陣に混じって、揺蕩うようなゆったりとした時間の中で、書を読み考えを巡らすことができた。伝統と実績が築く京都大学の環境では、極めて自然な形で学問へ臨むことが出来る。成果のみを追い求めず、沈黙考しているこの瞬間の蓄積にこそ、意味があると気付かせてくれる。

今は母校に勤務する事務職員となった私は、中文研究室で学んだ「考える」姿勢を大事に、京大を動かす業務の一端を担っている。(ちなみに、教員や学生と直接触れ合うことの無い業務は、意外と多い)実利のみが歓迎される世の中において、流されない確固たる思考の大切さを教えてくれる京大文学部で、あなたも静謐な時を刻んでみてはどうだろうか。

「キョーダイブソングクス」

2009年西洋近世哲学史専修卒業
外務省勤務(在ヨルダン大使館外交官補)
池上 栄作 さん



出身大学の話になり、私が「京大文学部」と答えると、みな一様に怪訝な顔をする。「西洋近世哲学史専修」と付け加えようものなら尚更である。それは私が外務省という法・経済学部出身者が大勢を占める職場で働いているせいもあるが、「京大文学部」というものが日本のインテリ層の中で一種異様なニュアンスを伴って理解されているからであろう。しかし、私はこの現状をかなりポジティブに捉えている。なぜなら、「異端」は「個性」であり「武器」だからである。私は純粋な知的好奇心から文学部を選択し、その延長線上に外交官という今の職業を選んだのではあるが、結果としてこの京大文学部ブランドの恩恵に与っている。この不思議なブランド力は、京大文学部に入らなければ分からない。さあ、皆さん、どうぞお試しあれ。

学科紹介

哲学基礎文化学系

哲学基礎文化学系は、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たんとする人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。たとえば、「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。「人間にとって宗教とは何か」、「美とは、芸術とは何か」。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。

哲学、西洋哲学史（古代・中世・近世）、日本哲学史、倫理学、宗教学、キリスト教学、美学美術史学（美学・芸術学、美術史学、比較芸術史学）

東洋文化学系

東洋文化学系では、日本・中国・インド・チベットの文学・思想・宗教・言語を軸とした研究が行われています。専門分野によっては、もう一歩踏み込んで科学や芸術まで足を踏み入れることになるかも知れません。

基礎となるのは、なによりも文献資料の原典をきちんと読むこと。原文でしかわからない意味や美しさを理解するには、しっかりした語学力が不可欠です。研究を発展させるには、英・仏・独を始めとする外国語を、道具として駆使する必要も出てくるでしょう。

「東洋」はほんとうに存在するのか、存在するとしたらその特質はなにか、歴史的伝統と現実とはどのようにつながっているのか、文学や芸術の想像力はどんな世界を作り上げるのか。一正確な専門的知識、分野を超えた広い視界、その両者をあわせて考えてみてください。

国語学国文学、中国語学中国文学、中国哲学史、インド古典学、仏教学

西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず最初に十分な語学能力を養うことが大切です。また図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、有効に活用することができます。西洋文化学系は次の7つの専修からなり、それぞれの文化圏の文学、言語、芸術、思想、社会に関心をもつ学生諸君を待っています。

西洋古典学、スラブ語学スラブ文学、ドイツ語学ドイツ文学、英語学英文学、アメリカ文学、フランス語学フランス文学、イタリア語学イタリア文学

歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実にも努めている点も5専修の共通点です。文学部の図書室だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所などの近隣の施設に豊富な史料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業一たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語などを合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総合的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあると言えるでしょう。

日本史学、東洋史学、西南アジア史学、西洋史学、考古学

行動・環境文化学系

心理学専修では、心の働きを実験を通して研究しています。基礎心理学、実験心理学、基礎行動学分野では認知を中心とする基礎的領域を扱い臨床心理学は含みません。言語学専修では、人間の言語が機能する仕組みについての理論的研究、現在話されている言語を調査・分析し記述する研究、古文書を読み言語の変化や、文献以前の言語について推定する研究などが行われています。

社会学専修では、社会の構造や変化、人々の関係、文化などについて研究します。地域、家族、ジェンダー、メディア、福祉、環境など様々なトピックを扱い、社会調査にも力を入れています。

地理学専修では、地域の形成過程や地域構造の分析を通して、地表空間における様々な人間活動を研究しています。地理学、地域環境学、環境動態論の各小分野では、地域現象全般、人間と環境の関係、景観とその変遷を対象とした研究を扱っています。

各専修ではそれぞれの分野について固有の基礎的な方法を修得することが不可欠です。各専修の研究内容を十分理解することができるように1、2回生から入門的講義、演習、実習や講読の必須科目を設定しています。

心理学、言語学、社会学、地理学

基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなる小さな系ですが、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてもっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった現代文化を特徴づけるものではあるが、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野をも視野に入れ、私たちの生きている現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史、情報・史料学、二十世紀学、現代史学

専門科目（学部共通科目）

1回生～	2回生～	3回生～	4回生
サンスクリット（2時間コース）、ポーランド語初級Ⅰ、ポーランド語初級Ⅱ、ポーランド語中級Ⅰ、ポーランド語中級Ⅱ、現代インド語（ヒンディー語）、哲学基礎文化学系ゼミナール、東洋文化学系ゼミナール、西洋文化学系ゼミナール、歴史基礎文化学系ゼミナール、行動・環境文化学系ゼミナール、基礎現代文化学系ゼミナール	博物館学Ⅰ、博物館学Ⅱ、博物館学Ⅲ、博物館学実習、漢文学、フランス語（中級）、ギリシア語（2時間コース）、ギリシア語（4時間コース）、ラテン語（2時間コース）、ラテン語（4時間コース）、スペイン語（初級）、スペイン語（中級）、イタリア語（初級4時間コース）、イタリア語（中級）、朝鮮語（初級）、朝鮮語（中級）、サンスクリット（4時間コース）、チベット語（初級）、アラブ語（初級）、モンゴル語（初級）、オランダ語（初級）、スワヒリ語（初級）、スワヒリ語（中級）、英語、英語論文作成法、書道、東洋文化学系ゼミナール	ヘブライ語、イラン語（初級）、チベット語（中級）、シュメール語（初級）、フランス語（上級）	

専門科目 (系別科目)

学科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
哲学基礎 文化学系		系共通科目(哲学)講義, 系共通科目(西洋古代哲学史)講義, 系共通科目(西洋中世哲学史)講義, 系共通科目(西洋近世哲学史)講義, 系共通科目(日本哲学史)講義, 系共通科目(倫理学)講義, 系共通科目(宗教学)講義, 系共通科目(キリスト教学)講義, 系共通科目(美学)講義, 系共通科目(美術史学)講義, 哲学・西洋哲学史講読, 西洋哲学史講読, 日本哲学史演習, 日本哲学史講読, 美学美術史学演習Ⅱ, 美学美術史学講読	哲学特殊講義, 哲学演習, 哲学卒論演習, 西洋哲学史特殊講義, 西洋哲学史演習, 日本哲学史特殊講義, 日本哲学史演習, 倫理学特殊講義, 倫理学演習, 宗教学特殊講義, 宗教学演習Ⅱ, 宗教学講読, キリスト教学特殊講義, キリスト教学演習, 美学美術史学特殊講義, 美学美術史学演習Ⅰ, 美学美術史学演習Ⅱ, 美学美術史学演習Ⅲ	卒業論文(哲学), 卒業論文(西洋古代哲学史), 卒業論文(西洋中世哲学史), 卒業論文(西洋近世哲学史), 日本哲学史演習, 卒業論文(日本哲学史), 卒業論文(倫理学), 卒業論文(宗教学), 卒業論文(キリスト教学), 卒業論文(美学美術史学)
東洋 文化学系	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)講義, 系共通科目(インド哲学史)講義, 系共通科目(仏教学)講義	系共通科目(国語学)講義, 系共通科目(国文学)講義, 系共通科目(中国語学)講義, 系共通科目(中国文学)講義, 系共通科目(中国哲学史)講義, 国語学国文学講読, 中国語学中国文学講読, 中国哲学史講読, インド古典学演習, インド古典学講読, 仏教学演習	国語学国文学特殊講義, 国語学国文学演習, 中国語学中国文学特殊講義, 中国語学中国文学演習, 中国語学中国文学外国人実習, 中国哲学史特殊講義, 中国哲学史演習, インド古典学特殊講義, インド古典学演習, インド古典学講読, 仏教学特殊講義, 仏教学演習, 仏教学講読Ⅰ, 仏教学講読Ⅱ	国語学国文学卒論演習, 卒業論文(国語学国文学), 中国語学中国文学卒論演習, 卒業論文(中国語学中国文学), 卒業論文(中国哲学史), 卒業論文(インド古典学), 卒業論文(仏教学)
西洋 文化学系	系共通科目(西洋古典学)講義, 系共通科目(スラブ語学スラブ文学)講義, 系共通科目(英語学)講義, 系共通科目(イタリア語学イタリア文学)講義	系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)講義, 系共通科目(英文学)講義, 系共通科目(アメリカ文学)講義, 系共通科目(フランス語学)講義, 系共通科目(フランス文学)講義, 西洋古典学講読, スラブ語学スラブ文学講読, ドイツ語学ドイツ文学講読, ドイツ語学ドイツ文学外国人実習, 英語学英文学特殊講義, 英語学英文学演習Ⅰ, 英語学英文学講読, 英語学英文学外国人実習, アメリカ文学特殊講義, アメリカ文学演習Ⅰ, アメリカ文学講読, アメリカ文学外国人実習, フランス語学フランス文学講読, イタリア語学イタリア文学講読	西洋古典学特殊講義, 西洋古典学演習, スラブ語学スラブ文学特殊講義, スラブ語学スラブ文学演習, ドイツ語学ドイツ文学特殊講義, ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅰ, ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅱ, ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅲ, 英語学英文学特殊講義, 英語学英文学演習Ⅰ, 英語学英文学演習Ⅱ, アメリカ文学特殊講義, アメリカ文学演習Ⅰ, アメリカ文学演習Ⅱ, フランス語学フランス文学特殊講義, フランス語学フランス文学演習Ⅰ, フランス語学フランス文学演習Ⅱ, フランス語学フランス文学外国人実習, イタリア語学イタリア文学特殊講義, イタリア語学イタリア文学外国人実習	卒業論文(西洋古典学), 卒業論文(スラブ語学スラブ文学), 卒業論文(ドイツ語学ドイツ文学), 卒業論文(英語学英文学), 卒業論文(アメリカ文学), 卒業論文(フランス語学フランス文学), 卒業論文(イタリア語学イタリア文学)
歴史基礎 文化学系	系共通科目(考古学)講義, 系共通科目(先史学)講義	系共通科目(日本史学)講義, 系共通科目(東洋史学)講義, 系共通科目(西南アジア史学)講義, 系共通科目(西洋史学)講義, 日本史学基礎演習, 日本史学講読, 東洋史学講読, 西洋史学演習, 西洋史学講読, 考古学講読, 考古学実習	日本史学特殊講義, 日本史学演習Ⅰ, 日本史学実習, 東洋史学特殊講義, 東洋史学演習Ⅰ, 東洋史学演習Ⅱ, 東洋史学演習Ⅲ, 東洋史学演習Ⅳ, 東洋史学演習Ⅴ, 東洋史学演習Ⅵ, 東洋史学実習, 西南アジア史学特殊講義, 西南アジア史学演習Ⅰ, 西南アジア史学演習Ⅱ, 西南アジア史学講読, 西南アジア史学実習, 西洋史学特殊講義, 西洋史学演習Ⅰ, 西洋史学演習Ⅱ, 西洋史学演習Ⅲ, 西洋史学演習Ⅳ, 西洋史学実習, 考古学特殊講義, 考古学演習Ⅰ, 考古学演習Ⅱ	日本史学演習Ⅱ, 日本史学実習, 卒業論文(日本史学), 卒業論文(東洋史学), 卒業論文(西南アジア史学), 西洋史学演習Ⅴ, 卒業論文(西洋史学), 考古学演習Ⅲ, 卒業論文(考古学)
行動・環境 文化学系	系共通科目(言語学)講義Ⅰ, 系共通科目(言語学)講義Ⅱ	系共通科目(心理学)講義Ⅰ, 系共通科目(社会学)講義, 系共通科目(地理学)講義, 心理学講義Ka, 心理学講義Kd, 心理学講義Ke, 心理学実習Ⅰ, 心理学実習Ⅱ, 言語学基礎演習, 社会学特殊講義, 地理学講読, 地理学実習	系共通科目(心理学)講義Ⅱb, 系共通科目(心理学)講義Ⅱc, 系共通科目(心理学)講義Ⅱd, 系共通科目(心理学)講義Ⅱe, 心理学特殊講義, 心理学演習Ⅰ, 心理学講読, 心理学実習Ⅲ, 言語学特殊講義, 言語学演習, 社会学特殊講義, 社会学演習Ⅰ, 社会学演習Ⅱ, 社会学講読, 社会学実習, 地理学特殊講義, 地理学演習Ⅰ, 地理学講読	心理学演習Ⅱ, 卒業論文(心理学), 言語学卒論演習, 卒業論文(言語学), 卒業論文(社会学), 地理学演習Ⅱ, 卒業論文(地理学)
基礎現代 文化学系	系共通科目(二十世紀学)講義, 系共通科目(日本現代史)講義	系共通科目(科学史)講義, 系共通科目(科学哲学)講義, 系共通科目(情報・史料学)講義, 系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅰ, 系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅱ, 系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習Ⅰ, 系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習Ⅱ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅰ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅱ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅲ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅳ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅴ, 系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅵ, 科学哲学科学史特殊講義, 科学哲学科学史演習, 二十世紀学演習Ⅱ, 現代史学演習Ⅱ	科学哲学科学史特殊講義, 科学哲学科学史演習, 情報・史料学特殊講義, 情報・史料学演習, 二十世紀学特殊講義, 二十世紀学演習Ⅰ, 二十世紀学演習Ⅱ, 現代史学特殊講義, 現代史学演習Ⅰ, 現代史学演習Ⅱ	科学哲学科学史卒論演習, 卒業論文(科学哲学科学史), 情報・史料学卒論演習, 卒業論文(情報・史料学), 二十世紀学卒論演習, 卒業論文(二十世紀学), 現代史学卒論演習, 卒業論文(現代史学)



人間らしさを擁護し 促進する態度を養う

【写真】「教育研究入門」授業風景

教育学部

Faculty of Education

教育学部のホームページ:

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

教育学部教務掛 tel.075-753-3010

教育学部が望む学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校社会だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の営みがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組みなければなりません。

そのため、教育学部では、心と人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

教育学部への誘い

2009年、教育学部は創立60周年を迎えました。それとともに、改修により学舎も一新され、新たな歴史への一歩を踏み出しました。教育学部はこの60年、戦後日本の教育にかかわる諸科学と心理学の研究をリードしてきたのです。

教育学部は、教員養成を目的とした学部ではありません。現代の教育にかかわる諸問題を学問的に探究し、よりよき社会実現のための知と

技法を開発し、その習得をめざした学部です。現代の教育の諸問題は、複雑な要因が多層に折り重なっています。その諸問題に正面から向き合い、その解明のために、心や社会、人間それ自体に関するさまざまな学問とその方法を学ばなければなりません。人間を深く探究する人文科学、社会の仕組みや動きを解明する社会科学、人間の心に関する諸科学など、教育学部には、多様な学問を学ぶことができるよう、3つの系が用意されています。その意味で、教育学部は「教育」という現実的テーマを共有する「小さな総合学部」にほかなりません。

教育学部では、理論を実践に展開することと、そのためのフィールドを重視しています。学校に限らず、生涯を通じた人間の生成と変容を視野にいれ、21世紀に求められる新しい教育学と心理学の創出を目指し実績を上げています。少人数教育の徹底と、学問の多様さと、まとまりのよい一体感、これが教育学部の特徴です。

教育は未来を創る営みです。教育学部は未来にかかわる学問を学ぶ場です。変化の激しい現代は未来が見通しにくい時代。その分、教育にかかわる諸学問への期待と役割は、ますます大きくなっているのです。

教育学部の教育方針

●学部教育の方針

教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間らしさを擁護し促進する態度」を啓発するための高度な一般教育と幅広い専門教育を行っています。

●学部4年間のカリキュラム概要

教育学部生については、1回生の必修科目として「教育研究入門」推奨科目として「情報学」を開講しています。また、全学の学生を対象にして、教職科目をはじめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及び少人数ゼミ等の教養教育科目を開講しています。

教育学部は、平成10年度から1学科（教育科学科）3大学科目（系）で教育編成を行っています。これは、教育の総合的理解が必要な学部段階では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。

在学生メッセージ

「教師になりたいの？」

教育科学科2回生

河村 悠太 さん

教育学部生であることを明かすと、他学部の友人からは決まっただけで聞かれる。教育学部に興味を持っているみなさんならご存知と思うが、ここ京大教育学部で学べるのは、教師への道だけでは決まてない。教育学部の1つ目の特徴は、学部生の進路が実に多様なことだ。教師を目指している人はもちろん、心理学を学んで大学院へ進む人や、公務員を目標としている人などがいて、興味の異なる友人たちと関わることで毎日様々な刺激を受けつつ勉学に励むことができる。また、2つ目の特徴としては、教育学部は60人という小人数学部であるがゆえに、他学部と比べて仲が良いこと挙げられる。特に、学祭期間中には毎年、教育学部全体が協力して教育学部祭を行っており、先輩後輩を超えて深くかかわることができる。みなさんもぜひ京都大学教育学部に合格を果たされ、私たちと一緒に実りある大学生活を送っていただければと思う。



「人との関わりを深められる場」

相關教育システム論系3回生

杉原 桃菜 さん

大学生になって最も実感したことは、今まで自分が生活してきた世界は以下に限定的なものであったかということです。色んな場所があって色んなものがある。中でも様々な考えを持つ人・活動している人に出会い、話を聞いたりやりとりをすることでたくさんの刺激を受けることが毎日のようにあります。そのたびに人は本当に多様で無限の可能性を秘めた存在であると感じます。教育とはそんな人間に対する学問であり、それを深く学び考えるのに非常に充実した環境が京都大学、そしてこの教育学部に備わっています。個性豊かな仲間と互いに高め合いながら自分の興味の対象や視野をいかに広げられるかが学生生活での課題でありまた楽しみなことでもあります。

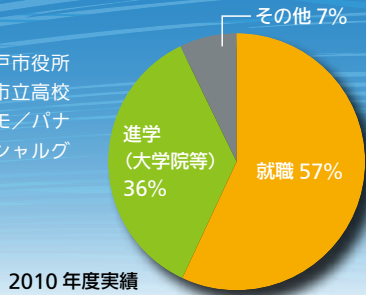


● 卒業後の進路

教育学部の平成 22 年度卒業生は 61 名で、そのうち 35 名（約 57%）が就職しています。その中には教育（学校）関係に就職し、教師等になった人も数名います。また、22 名（約 36%）が大学院に進学しています。残りの 4 名（約 7%）は聴講生等です。

就職先の例

家庭裁判所／三重県庁／神戸市役所
／大阪府立高校教員／京都市立高校
教諭／中部電力／NTT ドコモ／パナ
ソニック／みずほフィナンシャルグ
ループ／東京海上日動火災



● 教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許状の中学校 1 種、高等学校 1 種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に規定する特別支援教育領域に関する科目の単位を修得すれば、特別支援学校教諭 1 種免許状を取得することができます。本学で取得できる免許状は、聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者に関する教育の領域です。

その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事に携わっている学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務に携わる図書館司書の資格を取得することができます。また、教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

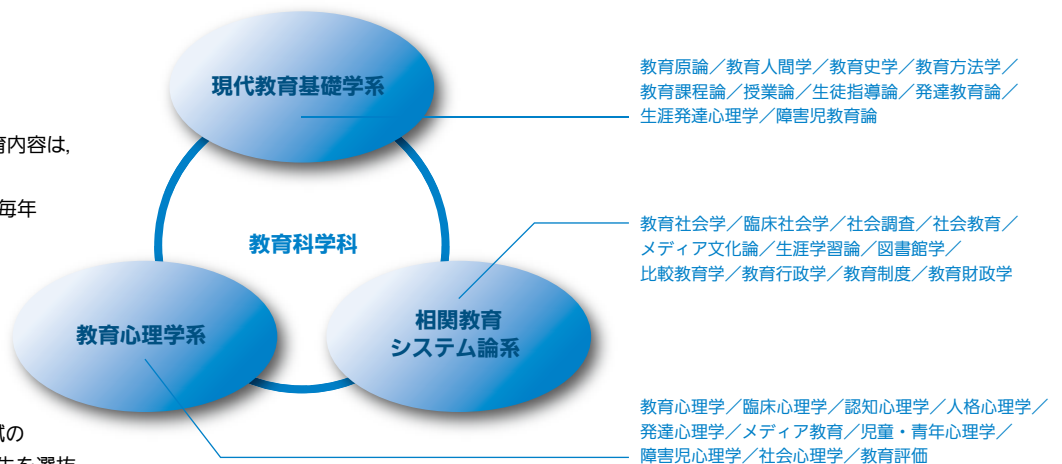
それぞれの大学科目（系）における教育内容は、右のとおりです。

教育学部では、入学者選抜試験により毎年 60 名が入学しており、当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育としての教養科目を受講することができます。

平成 19 年度入試から後期日程試験を廃止し、前期日程試験において、入試の多様化の一環として幅広い分野から学生を選抜することを目的に、「文系」型、「理系」型入試が実施されました。

入学当初は所属系を特定せず、各自が学習を進めながら最も適した道を探して、3 年次に系への分属を決めます。

平成 6 年度（1994）から 2 年次学生に対し、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては単位修得状況等をもとに決定します。



〔写真〕 京都大学教育学部・東京大学教育学部合同公開講座
高校生・大学生・大学院生のための進路セミナー
「学校の先生」という仕事



「やりたいこと、やったもん勝ち、青春なら。」

2011 年卒業
福井放送株式会社
前田 智宏 さん



「自由」を謳う京都大学での 4 年間は、グライダーで空を飛んだり、よさこい祭りで踊ったり、鴨川や大文字山で友人と飲み・語ったり…と正に自由奔放な日々でした。勉学面は決して優秀ではありませんでしたが、教育学部の先生方は、こういった経験を大らかに尊重してくださって、それが自身の人間性を磨くことに繋がったと感じています。また、3 週間の教育実習を通して痛感した、人に何かを教える、すなわち「伝える」ことの難しさ。心理学を学んだ集大成の卒業論文も、この経験に端を発して、人により伝わりやすくことを届ける方法について考えました。今では、ニュースや生活情報を「伝える」アナウンサーという仕事で、人の役に立とうと奮闘中です。色々な経験が、学問にも、人生にも生きてきます。京都大学で、本気でやりたいことを叶えましょう！

「刺激を受けながら成長できる場所」

2011 年卒業
京都市立堀川高等学校教諭
西川 光 さん



「人間」について学びたくて受験した京都大学教育学部。そんな教育学部での日々を一言で表すならまさに「刺激的」でした。日本全国から集まった同級生達は、みなそれぞれに教育に対して熱い思いを持っており、時に冗談を交わし、時に本気で語り合う中で、教育に対する自らの視野を広げることができました。また、学術的な環境も非常に恵まれており、さまざまな視点から教育について学ぶ中で、「教育とは何か？」という問いに対して考えを深めていくことができました。現在は高校で教員をしていますが、教育は一言では表せないものであり、だからこそ面白いと毎日感じています。教育学部は、たくさんの刺激を受けながら大きく成長することができる場所です。みなさんもぜひ教育学部に入学してくださいね。たくさんの刺激がみなさんを待っています！

大学科目（系）紹介

現代教育基礎学系

この系では、教育という人間の営みについての原理や方法、その根底にある人間観、人間が文化、歴史、社会的存在として発達するプロセスに関する研究をおこなっています。根本的かつ複雑な人間の営みを問題とするため、この系の研究方法やアプローチは多岐にわたっています。哲学・思想研究、歴史学、人間学、方法学、発達理論など、広い視野での研究・教育が重視されている点が特徴です。

- 具体的には、以下のような問題を扱っています。
- ・人間形成および教育に関する思考の枠組みはいかにあるべきか（哲学）
 - ・今日の教育の特徴は歴史的にどのような変遷のもとできあがったのか（歴史学）
 - ・人間とは何かという問いとのかかわりで大人と子どもの関係はどのように捉えられるのか（人間学）
 - ・学校教育において、カリキュラムの編成や授業の実践はどのような仕組みと方法で行われるのか（方法学）
 - ・人間の生成や成長発達はどのように捉えられるのか（発達理論）

現代教育基礎学系では、現代の教育や人間に関わる諸問題を学問的に読み解き、教育という営みが実演される日常の舞台においてそれを捉えなおすことのできる幅広い識見、力量の育成を目指しています。そのための、多様で充実したカリキュラム編成がなされています。

教育原理、教育哲学、教育史、教育人間学、教育方法学、教育課程論、授業論、発達教育論、生涯発達心理学、障害児教育論など

教育心理学系

教育心理学系では、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが組まれ、他学部の心理学系教室とも連携して活発な教育・研究活動を行っています。

教育心理学では人の発達の特徴、教授・学習法、知能、メディア教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざします。認知心理学では、記憶、推論、意思決定、他者理解、共感といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに心理実験調査等を実施して各自の研究をまとめます。臨床心理学では人格の形成、心理療法の諸理論、心の健康とストレス等に関する基礎知識を習得し、種々の心理検査の実習を通して臨床実践に役立つ手法を身につけます。教育心理学系では、心の仕組みとはたらしきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本としつつ、大学院進学希望者の指導にも力を入れており、教育心理学・認知心理学・臨床心理学の研究者をめざす人、大学院修了後に臨床心理士の資格取得をめざす人にも適した教育カリキュラムを整備しています。

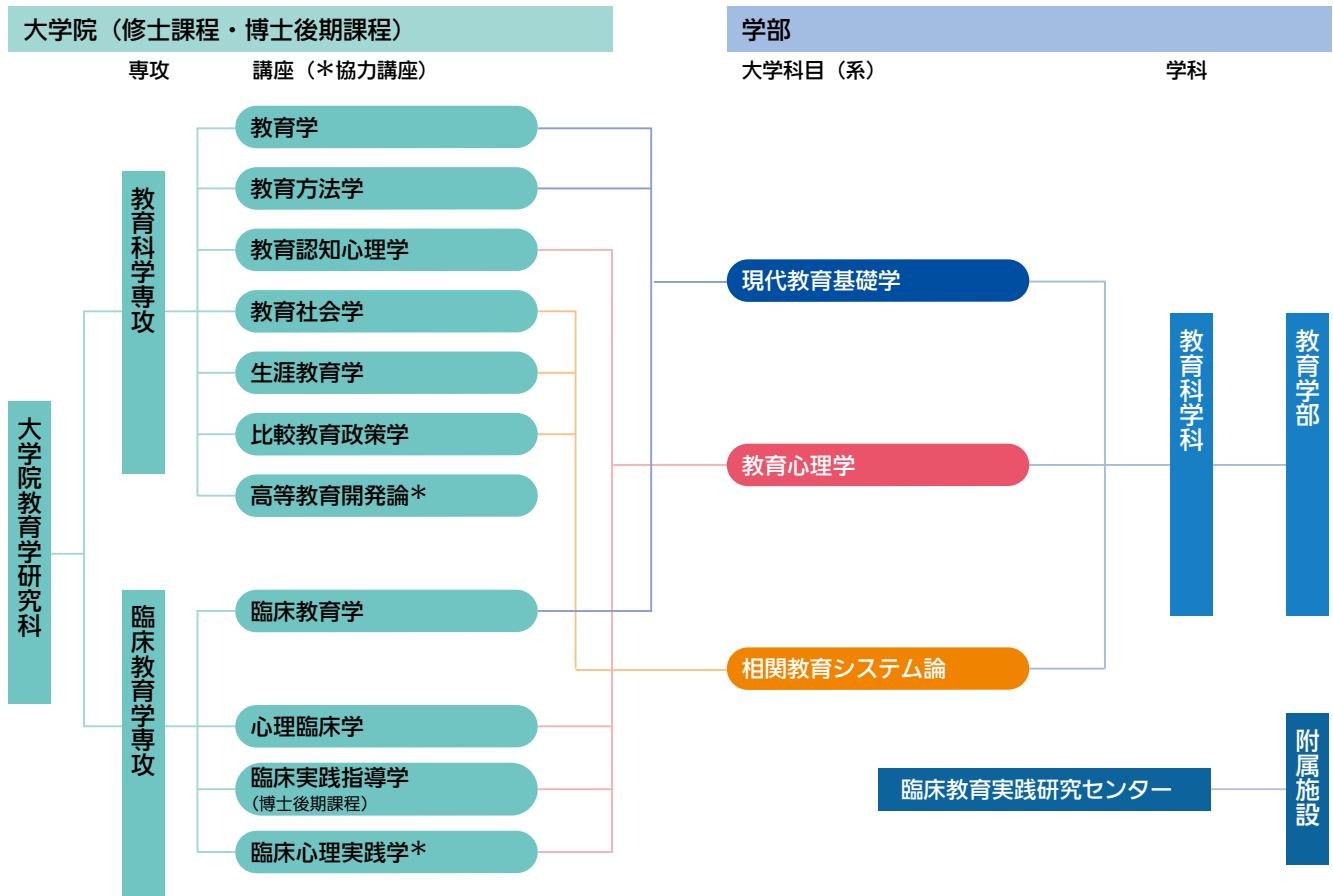
教育心理学、臨床心理学、認知心理学、人格心理学、メディア教育、発達心理学、児童・青年心理学、障害児心理学、社会心理学、教育評価

関連教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。関連教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探求することを目的にしています。教育社会学では、人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学の手法を用いて分析しています。生涯教育学では、図書館やメディアを含んで、生活のなかでの多様な学習のあり方を、とりわけ国際的・歴史的な観点から理論的、実践的な研究をしています。比較教育政策学では、国際的視野に立って、教育制度、政策、実践、理論などの比較考察をしています。また政策科学的視点からは、具体的に教育行財政についての立案などを行っています。学部教育においては、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学、臨床社会学、社会調査、社会教育、メディア文化論、生涯学習論、図書館学、比較教育学、教育行政学、教育制度、教育財政学

教育学研究科及び教育学部における研究・教育の概略図



専門科目

科目(系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
現代教育 基礎学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ, 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育原理Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 教育史概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 教育史, 教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床教育学基礎演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 生涯発達心理学基礎論, 生涯発達心理学講義, 生徒指導論, 障害児教育の教育課程論, 教育方法学基礎演習ⅠA・ⅠB, 教育方法学基礎演習ⅡA・ⅡB, 学校論ゼミナール, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 障害児教育指導法Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ, 聴覚障害教育課程論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論	教育情報学, 教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育史専門ゼミナールⅠA・ⅠB, 教育史専門ゼミナールⅡA・ⅡB, 教育史文献講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育史史料講読演習, 教育人間学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 教育人間学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 臨床教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 発達教育専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 教育方法講読演習Ⅰ・Ⅱ, 発達教育講読演習Ⅰ・Ⅱ	
教育 心理学系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ, 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 認知心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 障害児心理学講義Ⅰ・Ⅱ, メディア教育概論, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学基礎演習A・B, 教育心理学実習A・B, 心理学統計実習A・B, 学校心理臨床概論, 病院心理臨床概論, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 人格心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 児童・青年心理学講義	教育情報学, 応用認知心理学講義, 発達心理学講義, 認知心理学講義Ⅰ・Ⅱ, 比較心理学講義, 神経生物心理学講義, 多変量解析論, 教育心理学コロキウムⅠA・ⅠB, 教育心理尺度開発演習, 教育心理学課題演習, 臨床心理学課題演習, 教育心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学講読演習Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学実習Ⅰ・Ⅱ, 健康心理学講義, 司法・矯正心理臨床概論, 自己と関係性の発達, 児童福祉心理臨床学概論	教育心理学コロキウムⅡ, 臨床心理学研究法実習Ⅰ・Ⅱ
相関教育 システム論系	教育研究入門Ⅰ・Ⅱ, 情報学Ⅰ・Ⅱ	教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 臨床社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 社会学講義Ⅰ, メディア文化論, 生涯学習概論Ⅰ・Ⅱ, 社会教育計画論Ⅰ・Ⅱ, 同和・人権教育論, 図書館情報学概論Ⅰ・Ⅱ, 図書館情報技術論, 図書館サービス論, 資料組織論, 図書館資料名論, 学習指導と学校図書館, 学校経営と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 比較教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 憲法第一部・第二部, 行政学, 財政学, 教育政策学入門, 教育法学, 相関教育システム論基礎演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・Ⅲ, 情報サービス論, 情報サービス論演習, 情報検索演習, 資料組織論演習Ⅰ・Ⅱ, 情報メディアの活用	教育情報学, 社会学講義Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ, 教育社会学講義, 教育社会史, 現代教育社会論, 図書館経営論, 図書館資料論, 比較教育学講義, 行政法Ⅰ部, 教育行政学, 教育経営学Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 社会調査Ⅰ・Ⅱ, 生涯教育学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 図書館情報・メディア学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ, 比較教育学専門ゼミナール, 比較教育学講読演習, 教育政策学専門ゼミナールⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB, 相関教育システム論講読演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	

教職科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	教職教育論, 教育学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育課程論Ⅰ・Ⅱ, 比較教育学, 比較教育制度論, 教育人間学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 授業心理学Ⅰ・Ⅱ, 発達教育論Ⅰ・Ⅱ, 教育社会学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育方法論, 道德教育論, 特別活動の理論と実践, 生徒指導論, 生徒指導の精神と具体的方策, 教育相談, 国語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 社会科教育法Ⅰ・Ⅱ, 地理歴史科教育法, 公民科教育法, 数学科教育法Ⅰ・Ⅱ, 理科教育法Ⅰ・Ⅱ, 英語科教育法Ⅰ・Ⅱ, 保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ, 商業科教育法, 工業科教育法, 農業科教育法, 情報科教育法Ⅰ・Ⅱ, 民族と教育, 同和・人権教育論, フランス語科・ドイツ語科・中国語科・水産科・宗教科の各教科教育法	教職総合演習, 教育実習Ⅰ	教育実習Ⅱ, 教職教育

特別支援教育に関する科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	障害児教育総論, 知的障害者の心理・生理・病理, 聴覚障害者の心理・生理・病理, 肢体不自由者の心理・生理・病理, 聴覚障害教育課程論, 知的障害教育課程論, 肢体不自由教育課程論, 聴覚障害教育総論Ⅰ・Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ・Ⅱ (発達障害), 障害児教育の教育課程論		特別支援教育実習



制度・組織の設計・ 運営を指導できる 人材を育成する

【写真】「民法第三部」の講義風景

法学部

Faculty of Law

法学部のホームページ：

<http://kyodai.jp/>

入学についてのお問い合わせ：

法学部教務掛 tel.075-753-3107

法学部が望む学生像

法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる学力、とりわけ社会科学に関する基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた学生を求めています。

法学部への誘い

法学部は、明治32年（1899年）に法科大学として創設されました。それ以来、すでに33,000余名の卒業生を世に送り出しています。

創設期の教授陣は、自由な学問研究を尊び、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。明治32年から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では、卒業論文制度は残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

発足時の講座数は23でしたが、戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応して次第に拡充をとげ、昭和58年度には、39講座を擁するに至りました。平成4年度か

らは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、従来法学部に配置されていた講座を大学院に配置した21の大講座へと再編するとともに、この大学院講座の担当者が学部教育も担当するとの組織変更がなされました。平成16年4月には、法科大学院の設置に伴い、大学院組織全体が、12の大講座に再編されました。学部の教育も、基礎的・基本的なものに重点が置かれるようになりました。なお、平成18年度には、経済学研究科と協力して、新しい専門職大学院として、公共政策大学院が発足しました。

また、平成19年度には、本学部・大学院の「ポスト構造改革における市場と社会の新たな秩序形成—自由と共同性の法システム—」が日本学術振興会の学術創成研究を内容とする科学研究費補助金の対象研究に採択され、大きな補助金を得て、活発な研究を続けています。

法学部は、国家や社会のあり方を見直したり、組織を運営する際に指導的な役割を果たせる人材を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換期を迎えており、それによって様々な問題が生じています。こうした状況に対応した新しい制度を設計するためには、文化の多様性を尊重し、平和な社会の実現に貢献できる豊かな国際感覚を備え、法律や政治の

仕組みに関する専門的な知識を持ち、社会全体を視野に入れて知識を組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法律学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。

法学部の教育

●卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学は、夏休みを境に、1年を前期と後期の2学期に分けるセメスター制を採用しており、外国語および保健体育科目を除き、半期週1回（90分）の科目は2単位、半期週2回の科目は4単位となっています。卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とにわかれます。教養科目は半期2単位が原則であり、専門科目には、2単位科目と4単位科目とがあります。卒業するためには、教養科目を48単

「自由と自己責任」

法学部4年生

千田 啓太 さん

法学部では、京都大学の「自由」の校風がいきっています。法学・政治学ともに必修科目が無く、自由に選択することができます。学問の探究には、最高の環境が用意されており、政治学・法学分野で著名な教授陣の講義・ゼミを受けることができます。学問の他にも、部活動・サークル活動が盛んであり、このすばらしい環境をうまく利用できるかどうかは、自己責任、つまり、自分自身にかかっています。

また、法学部にはすばらしい友人が多く、良い刺激を受けます。将来の進路は、国家・地方公務員、民間企業、法曹と多様ですが、それぞれが高い目標に向かって努力しています。志を持った受験生のみならず、ぜひ京都大学法学部の門をたたいてみてください。



「京都大学で学ぶ」

法学部4年生

南 知果 さん

法学は実学です。法律の条文も社会において適用されることによって「生きる」といえます。そのための解釈を学ぶのが法学の醍醐味です。

解釈を学ぶ際には多くの文献を読むことは勿論ですが、仲間との議論が有益だと思えます。意見の異なる相手に自分の意見を理解してもらうには、独りよがりの論拠ではなく、論理的で説得力のある主張が必要となってきます。これは法学に限らず様々な場で役に立つスキルではないでしょうか。

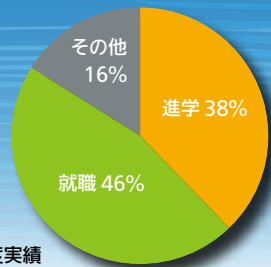
京都大学法学部は、著名な先生方の講義を受け、志が高く優秀な仲間と切磋琢磨することにより自己を成長させられる絶好の場だと思います。こうした環境を生かすも殺すも自分次第というのが京都大学「らしさ」だといえるでしょう。

是非貴方も歴史ある京都の地で自由の校風を自ら肌に感じながら大学生活を送ってみませんか。



● 卒業後の進路

卒業生の進路は、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、大学院進学者の約84%は、京都大学をはじめとする全国の法科大学院に進んでいます。また、平成18年度に設置された京都大学公共政策大学院は、入学者の約25%が本学部の出身です。民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広く広がっています。



2010年度実績

● 法学部で取得可能な資格

法学部では、教育免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

取得できる資格の例：

教育職員免許状（中学1種社会・高校1種公民）

位以上、専門科目については、演習2単位を含む80単位以上を取得しなければなりません。

● 第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、一般教養科目、外国語科目、および保健体育科目からなり、これらの科目は、「全学共通科目」として提供されます。

一般教養科目は、人文・社会科学系科目と自然科学系科目からなります。卒業するためには、人文・社会科学系科目から20単位以上、自然科学系科目から8単位以上取得しなければなりません。

外国語科目は、英語とその他の外国語からなり、英語を8単位以上、その他の外国語のうち一つを8単位以上取得しなければなりません。第一学年における外国語科目は、原則として学部のクラス単位で開講されます。

保健体育科目は、講義と実技それぞれ2単位、合計4単位まで履修することができますが、人文・社会科学系科目または自然科学系科目で代替することもできます。

これらの教養科目は、卒業までのどの学年においても履修することができますが、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1回生、2年生のことを2回生と呼びます。

● 高学年になるほど専門科目の授業が増える

1回生のみが受講・受験することができる専門科目は、半期2単位の、法学入門、政治学入門①・②、家族と法、司法制度論です。

2・3回生担当科目は、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一部、国際機構法です。その他の専門科目は、原則として3・4回生担当科目ですが、2回生も履修できる2・3・4回生担当科目もあります。刑法第二部と民法第二部がこれに当たります。さらに、政治学関連科目と一定の基礎法関連科目からは、それぞれ2科目に限って、2回生も履修ができます。

上記以外の六法系科目や一部の基礎法関連科目は、3・4回生担当科目となっています。経済学部の一部の科目も履修できます。

演習は3・4回生に担当され、半期2単位で、4単位まで履修できます。少人数クラスで周到な予習に基づいた活発な討論が行われています。

● 科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成を通じて、1・2回生では、広く深く教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の本格的な勉強は、それを基礎として3回生以上で行うことが期待されています。必修科目はありませんので、このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。もっとも、専門科目については、学生に対し堅実な学習を促すため、各学期において履修登録できる専門科目の単位数に上限を設けています（キャップ制といいます）。

取扱注意な「自由」

2009年卒業

大学院法学研究科法政理論専攻博士後期課程

阪本 尚文 さん



「自由の学風」は現にあります。上から課題を与えられるのが当たり前という受動的なままの人は、入学するやいなや何をしたいのかかわからず途方に暮れ、豊かすぎる自由をもてあまして乏しい4年（以上？）を過ごすこととなります。他方、自ら質問に行くような能動的な学生には、法学部の先生方は驚くべき学識と深い教養を発揮し、見たことのない世界を拓いてくれるはず。私自身いくつかの演習に出ましたが、そこで出会ったのは、決して偉ぶらず、ユーモアに富み人間的にも魅力がある友人や先生たちでした。サークル活動を含めおもしろい経験を主体的にしたいという意志をもつ方には、全国から京都まで出かけてくるのも価値あることでしょう。

「なりたい自分」の見つかる場所

2011年卒業

大学院法学研究科法曹養成専攻（法科大学院）

秋山 恵里 さん



皆さんは今、どんな自分の将来像を描いていますか？法学部というと、裁判官・検察官・弁護士という法曹三者のイメージが強いかもしれませんが、それが全てではありません。私は漠然と弁護士を目指して法学部に入学しましたが、法学部には国家公務員、公認会計士、一般企業への就職など、様々な分野を志す人がいました。そのため、法学部での4年間は、異なる視点をもった友人達と触れ合いながら多くの選択肢について検討し、自分の将来について考える絶好の機会となりました。そして、法律の専門家として社会貢献したいという信念をもつようになり、法科大学院への進学を決めました。法学部生の可能性は無限です。法曹を志す人はもちろん、進路を明確に定めていない人もきっと、京都大学法学部で自分の進むべき道を切り開くことができるでしょう。

教員紹介

初宿 正典 教授 (憲法)

近代以降のドイツ憲法史にヒントを得つつ、日本国憲法の諸問題を特にドイツ憲法と比較しながら研究しています。

位田 隆一 教授 (国際法)

国際法の観点から生命倫理の研究と実践を進めています。

岡村 周一 教授 (行政法)

行政訴訟法その他行政法の諸問題の研究。

小野 紀明 教授 (政治思想史)

特に20世紀の西洋政治哲学を哲学や芸術思潮と関連させながら研究している。他方で、今日の社会的問題に積極的に対応しようと試みる現代規範理論も、政治思想史を基礎として考察しています。

林 信夫 教授 (ローマ法)

ローマ社会における契約法を中心に、法の存在態様、展開過程の歴史的メカニズムの解明に取り組んでいます。

大石 眞 教授 (憲法)

民主制・議会制度を中心とした憲法学の研究を行うとともに、日本憲法史や宗教法制などを考察しています。

伊藤 之雄 教授 (日本政治外交史)

日本の政党政治や外交の発達過程や近代・現代国家の展開と共に、伊藤博文・原敬・吉田茂などの有力政治家を考察しています。

山本 豊 教授 (民法)

契約の内容規制、消費者契約、電子契約など現代契約法の先端的問題の研究。

寺田 浩明 教授 (中国法制史)

伝統中国における法(成文法や裁判や契約)のあり方を比較法制史的視点から研究しています。

高木 光 教授 (行政法)

行政活動を適正妥当なものにするための法的ルールはいかにあるべきかを研究しています。

木南 敦 教授 (英米法)

アメリカ合衆国の法制度について比較という観点を取り入れて研究しています。憲法、信託法、小切手法とさまざまな取り上げています。

松岡 久和 教授 (民法)

不動産物権変動論、金融・担保法、不当利得法などを具体的な各論の中心に置き、最終的には民事財産法の構造をどう捉えるかを研究しています。

真淵 勝 教授 (公共政策)

日本官僚制の研究。とくに経済官庁が対象である。ゼミでは市町村合併や年金など、近年話題になっている政策テーマが取り上げられています。

新川 敏光 教授 (政治過程論)

福祉国家の構造、その発展と再編の政治について、比較論的に研究しています。

川瀨 昇 教授 (経済法)

独占禁止法と証券取引法を中心に経済法の全般を法と経済学的手法も利用しつつ分析しています。

村中 孝史 教授 (労働法)

雇用されて働いている人たちの労働条件や、労働組合をめぐる法律関係について、教育・研究を行っています。

浅田 正彦 教授 (国際法)

国際法上の諸問題につき軍縮や武力行使、国連の制裁などを素材として研究しています。

潮見 佳男 教授 (民法)

民事責任の基本問題。

亀本 洋 教授 (法理学)

正義論と法学方法論を中心に、法理学または法哲学と呼ばれる分野の研究と教育を行っています。

酒巻 匡 教授 (刑事訴訟法)

刑事手続法の基本問題。

山本 克己 教授 (民事手続法)

民事手続法の基本問題。

岡村 忠生 教授 (税法)

国際課税の諸問題、特に多国籍企業への課税や、個人所得課税の基本問題について、研究を進めています。

洲崎 博史 教授 (商法)

保険契約法の基本問題。

前田 雅弘 教授 (商法)

株式会社の適切な管理運営を確保するために、法はどうあるべきかという問題を中心に研究しています。

鈴木 基史 教授 (国際政治経済分析)

国際紛争・協調の実証的・理論的分析。

山本 敬三 教授 (民法)

「法体系における私法の役割」という観点から、憲法と私法の関係、契約規制の法理、不法行為法の再構成を中心に研究しています。

北村 雅史 教授 (商法)

企業の健全性確保の見地から、経営者の義務・責任や経営機構に関する会社法制のあり方について研究しています。

塩見 淳 教授 (刑法)

市民の安全確保と自由領域の保障とをともに満たしうるような刑法を求めて研究・教育を行っています。

服部 高宏 教授 (ドイツ法)

現代ドイツにおける法形成過程に関する研究。ケアの法制度化をめぐる諸問題に関する研究。

伊藤 孝夫 教授 (日本法制史)

日本法制史全般にわたる諸問題、日本近代法の形成と展開。

秋月 謙吾 教授 (行政学)

中央地方関係にかかわる官僚制の研究。

横山 美夏 教授 (民法・フランス法)

所有に関わる法律問題について、フランス法と日本法とを比較検討しながら研究しています。

中西 寛 教授 (国際政治学)

国際政治の歴史的展開。

佐久間 毅 教授 (民法)

権限のない者がおこなった契約などの取引の効力をどのように考えるべきかを、主に研究しています。

笠井 正俊 教授 (民事訴訟法)

民事訴訟における審理の在り方、専門的知見を要する訴訟に特有の問題等を中心に研究を進めています。

唐渡 晃弘 教授 (政治学)

ヨーロッパ政治外交史、とくに民族問題と国民国家の研究。

酒井 啓亘 教授 (国際法)

国連の平和維持機能を国際法の観点から研究しています。

土井 真一 教授 (憲法)

憲法の基本原理、とりわけ法の支配と司法権・違憲審査制論について、研究を行っています。

毛利 透 教授 (憲法)

民主主義と表現の自由の基礎理論、統治機構改革、憲法訴訟論などを研究しています。

建林 正彦 教授 (政治学)

選挙制度や執政制度などの政治制度と、政党組織や議員行動との関係について研究しています。

山田 文 教授 (民事手続法)

民事紛争解決手続(訴訟外手続を含む)について、制度論的・法解釈論的なアプローチで研究しています。

高山 佳奈子 教授 (刑法)

因果関係や故意・責任能力といった犯罪の成立要件、および犯罪に対する刑罰のあり方を研究しています。

中西 康 教授 (国際私法)

国際民事手続法の基礎理論及び欧州統合における法
の役割について研究しています。

橋本 佳幸 教授 (民法)

不法行為法を中心に、民事財産法の直面している現
代的諸問題について研究・教育を行っています。

待鳥 聡史 教授 (アメリカ政治)

議会と大統領が別個に選ばれる「二元代表制 (権力
分立制)」下で、政策決定に大きな権限を持つ議会の
研究を行っています。

安田 拓人 教授 (刑法)

刑事制裁の根拠を探りながら、責任能力論、量刑論、
心神喪失者等医療観察法の諸問題等に取り組んでい
ます。

濱本 正太郎 教授 (国際機構法)

国際法の基礎理論 (特に法律行為・解釈) について、
領域・海洋・国際機構・経済・人権など様々な分野
を題材に研究しています。

堀江 慎司 教授 (刑事訴訟法)

伝聞法則をはじめとする刑事証拠法を中心に、刑事
手続法全般について研究、教育を行っています。

船越 資晶 教授 (法社会学)

批判法学の法・社会理論について研究を行ってい
ます。

森川 輝一 教授 (政治思想史)

ハンナ・アーレントの政治思想の解明を中心に、西
洋政治思想史および現代政治理論の研究に取り組ん
でいます。

中田 昭孝 教授 (民事裁判実務)

民事訴訟法などの理論を民事裁判の実務の観点から
研究・教育を行っています。

大山 隆司 教授 (刑事裁判実務)

刑事手続法などの理論を刑事裁判実務の観点から研
究・教育しています。

林 醇 教授 (民事裁判実務)

民事訴訟法などの理論を民事裁判の実務の観点から
研究・教育を行っています。

松田 一弘 教授 (知的財産法)

特許権侵害訴訟及び特許審決取消訴訟を中心に研究
しています。

天野 佳洋 教授 (企業法務・信託法)

企業の資金調達ニーズと資金の出し手である投資家
をリンクさせるファンドと証券化を研究しています。

西村 朗太 教授 (刑事実務 (検察実務))

刑事事件の捜査・公判実務について、検察官の観点
から、研究・教育しています。

島田 幸典 准教授 (比較政治学)

英独を中心とするヨーロッパの諸国家について、歴
史的観点から比較研究を行っています。

深澤 龍一郎 准教授 (行政法)

行政機関が裁量権限を行使することによって発生す
るさまざまな法的問題について研究を行っています。

南 京兌 准教授 (公共政策)

日本・英国・韓国といった国々における公共政策 (民
営化、官僚制、地方分権など) の比較研究を行って
います。

稲森 公嘉 准教授 (社会保障法)

社会保障の法理論及び法制度について、主に医療保
障のしくみを中心に研究を行っています。

曾我部 真裕 准教授 (憲法)

憲法で保障された表現の自由、特にマスメディアの
自由について研究しています。

齊藤 真紀 准教授 (商法)

会社における関係者間の利害調整枠組みの研究を
行っています。

奈良岡 聰智 准教授 (日本政治外交史)

大正期を中心とする近代日本の政党政治、政官関係、
日英関係について研究しています。

増田 史子 准教授 (国際取引法)

国際商取引法、とくに国際運送を中心に、貿易取引
の私法的規整について研究しております。

愛知 靖之 准教授 (知的財産法)

特許法、とりわけ特許発明の技術的範囲画定に関す
る諸問題を中心に研究を行っています。

佐々木 健 准教授 (ローマ法)

日本や西洋の法の源流に位置するローマ法において
私人が利益を実現回復する紛争解決手段を研究して
います。

高谷 知佳 准教授 (日本法制史)

前近代日本の社会と秩序の多面性について研究して
います。

西内 康人 准教授 (民法)

団体とされる人々の関係について、契約に関する原
則の機能変化と、その原因について研究しています。

木村 敦子 准教授 (民法)

家族法 (親族法、相続法)、とくに法的親子関係の成
立、効果に関する諸問題について研究しています。

稲谷 龍彦 准教授 (刑事学)

刑事司法制度の形成・運用にあたって、各国家機関、
特に国会・裁判所の果たすべき役割について考察し
ています。

山下 徹哉 准教授 (商法)

会社法、特に株式会社における株主の地位・権利関
係について研究しています。

エスタ ティナ オットマン 准教授 (国際公共政策)

国際関係、特に中東地域の紛争・紛争解決を研究し
ています。

専門科目 (平成 23 年度開講分)

法学部専門科目	経済学部開講科目	演習
法理学、法社会学、日本法制史、西洋法制史、ローマ法、東洋法史、英米法概論、ドイツ法、憲法第一部、憲法第二部、行政法第一部、行政法第二部、税法、国際法第一部、国際法第二部、国際機構法、民法第一部、民法第二部、民法第三部、民法第四部、商法第一部、商法第二部、経済法、民事訴訟法、国際私法、国際取引法、労働法、社会保障法、刑法第一部、刑法第二部、刑事訴訟法、政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策、法学入門、政治学入門①、政治学入門②、司法制度論、家族と法、外国文献研究 (英・独・仏)、特別講義 (日本政治思想史、外交史、アセット・マネジメントの実務と法、国際生命倫理法)、特殊講義 (犯罪学)、演習	ミクロ経済学 1、ミクロ経済学 2、社会経済学 1、社会経済学 2、経済政策論、財政学、租税論、経済史 1、経済史 2、金融論、基礎統計学、経済統計学、経営学原理、会計学 1、会計学 2、経済学史、社会政策論、公共経済学、公共政策論	法理学、法社会学、日本法制史、ローマ法、東洋法史、英米法、ドイツ法、憲法、行政法、税法、国際法、国際機構法、民法、商法、経済法、国際私法、労働法、刑法、政治原論、政治過程論、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策



未来を切り拓く柔軟な 思考力と想像力を培う

【写真】川北教授のゼミ風景

経済学部

Faculty of Economics

経済学部のホームページ:

<http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

経済学部教務掛 tel.075-753-3406

経済学部が望む学生像

経済学部の教員たちは、経済学・経営学の教育は、すぐに役立つ知識を与えることではなく、学問的基礎のうえに柔軟な思考力と創造性を備えさせることだと考えています。そのため、大学において意欲をもって学び、社会に出てからの経済活動においても自分を成長させ続けようとする学生を望みます。経済学部は、これまで、産業・経営・学術・行政などの領域で活躍する人材を多数生み出しました。経済学部は、このような良き伝統を継承し、そこに自分なりの発展を付け加えようと思欲する学生諸君が入学してくることを望んでいます。

なお、経済学部は、平成21年度入試から高等学校の文系の教育課程に対応した一般学力検査による選抜(190名)だけでなく、理系の教育課程に対応した学力検査による選抜(25名)、論文を重視した選抜(25名)にも定員の一部を割いています。それは、数学などに現れる理科的才能や読解力と結びついた論文作成に現れる文科的な才能が経済学にむすびつくことを期待しているからです。

経済学部への誘い

伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919(大正8)年に法学部(法科大学)から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899(明治32)年から経済学関連の講義がスタートしていましたが、その歴史は日本でも一、二という伝統をもっています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2006年に経済学部・経済学研究科を母体として、新たにMBA取得コースとして経営管理大学院を開設しました。

自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけではなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から自主的に選択し、

自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

また、本学部では、創立以来、演習(ゼミナール)制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

多様性と国際性

本学部は、論文入試をはじめ、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は大学院生を含めると京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。

在学生メッセージ

新たな「発見」をしたい人に…

京都大学経済学部3回

毛利 浩明 さん

京都大学経済学部の魅力は経済学から経営学、数学や会計学など、経済学部としては他大学に類をみないほど幅広い科目を自由に履修できることです。

私も最初は経済学がカバーする学問的な範囲の広さに驚きましたが、さまざまな分野を勉強する中で、現在、ゼミでファイナンス工学を専攻し、昨今の金融危機を踏まえたリスク管理について勉強しています。

また、私の知り合いのなかでは大学の制度を利用して留学したり、国際系のサークルで海外まで行って活動する人が多く、京大には国際社会に飛び出す志がある人に応える環境も整っているといえるでしょう。

以上のように京都大学経済学部は、自由な校風の下、やる気・志のある人が求めれば経済学や経営学の幅広い知識や切磋琢磨する友人など、想像もしないほどたくさんのものが得られる場所です。



「自分らしさの実現」

経済学部3回生

田窪 裕美子 さん

京都大学の1番の特徴は「自由な校風」です。サークル活動やバイトに打ち込んだり、外国に留学したり、学びを追求したりと、それぞれが自分の思い描く大学生活を実現することができる環境です。私自身も思い立ってすぐに旅行にでかけたり、興味のあることを他学部の授業に出て学んでみたりと、この自由な環境を享受しています。私の周りもそれぞれが思い思いに大学生活を楽しんでいる人ばかりです。また、個性溢れる様々な人との出会いがあり、様々な経験を通して日々成長する自分を実感しています。自由な環境であると同時に自分の学びたいことを深く掘り下げていく環境も京都大学には備わっています。ぜひ、みなさんにも京都大学で自分らしい充実した大学生活を送ってほしいです。

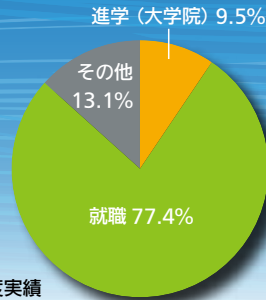


● 卒業後の進路

京都大学経済学部はすでに80年余の歴史があり、多数の個性的な人材を社会に送り出してきました。学界のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界・実業界のトップリーダーも少なくありません。毎年約1割の学生は大学院へ進学しています。

就職先の例

三菱東京UFJ銀行／丸紅／野村證券／あずさ監査法人／電通／三菱商事／住友信託銀行／野村総合研究所／監査法人トーマツ／サントリーホールディングス／新日本製鐵／関西電力／大阪ガス／三井物産／住友商事／三菱UFJ信託銀行／池田泉州銀行



2010年度実績

● 経済学部で取得可能な資格

大学を除くすべての国公立、私立学校の教員となるためには教育職員免許状が必要です。経済学部は教員免許状についての課程認定を受けており、教育職員免許法に定められた所要の単位を修得すれば、次の種類の免許状が取得できます。

高等学校教諭：「地理歴史」、「公民」、「商業」
中学校教諭：「社会」

経済学部の教育

● 4つのコースを設置

経済学部は、経済と経営、経済学と経営学の相互依存関係を重視して、平成21年度から経済学科と経営学科の2学科を経済経営学科1学科に統合しました。学科による区別のない1学部1学科の体制のもとで、「理論・歴史コース」「政策コース」「マネジメントコース」「ファイナンス・会計コース」という4つのコースが示されていて、そのガイドにしたがって専門科目を履修することによって、コースそれぞれの特性に応じた専門化がはかれるようになっていきます。1学年は前期と後期の2セメスターにわかれ、1セメスターにわたり毎週1回の授業を履修して試験に合格すれば2単位が得られます。学部科目はすべて選択科目ですが、入門科目、専門基礎科目、専門科目Ⅰ、専門科目Ⅱと年次配当によって階層化されています。

● 第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、全学共通科目によって語学学習や教養学習をおこなうだけでなく、入学したばかりの学生に、不足した知識を補い、自立した学習力をつけさせるための「入門演習」と9つの入門科目（マイクロ経済学入門、マクロ経済学入門、社会経済学入門、基礎統計学、経

済史・思想史入門、現代経済事情、経営学入門、会計学入門、情報処理入門）によって、経済学・経営学の専門学習のための準備をすることになります。

● 第2学年から学ぶこと

第2学年からは「専門基礎科目」及び「専門科目Ⅰ」の授業群、第3学年からは「専門科目Ⅱ」の授業群が取れるようになります。

第3学年以上になると、経済学・経営学の専門科目だけでなく、法学部が提供する法学や政治学の科目もとれるようになります。また、高度な学習を求める学生には、大学院と橋渡しする大学院共通科目も履修できます。

● 少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習（ゼミナール）です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的なテーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉学意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強を通じて身につけた能力は、一生役立つと思います。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

● 「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方が生まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育まれてきたものをしっかり勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積み重ねなければならないことと同じです。経済学の考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことのできる場所が京都大学経済学部です。

卒業生メッセージ

「求めるものが見つかる場所」

2005年卒業
公認会計士（新日本有限責任監査法人勤務）
天野 丈さん



私は、京大経済学部の自由で開放的な学風の下、学部時代は島本ゼミで金融論やマクロ経済学を学び、大学院時代は徳賀ゼミで会計学を学びました。

そのような学生時代に得た私の財産は、深い学識を基にアドバイスしてくださる先生方から学んだ無知の知に基づく真摯な態度と知的で自由な議論を戦わせたゼミの先輩や仲間たちから学んだ深い探究心の大切さです。

私は、現在、公認会計士として上場企業などの財務諸表監査の仕事をしています。公認会計士として、深い専門知識をもとにした真摯な態度によりお客様から信頼されることや、新しい専門的な問題にキャッチアップしていくことが非常に重要ですが、私は、京大経済学部で学んだ経験を糧に、日々精進しています。

皆さんが京大経済学部で何を学ぶかは自由ですが、求めるものが見つかるでしょう。

「帰りたくなる場所」

2010年卒業
サントリー食品株式会社勤務
朝岡 あゆ美さん



私にとっての京都大学は、慣れ親しんだ思い出がたくさんあり、くじけそうになったときには励ましてくれる人がいる場所です。また、ゼミや授業から学ぶ知識、友人や先生と交わす会話など、何気ない日常の中に、たくさんの成長のヒントが詰まった場所でした。今でも帰省のついでにルネ（食堂）に寄ってパフェを食べたり、ゼミの同期と長電話をしていると、時折大学生活の続きをしているような気分になるところがあります。

私はこの春から飲料メーカーで働いています。黒烏龍茶のマーケティングをする部署に配属となり、キャンペーンの運営や、消費者調査への同席など、新しいことづくめの毎日です。そしていつかは自分が開発した商品が京大生協に並び、今これを読んでくださっているあなたにお届けできる日が来ればいいな、なんて思っています。

入門科目紹介

ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心にした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればよいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。

基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だった様です。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測ることなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計、など応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検証を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

経済史・思想史

温故知新という言葉を知ってますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考えてみたり、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想法を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありえません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いていますので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となってきています。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させてくれると思います。

会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基いて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するためだけに活用されるではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。

講座・教員一覧

専攻名	講座名	教授	准教授	講師	助教	助手
経済学	経済理論	小島 専孝 宇仁 宏幸	遊喜 一洋 若井 克俊 ディミター・ヤルナゾフ			
	統計・情報分析	大西 広	飯山 将晃 矢野 剛		白井 亨	
	歴史・思想分析	田中 秀夫 堀 和生	坂出 健 竹澤 祐丈			
	比較制度・政策	岡田 知弘 久本 憲夫 岩本 武和 黒澤 隆文 久野 秀二	神事 直人			
	金融・財政	植田 和弘 島本 哲朗				
	市場動態分析	西牟田 祐二 諸富 徹	敦賀 貴之			
	現代経済学	成生 達彦 塩地 洋 根井 雅弘 依田 高典	渡邊 純子 稲葉 久子			
	国際経営・経済分析	劉 徳強	菊谷 達弥 宇高 淳郎			
	経営管理・戦略	武石 彰 若林 靖永	曳野 孝			
	市場・会計分析	藤井 秀樹 文 世一 末松 千尋 若林 直樹 澤邊 紀生	草野 真樹			
	事業創成	日置 弘一郎 徳賀 芳弘 梶山 泰生				
	ファイナンス工学	江上 雅彦				
	ビジネス科学		松井 啓之			
	プロジェクトセンター	加藤 康之	佐々木 啓明	末石 直也		

専門科目

1・2 回生	2 回生～	3 回生～
<ul style="list-style-type: none"> ●入門演習 ●入門科目 ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、社会経済学入門、経済史・思想史入門、現代経済事情、経営学入門、会計学入門、基礎統計学、情報処理入門	<ul style="list-style-type: none"> ●専門基礎科目 ミクロ経済学 1, ミクロ経済学 2, マクロ経済学 1, マクロ経済学 2, 社会経済学 1, 社会経済学 2, 経済史 1, 経済史 2, 経済政策論, 財政学, 金融論, 計量経済学, 経済統計学, 経営学原理, 経営戦略, 経営組織 1, 経営組織 2, マーケティング 1, マーケティング 2, 経営財務, 会計学 1, 会計学 2 <ul style="list-style-type: none"> ●専門科目 I 社会思想史, 日本経済論, 公共経済学, 社会政策論, 経済数学 1, 経済数学 2, 経営史, 財務会計, 管理会計, 組織経済論, 情報処理論 1a, 情報処理論 1b, 情報処理論 2a, 情報処理論 2b, 経済学史, 日本経済史, 欧米経済史, 工業経済論, 農業経済論, 国際経営史, 証券投資論, 派生証券論, ファイナンス工学, 保険論, 比較経営論, IT ビジネス論, 行動経済学, 開発経済論	<ul style="list-style-type: none"> ●専門科目 II 社会経済変動論, 経済哲学, 意思決定論, 計画理論, 経営情報論, アジア経済史, ヨーロッパ経済論, 比較経済システム論, 市場経済移行論, 地域産業論, 地域開発論, 租税論, 公共政策論, 地方財政論, 財政政策論, 医療経済学, 交通経済論, 情報・通信産業論, 現代経済思想, 産業組織論, 産業・企業成長論, 東アジア経済論, 現代日本産業論, 人的資源管理論, オペレーション・マネジメント, 都市経済学, 流通論, 会計監査論, 経営分析論, 原価計算論, 国際会計論, 国際経営論, 世界経済論, 国際経済学, 国際金融論, 労働経済論, 国際農政論, 金融政策, イノベーション・マネジメント概論, 市場構造と企業戦略, 環境経済論, 事業創成

学部紹介

特殊講義（※は大学院共通科目）	「特別科目」及び「演習」	留学生対象科目
アカデミック・ライティング入門, 実践簿記 I, 実践簿記 II, 実践簿記 III, 実践簿記 IV, *応用計量経済学, *思想史の方法と対象, *国際財政論, *金融システム論, *数理経済学, *国際マーケティング, *応用ミクロ分析とゲーム論, *経営と起業会計, *経済情報調査論 1, *経済情報調査論 2, 進化経済学, *社会経済学・理論 A, *社会経済学・理論 B, *社会経済学・理論 C, *労使関係論, *経済学のための数学, *現代マーケティング, *企業金融のフロンティア, *財務戦略論, 京都経済論, *社会経済学・古典研究 A, *社会経済学・古典研究 B, 税務会計論, 国際税務論, *先端バンキング論, 啓蒙と現代の社会思想史, アセットメントマネジメントの実務と法, *国際貿易論, 関西経済論, *最近の経済哲学の論点	外国経済書講読, 演習, 卒業論文	基礎経済比較論, 基礎企業ガバナンス論, 基礎人的資源論, 基礎組織行動論



自然への疑問。 自然からの声。 そして自然の理に学ぶ。

【写真】地質学鉱物学分野の地質調査実習風景

理学部

Faculty of Science

理学部のホームページ:

<http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

理学部学務掛 tel.075-753-3637

理学部が望む学生像

- ・ 自由を尊重し、既存の権威や概念を無批判に受け入れない人
- ・ 自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人
- ・ 優れた科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を擁し、粘り強く問題解決を試みる人

理学部への誘い

自然はどのようになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を持つ人達が、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

理学部は、京都大学の中でも最も長い歴史をもつ学部で創立以来何度かの改革を行ってきましたが、最近の大きな改革は1994年に理学科のみの一学科制が発足したことです。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を

可能にし、同時に従来からの学問分野の枠組みにとられない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育てていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著名な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。

また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野を幾つも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくられるものではありません。このような環境において、グローバルCOE拠点として、4つの教育研究計画が評価され、プロジェクト遂行のため活動しています。

理学部の教育

●理学部の教育理念

教育目標

- ・ 自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- ・ 個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

教育の特徴

- ・ 自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にし、自律的学修が推奨される学風
- ・ 理学科のみの1学科制
- ・ 緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

●理学部の教育方針

1年次・2年次では、主として全学共通科目と専門基礎科目を履修する。

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目、外国語科目、保健体育科目などと、学部科目のうち専門基礎科目を主として履修します。これらの科目は、大学院人間・環境学研究科及び理学研究科を実施責任部局として全学部ならびに研究所、研究センターなどにより、全学部の学生を対象に開講されています。また、講義以外にも演習、ゼミナール、講読、

「学ぶ」姿勢を創ろう

理学部物理科学系3年生

小幡 一平 さん

ここ京都大学理学部は、サイエンスを学ぶ上で必要な環境、講義、学友全てにおいて恵まれており、履修したい科目に制限が無く勉強意欲を最大限に生かす事ができるので、将来研究者志望の方にとっては間違いなく期待に応えてくれる場所です。自分は物理を専攻しており、実験や講義のレポート等で忙しい反面、専門化が進むにつれ以前から興味があった素粒子論や宇宙論に一層取り組める様になりました。学生同士がゼミを開いて自主的に勉強するのは勿論、最先端の理論や未知なる物理現象の話題を大いに交歓出来る雰囲気があるのも理学部の魅力です。

大切な事は、向上心を持ち、科学に対する好奇心の芽を膨らませて、勉学に積極的に取り組める姿勢をこの四年間で創る事だと思います。洗練された科学を享受したい方は是非目指して下さい。



「最高の環境を開拓しよう」

理学部化学系4年生

武田 公利 さん

理学部は3年生になるまで専攻が決まらず、1、2年生の間に様々な分野の講義を自由に選択して、その中で興味を持った分野に進むことができます。化学系では3年生で学生実験を通じて様々な化学現象を体験し、4年生で研究室に配属されます。私が所属している研究室では化学反応の過程を時間変化で追って解明する研究を行っています。

この大学の素晴らしいところは積極的に求めれば、それに応えて最高の環境が必ず見つかることだと思います。研究室の扉を叩けば世界の最前線で研究をする先生方、図書館には何万冊もの蔵書、そして志を共にする仲間達。「自由の校風」とあるように自分が興味をもったテーマに自由にアプローチできる環境が京都大学理学部には必ずあります。

学問に謙虚な姿勢は要りません、あなたの知的欲求を爆発させてください!

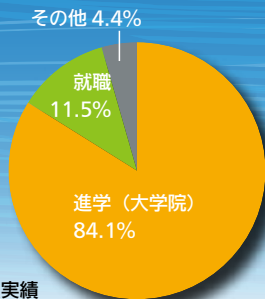


● 卒業後の進路

卒業後大学院に進学する者が全体の5分の4以上に達し、博士の学位取得者は毎年100人を超えています。卒業後民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分の1程度です。

就職先の例

住友信託銀行／三井住友銀行／AIG スター生命／監査法人トーマツ／新興出版／阪急阪神百貨店／電通／全日本空輸／伊藤忠商事／日本食研／住友金属工業／ソニー／東芝／テス・エンジニアリング／理化学研究所／ヤフー／JMS／テクノスジャパン／SMG／オービック／ドワンゴ／Z会／浜学園／アップ／Westa／公立学校教員／私立学校教員／国家公務員／地方公務員



2010年度実績

実験、実習など様々な形で授業は行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

全学共通科目に関しては、以下のように大まかに言ってA～Dの4群とそれらの組み合わせばかりから成っています。

- A 群科目 人文科学及び社会科学系科目
- B 群科目 自然科学系科目
- C 群科目 外国語科目
- D 群科目 保健体育科目
- A・B 群科目 科学論など
- A・C 群科目 日本語（留学生対象）
- B・D 群科目 健康科学など

少人数クラスを設け履修を円滑に進める。

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終わりまでに取得する必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあれば相談できるよう、理学部教員2人が対応する少人数クラス（10数名）が設けられています。

科目履修の時系列的な目安

※色の濃い（*の多い）マスほど履修の必要性が高いことを意味しますが、学修の効果という視点で判断したものであり、例外は多々あります。
※専門基礎科目は自然科学の基礎的事項を扱い、専門科目を履修する上で基礎となる科目です。

3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する。

理学部は理学科1学科とし、この学科には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

- 数理科学系：数学
- 物理科学系：物理学、宇宙物理学
- 地球惑星科学系：地球物理学、地質学鉱物学
- 化学系：化学
- 生物科学系：動物学、植物学、生物物理学

系登録は、2年次の終りの時期に行います。3年次では、これらのいずれかの系に属し、その系が担当する課題演習を履修し、4年次においては卒業研究（講究（数理科学系）または課題研究）を履修します。

学部科目としては、専門基礎科目と専門科目とがあります。これらの科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。特に専門科目は履修単位の上限はありません。これは広く浅く学ぶことを薦める意図ではなく、年次とともに履修科目の専門化の程度を進めて、

● 理学部で取得可能な資格

理学部では、教育職員免許状の高等学校教諭一種免許状（数学・理科）と中学校教諭一種免許状（数学・理科）の課程認定を受けています。

数理科学系・物理科学系・地球惑星科学系の卒業生については、測量法施行令第14条第1項に規定する「相当する学科」としての認定を受けていますので、所定の科目を履修することにより、測量士補の資格を取得することが可能です。

また、学芸員資格についても、必要な科目を修得することにより取得することが可能です。

自己に適した専門的課題を見つけて、それに関連する分野の科目を重点的に履修し易くするためのものです。

4年次では卒業研究に取り組む。

4年次では、数理科学系では講究と呼び、他の系では課題研究と呼ばれる卒業研究が必修科目になっています。この科目の履修においては、学生は、個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力をつけます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

学部3年次から大学院への入学について。

大学院理学研究科は、数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に3年以上在学した者で所定の科目とそれを優秀な成績で単位取得したと理学研究科が認めた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。また、全ての専攻の修士課程または博士後期課程において、特に優秀と理学研究科が認めた者に、それぞれ、1年で修士の学位が、または修士課程と合計して3年の在学中で博士の学位が授与されることがあります。

	一回生	二回生	系登録	三回生	四回生	単位数
一般教養科目	*****	*****	系登録	***	***	16～24
外国語科目	*****	*****				10～12
保健体育科目	***	*****		*	*	0～4
専門基礎科目	*****	*****		**	**	24～38
専門科目	**	***		****	*****	82～54
卒業研究科目(専門科目)				**	*****	

卒業生メッセージ

「最高の環境の中で学ぶ」

2011年卒業
京都大学大学院理学研究科
物理学宇宙物理学専攻物理学第一教室修士課程1回生
加藤 直人 さん



この学生達はみな、自由な雰囲気の中でのびのびと勉学に励んでいます。私が学部生の頃は、寝る暇も惜しんでよく学び、よく遊んでおりました。大学での四年間は、おそらく一瞬で過ぎ去ります。しかし、そこには濃密な時間を過ごしたという何事にも代え難い充足感が残るはずであり、加えて、生涯の財産となる貴重な経験が得られることでしょう。私の場合、宇宙論の卒業研究をする傍らで、もともと興味があった物性理論のゼミに潜り込ませていただきました。分野の垣根にとらわれず、求めれば求めるだけ際限なく学問の世界に浸ることを可能とするのが京大理学部の特徴です。学ぶのに最高の環境が与えられ、あなたの飽く無き好奇心と豊かな独創性を受け入れるシステムが完備されている。それが京大理学部です。ぜひ、挑戦してみてください。

「人とは違うことを求めて」

2011年卒業
京都大学大学院理学研究科
地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室修士1回生
東野 文子 さん



京大理学部へ行けば楽しい大学生活が送れるに違いない。私はそんな漠然とした理由でここへやって来ました。そして、ふらふらと面白そうなることを探していたところ岩石学に出会い、現在は石と仲良くする日々を過ごしています。友人に「岩石学やってるねん。」と言うとなぜかよく笑われますが・・・
もちろん、私とは違って明確な目標を持って入学した人も多くいましたが、ここは京大。同じ人間とは思えないくらい優秀な同級生に囲まれて、興味の向く分野を探すのもいいものです。理学部にはみなさんが初めて聞くような学問が沢山あると思います。是非、未知の学問に出会い、その楽しさに気付く瞬間を味わってもらいたいです。
ちなみに軽いノリで理学部に入った私は、素敵な先生や仲間と囲まれて、なかなか抜け出せそうにありません(笑)。

各系の紹介

数理科学系

数学は、数、図形、数量の変化などの背後にある法則を明らかにすることを旨とする学問です。その長い歴史のなかで確固とした体系を築いて来ましたが、現在でも多くの新しい問題が、その内部から、あるいは物理学、地球惑星科学、化学、生物科学など他の科学からの影響の下に生まれ、それらを解決するために新たな理論が次々に創出されています。また数学は、その普遍的な性格により、自然科学は勿論のこと、情報科学、経済学など多くの分野とのつながりを持つようになっています。数理科学系においては、20世紀前半までに確立した、代数学、幾何学、解析学の基礎を広く学習するとともに、最近の発展しつつある数学を目標として学びます。

数論、代数学、幾何学、複素多様体論、微分幾何学、トポロジー、微分位相幾何学、微分方程式論、関数解析、複素解析、代数学解析、表現論、作用素環論、力学系、非線形数学、確率論、数値解析、計算機科学、保険数学

地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としています。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラと関係している太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマンツルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか、身近で遙かな事柄を研究し教育しています。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏地球物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクトニクス、地球物質科学、地球生物圏史、宇宙地球化学

生物科学系

生物科学系は、地球上の多様な生物が織りなす様々な存在様式や生命現象を研究対象としています。マクロ的な視点からは、生態学、行動学、系統分類学、人類学を中心に自然史や野外研究に重点をおいた伝統に培われた研究を展開し、生物の進化や多様性の機構を明らかにしようとしています。一方、様々な生物のゲノムが解読され、ライフサイエンスもポストゲノム時代に入り、新しい研究の方向性が求められるようになりました。ミクロ的な視点からは、動物や植物の細胞生物学、発生学、分子生物学、構造生物学の独創的な研究により多彩な生命現象を分子レベルで解明しようとしています。このようにミクロ・マクロの両方の視点から、多様なアプローチと方法論を駆使しつつ、生物をその環境と合わせて統合的に理解することを目指しているのが、生物科学系の特徴です。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、動物行動学、動物生態学、発生ゲノム科学、環境応答遺伝子科学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、ゲノム情報発現学、理論生物物理学、分子生体情報学、神経生物学、構造生理学、分子発生学

物理科学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とします。本系は3教室に分かれ、物理学第一教室では主に物質の構造と性質について、物理学第二教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では太陽から宇宙論まで宇宙の様々なスケールでの諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等からめながら幅広い研究と教育を行っています。

不規則系物理学、量子光学・レーザー光学、低温物理学、光物性、固体量子物性、固体電子物性、時空間・生命物理、ソフトマター物理、非線形力学、凝縮系理論、相転移力学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、素粒子物理学、宇宙線物理学、素粒子論、原子核論、天体核物理学、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論宇宙物理学

化学系

化学は、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問です。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象としますから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々とあります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性に応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

固体物性化学、生物構造化学、量子化学、理論化学、物理化学、分子分光化学、光物理化学、分子構造化学、電子スピニング化学、表面化学、金相学、無機物質化学、有機化学、有機合成化学、集合有機分子機能、生物化学、遺伝子動態学



【写真】 数学教室 外国人研究者を交えてのセミナー

全学共通科目（専門基礎科目）

科目

微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、確率論基礎、数理統計、線形代数学統論、非線形数学、非線形数学セミナー、関数論、数値計算の基礎、現代の数学と数理解析—基礎概念とその諸科学への広がり、対称性の数理 A、対称性の数理 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、初修物理学 A、初修物理学 B、熱力学、振動・波動論、力学統論、物理学実験、特殊相対論、電磁気学統論、現代の素粒子像、天体観測実習、やわらかな物理学—物質と生命の本質を探る、低温科学 A、低温科学 B、ビーム科学入門、レーザー科学、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、基礎化学実験、現代化学入門 A、現代化学入門 B、基礎理論化学 A、基礎理論化学 B、薬学物理化学（化学熱力学）、基礎地球科学 IA、基礎地球科学 IB、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、地球科学実験 A、地球科学実験 B、Field 地球科学 A、Field 地球科学 B、Material 地球科学 A、Material 地球科学 B、Visual 地球科学概説、Visual 地球科学演習、地球生物圏史セミナー、地質科学セミナー、地球の物理、地球の誕生と進化、地球変動学基礎セミナー、自然災害科学 I、自然災害科学 II、環境地圏科学ゼミナール II、生物学実習 I、生物学実習 II、生物学実習 III、生物自然史基礎論 A、生物自然史基礎論 B、真菌自然史 A、真菌自然史 B、動物自然史 A、動物自然史 B、植物自然史 A、植物自然史 B、生命現象の生物物理学、基礎生物学 A、基礎生物学 B、現代植物学、薬学生物学、薬用植物学、霊長類学のすすめ、生態科学、コンピュータグラフィクス実習 A、コンピュータグラフィクス実習 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、コンピュータサイエンス入門、科学英語 A、科学英語 B

専門科目

1 年次	2 年次	3 年次
線型代数学演習 A, 線型代数学演習 B, 現代化学セミナー A, 現代化学セミナー B, 大学で学ぶ物理学, 自然人類学 A, 自然人類学 B, 理学の英語	集合と位相, 代数学入門, 幾何学入門, 基礎数学からの展開 A, 基礎数学からの展開 B, 数学基礎演習 I, 数学基礎演習 II, 解析力学 1, 解析力学 2, 波動と量子論, 熱・統計力学 1, 物理のための数学 1, 物理のための数学 2, 物理学情報処理論 1, 解析力学 1 理論演習, 解析力学 2 理論演習, 熱・統計力学 1 理論演習, 天文学概論, 観測天文学, 地球惑星科学入門 II, 地球惑星科学入門 III, 計算地球物理学, 計算地球物理学演習, 地球連続体力学, 観測地球物理学, 観測地球物理学演習 A, 観測地球物理学演習 B, 地質科学通論 I, 地質科学通論 II, グローバルテクトニクス, 基礎地質科学実習, 生物圏進化史, 有機化学 IA, 有機化学 IB, 物理化学 I (量子化学), 無機化学 I, 物理化学 II, 生物化学 IA, 生物化学 IB, 入門化学実験, 物理化学演習 A, 分子生物学 I, 分子生物学 II, 分子遺伝学 I, 海洋生物学, 細胞生物学, 構造生物学, 無脊椎動物学, 生体分子科学, 基礎生物学実験 I, 基礎生物学実験 II, 基礎生物学実験 III, 臨海実習第 1 部	代数学 I, 代数学 II, 幾何学 I, 幾何学 II, 解析学 I, 解析学 II, 微分方程式論, 函数解析学, 複素函数論, 代数学演義 I, 代数学演義 II, 幾何学演義 I, 幾何学演義 II, 解析学演義 I, 解析学演義 II, 数値解析, 計算機科学, 量子力学 1, 量子力学 2, 量子力学特論 1, 熱・統計力学 2, 物理実験学 1, エレクトロニクス, 物性物理学 1, 物性物理学 2, 物理実験学 2, 物理数学特論 1, 連続体力学, 量子物性論, 電磁気学 3, 電磁気学 4, 物理学情報処理論 2, 非線形科学, プラズマ物理, 宇宙物理入門, 物理の英語, 熱・統計力学 2 理論演習, 量子力学 1 理論演習, 量子力学 2 理論演習, 電磁気学 3 理論演習, 電磁気学 4 理論演習, 現代物理学, 物理科学課題演習 (原子核物理: 素粒子の基本相互作用 - 量子電磁力学, 素粒子で観る量子力学, 原子核と電磁場の相互作用, 粒子の加速, 高強度レーザー, 自然における対称性, 自然界の 4 つの力, 宇宙 X 線放射過程, 宇宙ガンマ線放射), 物理科学課題演習 (物性物理: 相転移, 物質の光応答, 固体電子の量子現象, 高温超伝導, プラズマ, 量子エレクトロニクス, 低温物性・超流動, 自己組織化現象のダイナミクス, ソフトマター), 基礎宇宙物理学 I, 放射, 基礎宇宙物理学 II, 電磁流体力学, 太陽物理学, 恒星物理学, 物理科学課題演習 (宇宙物理: 数値計算・シミュレーション, 観測機器, 星・銀河の世界, 活動する太陽), 弾性波動論, 地球流体力学, 電離気体電磁力学, 地球熱学, 測地学 I, 地震学 I, 海洋物理学 I, 気象学 I, 地球電磁気学, 物理気候学, 火山物理学 I, 地形学, 地球惑星科学課題演習 (地球物理: 固体地球系, 流体地球系), 岩石学 I, 岩石学 II, 鉱物学 I, 鉱物学 II, 地質調査法, 地史学, 構造地質学, 古生物学 I, 古生物学 II, 地球テクトニクス I, 地層学, 地球テクトニクス II, 地質学機器分析法, 岩石学実験 I, 岩石学実験 II, 結晶学演習, 地質科学野外巡検 I, 地球テクトニクス実習 I, 古生物学実験, 地層学実験, 宇宙地球化学実習, 地球惑星科学課題演習 (地質鉱物: 地質科学研究法 1, 地質科学研究法 2), 生物化学 II, 生物化学 III, ケミカル・バイオロジー, 化学実験法 I, 化学実験法 II, 無機化学 IIA, 無機化学 IIB, 物性化学 I, 物性化学 II, 化学統計力学, 有機化学 II, 有機化学 III, 化学数学, 物理化学 IIIA, 物理化学 IIIB, 量子化学 I, 量子化学 II, 分析化学 I, 分析化学 II, 環境化学, 物理化学演習 B, 物理化学演習 C, 計算機化学演習, 無機・物性化学演習, 生物化学演習, 化学実験 A, 化学実験 B, 植物系統分類学, 脊椎動物系統学, 動物行動学, 生態学 I, 生態学 II, 人類学第 1 部, 人類学第 2 部, 陸水生態学, 遺伝情報維持機構論, 分子情報学, 理論分子生物学, 発生生物学 I, 発生生物学 II, 植物生理学, 植物分子生物学, 環境生態学, 免疫生物学, 神経生物学, 分子遺伝学 II, 膜生物学, ゲノム科学, 再生生物学, 細胞内情報発信学, 数理生物学, 植物分子遺伝学 I, 生物間相互作用, 植物分子遺伝学 II, 分子生物物理学, 生物学セミナー A, 生物学セミナー B, 生物学実習 A, 生物学実習 B, 生物学実習 C, 生物学実習 D, 生物学実習 E, 臨海実習第 2 部, 臨海実習第 3 部, 臨海実習第 4 部, 野外実習第 1 部, 野外実習第 2 部, 陸水生態学実習 I, 陸水生態学実習 II, 安定同位体実習, 物質の創成と制御

4 年次	卒業研究科目	特別講義
代数幾何学, 整数論, 代数学特論 I, 代数学特論 II, 位相幾何学, 微分幾何学, 幾何学特論 I, 幾何学特論 II, 確率論, 偏微分方程式, 函数解析続論, 解析学特論 I, 解析学特論 II, 解析学特論 III, 数値解析特論, 計算機科学特論, 保険数学 I, 保険数学 II, 保険数学演習 I, 保険数学演習 II, 原子核物理学 1, 原子核物理学 2, 素粒子物理学 1, 素粒子物理学 2, 重力, 重力特論, ソフトマター, 量子力学特論 2, 量子力学特論 3, 量子光学・光物性, 物理数学特論 2, 非平衡統計, 物性物理学 3, 物性物理学 4, 銀河・星間物理学, 観測的宇宙論, 惑星物理学, 測地学 II, 地震学 II, 海洋物理学 II, 気象学 II, 太陽地球系物理学, 陸水学, 火山物理学 II, 活構造学, 鉱物学特論, 変成岩岩石学, 鉱物学実習, 地質科学野外巡検 II, 地球テクトニクス実習 II, 理論テクトニクス, 無機化学 III, 物理化学 IV, 有機化学 IV, 有機化学演習, 基礎化学物理	<p>【数学講究】 【物理科学課題研究】 (原子核科学) 自然における相互作用 I, 自然における相互作用 II, 素粒子と原子核, 原子核とハドロンの物理, 天体核現象, 高エネルギー天体物理 (物性科学) 不規則系の物性, 光物性, 固体電子物性, 超伝導と磁性, プラズマ, レーザー分光, 低温物理, 時空間秩序・生命現象の物理, 非線型・非平衡現象の理論, ソフトマターの階層構造と揺らぎ, 凝縮系の理論 (宇宙科学) 機器開発, 太陽, 恒星とブラックホール, 銀河, 理論宇宙物理学 【地球惑星科学課題研究】 (地球物理学) 電磁気圏, 大気圏・水圏, 固体圏 (地質学鉱物学) 地球テクトニクス, 岩石学, 鉱物学, 地層学, 地史学, 地球化学 【化学課題研究】 固体物性化学, 生物構造化学, 量子化学, 理論化学, 分子分光学, 物理化学, 光物理化学, 分子構造化学, 電子スピン化学, 金相学, 表面化学, 無機物質化学, 有機合成化学, 有機化学, 集合有機分子機能, 生物化学, 遺伝子動態学 【生物科学課題研究】 植物系統分類学, 動物系統学, 動物生態学, 自然人類学, 霊長類行動生態学, 動物行動学, 免疫生物学, 動物の発生と進化, 植物生理機能学, 時間生物学, 植物分子遺伝学, 植物分子細胞生物学, 分子細胞生物学, 遺伝情報維持機構, 細胞分子構造生物学, 分子情報学, ゲノム情報発現学, 細胞シグナル伝達の分子生物学, 神経生物学, 多細胞体構築の分子発生遺伝学, 遺伝分子生物学, 幹細胞と幹細胞化の分子細胞生物学, 理論生物物理学</p>	数学特別講義, 物理科学特別講義, 地球惑星科学特別講義, 化学特別講義, 生物科学特別講義



新医学領域の開拓と 革新的医療の創成

【写真】臨床実習風景

医学部 医学科

Faculty of Medicine

医学部・医学研究科のホームページ:

<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

医学研究科 教務・学生支援室 tel.075-753-4325

アドミッションポリシー (医学部が望む学生像)

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心的分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種・専門家との連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

理念と目標

京都大学医学部は、医療の第一線で活躍する優秀な臨床医、医療専門職とともに、次世代の医学を担う医学研究者、教育者の養成をその責務とする。

京都大学医学部が育てるのは、単に既存の知識を応用して医療にあたるだけでなく、病気など医学事象の背後にあるものを見抜き、自分の頭で考え、新たな知を創出できる人間、また、広く社会と人間行動を理解し病める人の感情を洞察できる人間、社会全体の健康をめざし高い倫理観を持って行動する人間である。

また、これを人類すべてに発信できる国際性豊かな人間を育てることも我々の使命である。

医学科の教育

カリキュラムは、医師や医学研究者を養成するための教育・実習を基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般をすべて学び、経験することになります。基礎医学は、生命科学と医師に必要な解剖学・病理学・法医学・社会健康医学などを学びます。臨床教育は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習によって、理論的な基礎と実際の医療現場での活用を学びます。

これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD・PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、大学院へ進学して、医学研究に専念し、早期に学位を取得して研究者としての道を歩むことができます。

●医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部医学科では、個々の学生の、医師、医学研究者としての資質を最大限開拓し、医学や医療の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には高度な専門知識の修得と同時に、その知識を論理的に使いこなす能力、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性や、人間そのものに対する深い洞察力を

在学生メッセージ

「責任ある自由」

医学部医学科 4回生

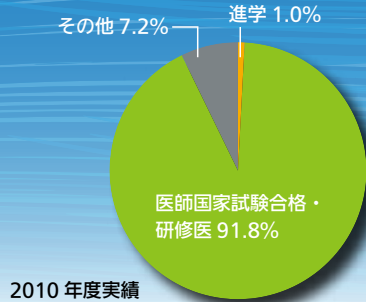
大井 由貴さん

毎年、京都大学医学部を多数の人が受験します。京都大学医学部が人をひきつけてやまないのは医学部の伝統や実績のみならず、そこに自由の学風があるからです。入学した百人の新入生は皆、胸の内に京都大学でやりたい事をもっていて、その夢を実現するために日本中から京都に集まった百人です。そして自由の学風の元、何をするか、何を求めるかも全ては自らの主体性によって決めていくのです。本学の伝統も歴史も業績も、そうやって積み重ねられてきました。そしてこれからは私たちがそれを継承するだけでなく、さらに積み上げていくのです。さあ次の百人はあなたです。そして次の京大に発見や業績を積み重ねていくのもまたあなたです。充実した大学生活を送れるため自分が本学で何をしたいかを明確にすれば、きっと京都であなただけの花開くでしょう。



● 卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もありますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の臨床研修を受けます。



2010年度実績

必要とします。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などを旨とする医学研究、制度を改革するための人間社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このようなすぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓抜した能力が必要です。京都大学には、国際的にもすぐれた業績をあげ、卓抜した開発能力を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を養成する環境が形作られています。

● 生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年から第2学年にかけて、「全学共通科目」の履修が主体となります。これと並行して、医療人の素養を幅広く取組む研究マインドを育成するチャレンジも始めます。たとえば、生命科学に関する英語の教材に関して、少人数で教員と議論します。人体の理解の基本となる解剖学をはじめとして基礎医学の履修も開始します。

基礎医学の履修は、第3学年では本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面から掘り下げて深めていくことになります。京都大学では、多くの学生が様々な研究室で研究に参加しています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できる機会となっています。

● 実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育では、近年、単に医学知識を

習得するだけでなく、臨床の現場に適応して責任をもって診療できる人材を育成することが強く求められています。京都大学では、節目、節目において、積極的に臨床教育の改革を進めてきましたが、単に各科が個別の分野の教育を行うだけでなく、学生が臨床医学を系統的に学習できるように、医学教育推進センターを設けて、実践的な臨床教育を推進しています。

医学部附属病院は、近年、多くの新しい部門、設備が加わり、例えば基礎医学との橋渡しとしての探索医療センターが役割をはたしています。また、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるた

● 医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、厚生労働省が実施する医師国家試験受験資格が与えられます。

めの地域医療ネットワークが機能しています。初期診療・救急医学のセクションも整備され、外科も新しい形に再編されるなど、新しい時代を担う組織づくりをめざして脱皮し続けています。新しくがん専門病棟が構築されるなど整備が進んでいます。診療・治療・教育の場として充実した施設になっています。

また、学外の実習病院では、第一線で医療に携わっている経験豊かな医師が多数臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。これらを通して、最新の医療の発展に貢献できる人材養成をめざして、密度の高い教育が行われています。

1回生	基礎医学生物、医学情報リテラシー、外来患者支援実習、病棟体験実習
2回生 ↓ 3回生	組織学、組織学実習・組織標本作製実習、肉眼解剖学講義実習、発生学、生理学、生理学実習、実験動物学、分子細胞生物学、分子細胞生物学実習、神経科学、脳実習、免疫学、微生物学講義、微生物学実習、寄生虫学、病理学総論、病理学各論・実習、法医学、法医学実習、薬理学・薬理学実習、放射線生物学、遺伝医学、薬物動態学・毒理学、医療情報学
3回生 ↓ 4回生	社会・環境・予防医学、診断治療学総論、循環器病学・心臓血管外科学、血液病学、内分泌・代謝病学/糖尿病・栄養内科学、呼吸器病学、消化器病学、泌尿器科学・腎臓病学、臨床神経学(神経内科学・脳神経外科学)、特殊感染症学、免疫病学、整形外科学、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、眼科学、婦人科学・産科学、皮膚科学、小児科学、加齢医学(老年医学)、精神医学、麻酔科学・集中治療医学、救急医学、臨床腫瘍学、画像診断学、口腔外科学、形成外科学、医の倫理、臨床検査医学、リハビリテーション医学、医療安全学
4回生	マイコース・プログラム
5回生 ↓ 6回生	臨床実習(血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、免疫・膠原病内科、老年内科、糖尿病・栄養内科、神経内科、消化管外科、肝胆膵・移植外科、乳腺外科、小児外科、眼科、産科婦人科、小児科、皮膚科、泌尿器科・人工腎臓部、腎臓内科、耳鼻咽喉科、整形外科、精神科神経科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、集中治療部、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、形成外科、口腔外科、薬剤部、検査部、感染制御部、輸血細胞治療部、病理診断部、外来化学療法部、初期診療・救急医学)
6回生	卒業試験

卒業生メッセージ

「道」

2010年度医学科卒業
京都大学医学部附属病院研修医
播摩 裕さん



「外傷外科をやりたい。」初期診療・救急科の門を叩いたのは6回生の時でした。在学中にできたまだ新しい教室ですが、臨床実習の際に興味を持ち、思いを話しました。それならと道を示していただき、医師としての生活が始まりました。1年目は関連病院で研修し、大学に戻ってきました。思いは変わらず、再び門を叩きました。道はさらに具体的なものとなり、今は変わりつつある救急医療に携わるべく、日々研修に励んでいます。

京都大学には最先端に行く医学・医療が数多く存在します。その門戸は常に開かれており、望めばいくらでも経験することができます。学生のうちから関わることもできます。歩めば道はおのずと開けてきます。皆さんも京都大学で自分の道を探し、突き進んでください。

人生の「原点」としての大学

2011年医学科卒業
京都大学大学院医学研究科 医学専攻 統計遺伝学
奈良原 舞子さん



卒業後、大学院へ進学して研究者としての道を目指しています。大学時代という、人生において大変貴重な6年間を京都大学で過ごせたことを私はとても幸せだと思っています。京都大学には、学生一人ひとりがやりたいことを自由にやれる校風があり、またそれを実現させてもらえるだけの先生方の協力などの環境があります。私の場合は、さまざまな分野の研究室を経験させていただき、また、2度の海外留学も経験することができました。大学時代の経験は、将来の方向を決める上で、また私自身の生き方を考える上でも大きな変化をもたらすもので、まさに私の「原点」ともなる6年間でした。京都大学は、自由だからこそ、誰にとっても「原点」にする機会を与えてくれる大学なのではないでしょうか。



語らいから学びあい... 創りあげる

【写真】スプリントの制作風景

人間健康科学科

医学部人間健康科学科のホームページ:

<http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ: 医学研究科 教務・学生支援室
(人間健康科学科教務担当) tel.075-751-3906

人間健康科学科教育課程の概要

本学科では、「健康について科学すること」を教育課程の中心として取り上げ、新入生から『人間健康科学概論』において、「健康科学」に関する基盤形成をしていきます。4年間を通じてヘルスプロモーションの考え方を学習し、保健医療福祉分野において「健康科学」を実践しうる人材を育成します。

チーム医療に積極的に参画してリーダーシップを揮うことができる医療専門職として、患者中心の医療を進めるために必要な共通理念・方法論を学習し、その基礎の上に立って高度先進医療に対応でき、国際的にも将来の医療を担うことのできる人材を育成します。

人間健康科学科が望む学生像

京都大学医学部がこれまで推し進めてきた医学研究並びに高度先進医療をさらに発展させ、豊かな保健・福祉社会を実現するため、人間健康科学科において健康科学を確立し、人々の健康を実現したいと考えています。

これを具体化するには、共に学び共に展開する人材が必要です。人間健康科学科は高度医療専門職を、そして将来の健康科学を発展させる人材を育成したいと考えています。恵まれた教育・研究環境で、そして学問を育む京都において、夢のあるチャレンジを志す若人を求めています。

授業科目の区分

人間健康科学科の授業科目は、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目から成り立っています。全学共通科目は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通して豊かな人間性を育むための教育を実施することを目的としています。専門基礎科目は、医学部人間健康科学科全専攻の学生個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各専攻それぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

●セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。人間健康科学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

●全学共通科目

全学共通科目はA群、B群、C群、D群の4群に区分されます。これをもとに人間健康科学科は卒業に必要な基礎となる科目数と単位数を定めています。各専攻によって、特に履修を要する科目があります。

●専門基礎科目

専門基礎科目は、「専門基礎」と「臨床基礎」で構成され、医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、多専攻に共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。全学共通科目と並行して第Iセメスターより第IVセメスターまでに、人間健康科学科の学生は多専攻共通で履修することとなります。

専門基礎は、人体構造、人体機能、健康科学、専門基礎I、専門基礎II、専門基礎IIIから、臨床基礎は、内科系臨床概論、外科系臨床概論、臨床各論から構成されています。全学共通科目として開講される人体構造学(理学・作業対象)、臨床コミュニケーション論(看護・理学・作業対象)、リハビリテーション概論(理学・作業対象)は、該当専攻の学生に必須単位であり、専門基礎科目としての履修単位とみなされます。

●専門科目(看護学専攻)

看護学専攻では入学時から専門科目を開講します。第Iセメスターでは「基礎看護学」「看護カウンセリングI」等により、独自の健康観や看護観を形成していく上で基盤となる考え方や理論を学習します。第IIセメスターでは「基礎看護学技術論」「基礎看護学技術演習」等により、看護学において基礎となる援助技術の知識や方法論を学習します。第III・IVセメスターは「臨床基礎看護学」や「臨床基礎看護学技術演習」等により、臨床における援助技術の知識や方法論を学習します。

第IIIセメスター以降は、成人、精神、母性、小児、在宅、地域保健の各専門領域の科目を開講します。これらの領域では専門基礎科目や基礎看護学・臨床基礎看護学の学習を踏まえ、領域の特性や捉え方、疾病をもつ人や状況に対するアセスメントなどの専門的知識と、領域特性に応じた援助技術の方法論を学習します。

第VII～VIIIセメスターでは「実習」と「統合看護(卒業論文)」を開講します。第VIセメスターまでの学習を振り返り、各人の課題に沿って研究的なプロセスをたどることにより、4年間の学習を統合し看護学を深めていくことができるようにしています。

●専門科目(検査技術科学専攻)

第I・IIセメスター(1年次)は、全学共通科目にて幅広い教養と見識を培う時期です。専門科目としては、医用イメージング概論(第IIセメスター)のみが配当されています。

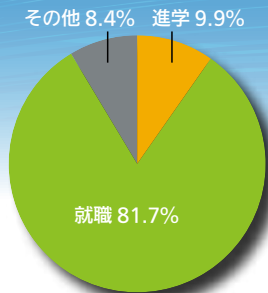
第III・IVセメスター(2年次)においては、基礎医学に関する講義を中心に問題を論理的に把握する能力を培います。生体の正常な機能と

学年	1		2		3		4	
セメスター	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
科目	全学共通科目				各専門科目			
	専門基礎科目(全専攻共通)				<ul style="list-style-type: none"> 看護学専攻 検査技術科学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻 			

● 卒業後の進路

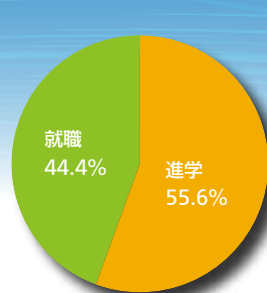
[看護学専攻] 医療系（病院、保健所、市町村、企業内健康管理部門など）、官公庁、一般企業、教育研究機関、大学院進学など
 [検査技術科学専攻] 医療系（病院、診療所、保健所等）、教育研究機関、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政、大学院進学など
 [理学療法学専攻] リハビリテーションセンター、国公立病院、私立病院、老人保健施設、肢体不自由児施設、通所リハビリテーション施設、行政機関、教育機関、関連企業、大学院進学など
 [作業療法学専攻] 医療系（病院、診療所、保健所、保健センターなど）、福祉系（児童福祉施設、精神障害者社会復帰施設、身体障害者社会援護施設、老人福祉施設など）、関連企業、研究所、保健医療福祉行政機関、大学院進学など

看護学専攻



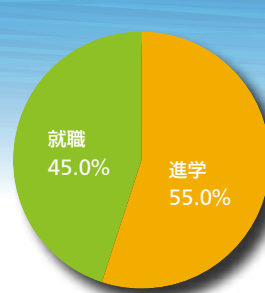
進学 (7)	大学院	6
	その他	1
就職 (58)	病院	49
	企業	7
	官公庁	2
その他		6

検査技術科学専攻



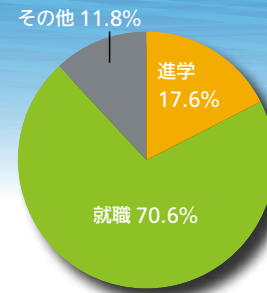
進学 (20)	大学院	20
	病院	7
就職 (16)	企業	8
	官公庁	1

理学療法学専攻



進学 (11)	大学院	11
	病院	7
就職 (9)	企業	2

作業療法学専攻



進学 (3)	大学院	3
	病院	9
就職 (12)	企業	1
	官公庁	2
	その他	2

2010年度実績

● 人間健康科学科で取得可能な資格

人間健康科学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

[看護学専攻] 看護師、保健師 [検査技術科学専攻] 臨床検査技師 [理学療法学専攻] 理学療法士 [作業療法学専攻] 作業療法士

病因・病態を中心に、基礎医学の知識を総合的に理解する時期です。後期では臨床検査に関連する実習を行います。専門基礎科目を中心に編成されており、いずれ臨床医学の場で必要となる基礎医学を学習します。

第Ⅴ・Ⅵセメスター（3年次）では、臨床検査医学に必要な実習が主体となり、知識を経験に活かす時期となります。基礎医学の総論、実習を通じて学んできた知識を実習に活かし、臨床検査に関する技術を習得することにより、将来に向けて生きた知識と技術を体験します。

第Ⅶ・Ⅷセメスター（4年次）には、指導教員のもと各自が卒業研究を行います。また、3年次までに実習してきた臨床検査学全般にかかわる実践的な検査実務を、臨床実習として京都大学医学部附属病院の検査部、病理部、輸血部において、少人数単位で体得します。臨床検査技師の国家試験を受験しますが、その対策はもちろん、チーム医療教育、地域医療、医療の国際化など幅広い医療に関する問題、医工連携等に直結する学習を行います（臨床実習、先端医療技術セミナーなど）。

● 専門科目（理学療法学専攻）

第Ⅰセメスターから「理学療法総論」を学び、「理学療法見学実習」で実際の理学療法の現場を見学・体験させることによって理学療法への興味を深めます。

第Ⅲセメスターから第Ⅴセメスターにかけては理学療法評価学、各疾患別理学療法学などの専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつけるような講義および実習を行います。

第Ⅵセメスターから第Ⅶセメスターにかけては臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実践を経験します。第Ⅷセメスターは卒業研究と各種セミナー等の演習科目により、さらに理学療法学を深めていきます。

● 専門科目（作業療法学専攻）

作業療法学専攻では、第Ⅰ・Ⅱセメスターで共通科目、専門基礎科目と平行し、作業療法適応学原理、作業学や臨床実習Ⅰ（早期臨床体験）により、作業療法への興味を深めます。第Ⅲセメ

スターでは作業分析学、作業療法評価学総論など作業療法の基盤となる専門科目の学習が始まり、身体障害、精神障害、発達障害の3領域の見学実習（臨床実習Ⅱ）など、専門課程を学ぶための基盤づくりを行います。

第Ⅳから第Ⅵセメスターにかけては、作業療法評価や作業療法治療学など作業療法の専門科目の学習、そしてそれらの技術を習得するための演習・実習を行い、第Ⅵセメスターで、講義や実習で学んだ評価手順と技術を習得するために、評価実習（臨床実習Ⅲ）を行います。第Ⅶ・Ⅷセメスターでは、より高度な臨床応用力をつけるために、作業療法の治療計画と治療体験を、臨床実習Ⅳを通して学び、卒業研究で将来の臨床家、研究者、教育者としての基盤を育みます。

在学生メッセージ

「その人らしい健康を科学する」

医学部人間健康科学科看護学専攻3年生

後藤 智美さん

3年前の入学時、私は、新しい地での学びに対する期待と、先の見えない不安でいっぱいでした。今感じること、本学においては、先が見えないのではなく、自分の道を自分で求めて開拓していくのだということです。きっかけやさまざまな機会は与えられますが、学ぶのは自分たちの意志です。

「人間の健康を科学する」本学科では、専門知識・技術の習得だけでなく、健康を科学することで、医療人となる基礎を築きます。医療現場では、疾病の治療はもちろんですが、その人らしさに視点を置き、ある人の人生に寄り添い、サポートすることが大切になると感じます。大学生活での学生・教員との関わりや各分野の洗練された講義を通して、広い視野を得て、感性を磨き、自分らしさもみつけ、それらがケアの場面で生かされたいと思います。

チーム医療の中で各職種が専門性を高め、患者さんの治療・QOLの向上に全力を尽くすために、私たちが学ぶべきことはたくさんあります。ここでは、責任ある医療人となるための、また、1人の人間として成長するためのかけがえない場となるでしょう。



講座紹介 (人間健康科学科)

看護学専攻

看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気の人だけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既成の枠にとらわれない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、看護学専攻では、教育・研究体制として大講座制をとっています。

1. 基礎看護学講座

人間、健康、環境、生活など、基本的な概念に関連する事柄やそこから派生する健康現象について、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化や理論の検証をめざして教育・研究を行います。

2. 臨床看護学講座

人の健康は身体的・精神的・心理社会的等様々な因子の統合として達成されます。臨床看護学講座では、主として成人期にある人のからだところこの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるよう、教育・研究を行います。

3. 家族看護学講座

少子化・核家族化が進む 21 世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。家族看護学講座では、さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生み育てることに直接あるいは間接的に参加できるよう、母子とその家族を取り巻く専門的な理論と技術について教育・研究します。

4. 地域・老年看護学講座

長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、介護予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、健康な街づくり、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。

検査技術科学専攻

検査技術科学専攻は、近年の分子細胞生物学、遺伝子医療、移植医療、再生医療など医学および医療技術の急速な進歩に伴い、幅広い教養と専門医療職としてのより深い知識や最新の技術を習得した臨床検査技師を養成することを目的とします。本専攻は、基礎生体病態情報解析学、臨床生体病態情報解析学、ならびに情報理工医学の 3 講座からなり、基礎医学、臨床医学、遺伝子工学、画像診断学・情報科学を含めた生命科学のあらゆる分野を視野に入れた幅広い知識や技術を学び、さらに国際的にも活躍しうる研究者・教育者としての優れた人材を育成します。

1. 基礎生体病態情報解析学講座

基礎生体病態情報解析学講座では、難病、移植、再生、生殖医療等の高度医療を主とする生体情報解析に対応できる検査技術科学を開発・発展させるために、生体からの情報を抽出し遺伝子、分子レベルから細胞、組織にわたる生理的および病理学的基礎情報を分析します。これらの情報を基に病態解明のための分子診断検査、細胞情報解析ならびに形態学的解析技術等を開発し、これに関する教育・研究を行います。

2. 臨床生体病態情報解析学講座

分子生物学、遺伝子工学技術の急速な発展・進歩に伴い、難治疾患に対する高度先進医療の開発が医療現場で大きく進展しています。臨床生体病態情報解析学講座では、移植・再生医療、遺伝子治療をはじめとする先端科学の臨床への展開を支援する臨床検査のエキスパートとして必要な理論や技術について教育・研究します。

3. 情報理工医学講座

高度先進医療を支える生体医療情報解析において画像診断機器とそれを用いた画像診断技術が必要不可欠です。これらの診断機器や技術を開発・導入するうえでは、医学・医療分野の知識に加えて機器開発の基礎となる医用工学技術や情報科学の理論をも習得した人材が必要です。このような人材を育てるため、情報理工医学講座では、医工融合分野における最先端技術の研究開発および事業化に将来発展しうる教育・研究を行います。

理学療法学専攻

理学療法は、日常生活に必要な基本的動作能力に障害があったり、または障害を引き起こす可能性のある人々に対して社会生活に適応するために必要な援助技術や治療技術を提供する実践科学です。少子高齢化の進んだ今日では、理学療法士の職域は医療現場だけでなく地域医療や福祉の分野などにも急速に拡大し、保健・医療・福祉専門職としてバランスのとれた活動が求められるます。また理学療法士は、医療専門職の中でもとりわけ自由裁量に基づいた判断と行動が必要とされ、そのため専門領域の知識や技術の習得だけでなく豊かな人間性と問題解決能力の涵養が必要とされます。理学療法学専攻は、このような社会的ニーズに応えることのできる理学療法士を養成するために運動機能開発学講座と健康運動機能学講座を設けています。

運動機能開発学講座

運動機能開発学講座では、疾病や外傷などによって運動機能に障害が生じたり、後遺症が残存したもの、スポーツ障害や呼吸循環代謝障害などに対してそれらの回復や軽減を目的とした理学療法を対象にします。

健康運動機能学講座

健康運動機能学講座では、健康な生活を営むために必要な運動機能について定量的、定性的に分析・評価するための方法を確立し、高齢者の保健、障害予防のための運動方法の研究などを対象にします。

本専攻の最大の特徴は、附属病院で実践される先端医療を目の辺りにした臨床教育に学生が自ら参画できる環境にあるということです。理学療法におけるこの領域は世界的にも未知の部分が多く、今後の可能性が注目されることです。

卒業後は、急性期、療養型の医療機関だけでなく、高齢者の保健・行政機関、リハビリテーションセンター、介護保険事業所、教育、研究機関などに就職し、リーダーとして活躍する事が期待されます。

作業療法学専攻

ひとの日々の生活は、身辺処理や生活管理など生活を維持する活動、職業や家事・育児・学業などの仕事に関する活動、遊びや余暇とさまざまな活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来らし、生活に障害をもたらします。

作業療法学専攻は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材を育成するため、臨床教育と研究を行います。

生活を科学する作業療法

作業療法は「適応の科学」と言われ、病や障害により日々の暮らしに支障を来している人々に対し、自律して生活に適応する能力の発達・回復・開発・維持を援助します。生活への適応困難は、生理機能、運動機能、認知機能、社会的機能などのいずれかの要因により、もしくは複数の要因が重なって生じます。生活に生じた問題を分析し対策をたてるためには、人の心や身体の仕組み、モノの捉え方・判断の仕方、学習・記憶の仕方、社会規範の理解・対応の仕方、行為・動作として表現する仕組みなどに関する知識が必要となります。

作業療法学専攻では、適応機能の改善・回復を効果的に実践するための作業活動の特性を学び、対象者個々のニーズに合わせ作業を適応・段階づける知識・技術を獲得する作業分析、評価、援助法などを体系的に学ぶことができる教育プログラムを提供します。

作業療法に限らず、リハビリテーションに関連する専門領域は、他の医療領域に比べて歴史が新しい領域であり、今後さらなる発展が要望されており、高度先進医療と相補する治療・援助技法として最も脚光を浴びています。その要望に応えるために、研究を遂行し絶えず精錬していき、研究を臨床の場に具体的に反映することができる人材を育成します。

明日を拓く作業療法

2007 年度より大学院（医学研究科人間健康科学系専攻）が開設され、臨床研究と共に、近赤外線分光法、脳波、自律神経機能測定、神経心理学的検査、脳磁図などによる客観的指標の研究にも取り組み、京都大学病院と連携し、高度な臨床専門職、教育・研究職を育成しています。

全学共通科目 (人間健康科学科)

専攻	科目
看護学専攻	健康心理学, 生活と健康, 人間健康科学概論, 医療有機生物化学, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 基礎化学実験, 情報科学概論, 生体制御機構概論, 生活習慣病入門, 地域医療学, 健康医療学概論
検査技術科学専攻	健康心理学, 生活と健康, 人間健康科学概論, 数学基礎 IA, 数学基礎 IB, 数学基礎 IIA, 数学基礎 IIB, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B, 医療有機生物化学, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 健康管理論, 物理学実験, 基礎化学実験, 情報科学概論, 基礎情報処理演習
理学療法学専攻	人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 生体制御機構概論
作業療法学専攻	健康心理学, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 生体制御機構概論

専門基礎科目 (人間健康科学科)

人体構造学, 解剖学, 運動機能解剖学, 人体構造学実習, 解剖学演習, 人体機能学, 生理学, 人体機能学実習, 運動学, 臨床コミュニケーション論, リハビリテーション概論, 精神保健, 医療管理学, 病理学概論, 薬剤・薬理学概論, 生体防御学, 生化学概論, 公衆衛生学, 医療情報学, 医療統計学, 臨床内科疾病論 I, 臨床内科疾病論 II, 臨床内科疾病論 III, 臨床外科疾病論 I, 臨床外科疾病論 II, 臨床外科疾病論 III, 精神医学各論, 整形外科各論, 成育医療学各論

専門科目 (人間健康科学科)

専攻	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
看護学専攻	基礎看護学, 看護カウンセリング論 I, 基礎看護学技術論, 基礎看護学技術演習 I, 基礎看護学技術演習 II, 基礎看護学実習	臨床基礎看護学 I, 臨床基礎看護学 II, 臨床基礎看護学技術演習, 臨床基礎看護学実習, 成人看護学概論, 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学 III, 成人看護学演習, 精神看護学, 小児看護学, 母性看護学, 在宅ケア論, 地域看護学概論, 地域看護診断学, 地域看護活動論 I, 地域看護活動論 II, 保健行動学演習, 保健看護政策論, 保健福祉行政論	成人看護学実習 I, 成人看護学実習 II, 成人看護学実習 III, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 小児看護学演習, 小児看護学実習, 家族看護学, 母性看護学演習, 母性看護学実習, 地域看護学演習 I, 看護研究法, 看護管理・倫理学, 看護カウンセリング論 II, リエゾン精神看護学	緩和ケア論, 高度医療看護論, 在宅看護論演習, 在宅看護論実習, 地域看護学演習 II, 地域看護学実習, 統合実習, 統合看護 (卒業論文)
検査技術科学専攻	医用イメージング概論	分子生物・遺伝子検査解析学, 細胞生物学, 臨床検査総論, 医用電子工学, 生化学, 微生物学, 生化学実習, 分子生物・遺伝子検査解析学実習, 細胞生物学実習, 動物学, 微生物感染症学実習, 細胞組織検査学, 血液学, 情報解析学基礎, 医用電子工学実習, 検査情報統計学, 臨床生理・超音波診断学	病理学各論 I, 細胞組織検査学実習, 臨床検査精度管理学, 臨床検査総論実習, 感染制御学, 血液検査学, 血液検査学実習, 画像情報システム学, 情報解析学, 臨床化学, 生体応答解析学, 病理学各論 2, 放射性同位元素検査技術学, 臨床生理・超音波診断学実習, 臨床化学実習, 生体応答解析学実習, 非侵襲画像検査学, 画像情報システム学実習	臨床実習, 卒業研究, 臨床検査病態学, 先端医療技術セミナー, 臨床病態情報解析学演習
理学療法学専攻	理学療法総論, 理学療法見学実習	理学療法評価学, 運動機能評価学実習, 筋・骨格系理学療法学, 義肢学, 日常生活援助法 I	理学療法評価学演習, 臨床運動機能学, 筋・骨格系理学療法学実習, 神経系理学療法学, スポーツ傷害理学療法学, 発達障害系理学療法学, 物理療法学, 生活動作学実習, 装具学, 高齢者理学療法学, 地域理学療法学概論, 日常生活援助法 II, 理学療法評価学実習, 臨床運動機能学実習, 神経系理学療法学実習, 呼吸理学療法学, 循環代謝系理学療法学, 臨床評価実習 I, 臨床実習 I, 臨床評価実習 II	運動機能解剖セミナー, 身体運動解析セミナー, 臨床実習 II, 卒業研究, 症例検討セミナー, 理学療法特論, 画像診断・整形外科セミナー
作業療法学専攻	作業療法適応学原理, 作業学, 臨床実習 I	作業分析学, 作業学演習 I, 作業療法評価学総論, 運動機能評価学実習, 日常生活援助法 I, 身体障害作業療法治療学総論, 高齢期作業治療学, 精神障害作業療法治療学総論, 発達障害作業療法治療学総論, 臨床実習 II	作業学演習 II, 発達評価法実習, 心理社会機能評価学, 生活機能評価学実習, 日常生活援助法 II, 作業療法技術論, 身体障害作業療法治療学各論 I, 身体障害作業療法治療学各論 II, 高次神経障害作業治療学, 精神障害作業療法治療学各論 I, 精神障害作業療法治療学各論 II, 発達障害作業療法治療学各論 I, 発達障害作業療法治療学各論 II, 地域作業治療学, 作業療法管理運営論, 研究方法論, 臨床実習 III	作業療法演習, 卒業研究, 臨床実習 IV



総合科学としての 薬学研究の発展を 通じて社会貢献へ

【写真】核酸サンプルを電気泳動装置で分析している様子

薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences

薬学部のホームページ:

<http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ:

薬学部教務掛 tel.075-753-4514

薬学部が望む学生像

京都大学薬学部は総合科学としての薬学の基礎体系を習得させ、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師を育成することを目標としています。

薬科学科: 薬科学科の主たる使命は医薬品の創製です。自ら考え、探求し、創造する豊かな心を持つ人材が求められます。

薬学科: 薬学科の主たる使命は最適な薬物治療の実現です。医療の進歩と発展を担うため、向上心と探求心を持ち続けられる人材が求められます。

薬学部への誘い

薬は、人類の健康に大きく貢献し、不可欠なものとなっています。薬学は、この薬を創造、創製し、適正に使用するための学問を行う場です。薬の開発は先端的な科学と技術の融合の上に成り立っていますので、薬学を通して社会に貢献するためには、化学系、物理系、生物系、医療系など幅広い専門知識と医療人としての心を学ぶことが必要です。

京都大学における薬学の教育・研究組織は昭和 14 年に医学部薬学科として、有機化学系、分析化学系を中核に出発し、その後、薬学に対する社会的要請の広がりに対応して、生命科学系分野、医療系分野など研究分野を加え、総合科学としての薬学の教育、研究体制を整え、現在に至っています。

現在、薬学部では、近年の急速な生命科学の進歩、医療の高度化に対応するために、新しい概念に基づく医薬品の創製・発展、医療への貢献に対応できる教育が求められており、その一環として、平成 18 年度から薬剤師国家試験受験資格が 6 年間の履修期間を要するという教育制度の変更も行われました。そこで、本薬学部では、この薬学教育、研究の大きな変革に対応するため、将来の医薬品の創製を担う創薬科学研究者、技術者養成を目指す 4 年制の薬科学科と、高度な医療を担い、それを指導できる薬剤師、医療薬学研究者、技術者養成を目指す 6 年制の薬学科の 2 学科を設置し、それぞれの目的に適した人材の育成に努めています。また大学院では、薬科学専攻と医薬創成情報科学専攻の 2 つの専攻を設け、学部で養われた学力、技能を基盤として、より広い視野に立って薬学関連領域の学識を深め、研究能力を養うことを行っています。さらに、教育・研究の施設・環境の充実

にも努め、最近総合研究棟および教育棟の新設、本館の大改修を行いました。また、文部科学省 21 世紀 COE プログラムをはじめ、創薬、医療薬学分野の特色ある研究・教育プログラムにも採択され、創薬科学および医療薬学の充実した教育に努めています。薬学は先端科学研究と医療での社会的貢献が同時に可能な学術領域です。医薬品の創製と医療への貢献を目指す学問の場として、薬学部にご様を招待します。

薬学部の教育

- 創薬科学研究者と高度な医療を支える薬剤師を育てる

薬学は疾患の治療、健康の増進をもたらす医薬品の創成、生産、使用を目的とした総合科学です。薬学の基礎は物理学、化学、生物学です。これらの基礎科学の統合と応用により、薬学の教育・研究を発展させます。最近の医療技術の進歩と高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しております。医薬品の研究開発や適正使用は人の健康や生命に関わるものです。薬学に携わる人間は単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性

在学生メッセージ

「薬を創る」

薬科学科 4 年生
坂井 由葵 さん

高校生の時に入院した経験から現場の医療と薬の副作用の辛さを身を以て知り、創薬に携わる道に進みたいと、薬科学科を志望しました。薬学部の特徴は、生物・化学・物理すべてを広く学べることだと思います。創薬研究において、薬の知識と科学的教養を広く備えた薬学出身者はなくてはなりません。

様々な学問に触れる中で、私は有機化学が一番興味を持ちました。薬につながるような化合物を、まだ誰も試したことのない経路で合成してみたいという志で、現在はケモゲノミクス分野に属し、実験の日々を送っています。将来は有機合成の立場から創薬に関わりたいと考えています。

大学は、実に色々な人と出会え、好きなことだけ打ち込める、そんな場所だなあと感じます。皆さんも京大で学びたいことを見つけ、一緒に打ち込んでみませんか。



「6 年制薬学部 1 期生として」

薬学科 6 年生
梅本 佳昭 さん

高校の化学の授業で「薬を創る」ことに大きな魅力を感じ、最先端の薬学教育を受けることができる京都大学薬学部を志望しました。

現在は、5 年生での病院、及び薬局実習を終え、4 年生から配属された薬品動態制御学分野で研究に動んでいるところで、来年度から研究させていただく製薬企業でも活躍できるよう自己研鑽に努めています。

私は臨床現場を知る研究者になりたかったため薬学部を選択したのですが、新制度の 1 期生ということで、どれほど研究できるか不安でした。しかし、薬剤師に向けた素晴らしい教育環境だけでなく、思う存分研究できる環境が京都大学には整っていました。学会発表をする機会もあります。

このような研究者や薬剤師など幅広い分野で将来活躍ができる京都大学の薬学科で、皆さんも大学生生活を実りあるものにしましょう。

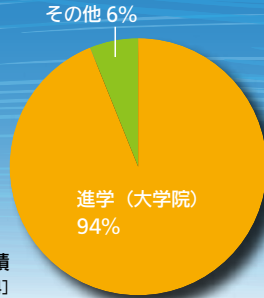


● 卒業後の進路

8割以上が大学院へ進学します。修士課程を修了した学生の3割が博士課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国公立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では7割が製薬会社に就職しています。

就職先の例（修士課程修了者）

アステラス製薬／田辺三菱製薬／日本新薬(株)／日本たばこ産業(株)／小林製薬(株)／第一三共(株)／中外製薬(株)／大阪市／京都府庁／読売テレビなど



2010年度実績
[4年制 薬科学科]

が求められます。京都大学薬学部は4年制の総合薬学科で創薬科学、医療薬学の研究者、技術者の養成を目指してきました。平成18年度より京都大学薬学部は創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な医療を支える薬剤師、医療薬学研究者、技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科となりました。

● 1～2回生（薬科学科、薬学科共通）： 全学共通科目を中心とした履修と専門教育への準備

1回生では教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と基礎専門教育科目を履修します。これらの科目は幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は人文・社会系科目、自然系科目、外国語科目からなっております。さらに、専門基礎教育科目として薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学、基礎有機化学なども履修します。2回生では、全学共通科目と専門基礎教育科目として科学英語を履修するとともに、専門教育の科目も履修します。

● 3～4回生（薬科学科）： 専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学

ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生では主として特別実習を行います。特別実習はほぼ1年にわたって行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。

● 3～6回生（薬学科）： 専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学

ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は専門実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生前期では主として午前中は講義、午後は医療薬学ワークショップを行い、医療薬学分野全体の研究領域について学びます。4回生後期から特別実習が行われます。特別実習は6回生まで行われます。特別実習では希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、医療薬学を中心とした種々の領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は医療薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。5回生では特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割と職能を理解し、薬剤業務等を学ぶため、京都大学医学部附属病院薬剤部と学外の調剤薬局で5ヶ月間の実務実習を行います。

「京都大学で薬学を学ぶことの意義」

1996年薬学科卒業

武田薬品工業株式会社

医薬研究本部 症疾患創薬ユニット 主任研究員

根来 伸行 さん



京都大学で薬学を学ぶことの意義は、二点あると思います。

一つは、幅広い分野をカバーする創薬研究が行われており、世界最先端の研究成果を目の当たりにしながら、創薬に関する知識・考え方を深めることができる点です。私は製薬会社で合成研究に従事していますが、大学で学んだことが現在の仕事に直結しているという非常に恵まれた環境に居ることを噛み締めながら、新薬創製に取り組んでいます。

もう一つは、京都大学に集まる全学の優れた人材と接することができる点です。私は体育会剣道部に所属していましたが、多くの仲間や先輩方と苦楽を共にすることで多様な価値観を共有できましたし、部活動を通じて得られた人間関係も社会に出てからの大きな財産となっています。

みなさんが京都大学薬学部で充実した大学生活を送られることを確信しています。

「初志を胸に」

2004年総合薬学科卒業

国立医薬品食品衛生研究所 薬品部第一室

吉田 寛幸 さん



現在、医薬品の品質・安全性・有効性の評価研究や、創業の際の国の承認基準等を定める業務に従事しています。行政職は事務的なイメージがありますが、薬に関するルール作りにおいては、高度な専門知識だけでなく常に物事を科学的に考え合理的な判断を下すことが求められます。京都大学の自由な校風もあり、大学院における研究は、自主的かつ自由な発想で世界レベルの研究を行なえる環境が整っており、そうした物事の考え方を養いながら充実した日々を送ることができました。

私が薬学部を志望したのは、入院中に鎮痛薬の驚くほどの効き目を体験したことがきっかけでした。皆さんの志望の動機やきっかけはそれぞれだと思います。それに応えうる環境がここにはあると思いますので、その初志を胸に抱いて京都大学薬学部の門を叩かれるとよいと思います。

学科紹介

薬科学科

医薬品の創成、生産を目的とした総合科学として薬科学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4年次には特別実習が行われます。卒業生の多くはさらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うために、大学院に進学します。

薬学科

医薬品の適正使用を目的とした総合科学として薬学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4～6年次には特別実習、病院実習、調剤薬局実習が行われます。薬学科は高度な薬剤師の養成を目指しますが、さらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うことを希望する学生は大学院に進学します。

研究室紹介（大学院の基幹分野，協力講座，寄附講座，最先端創薬研究センター，統合薬学教育開発センター）

薬科学専攻

薬品有機製造学：大野 浩章 准教授

- 1) ゲノム/プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用
- 3) ペプチド・ペプチド類似体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 4) 抗癌剤、抗ウイルス剤、抗痴呆剤の分子設計・合成研究

薬品合成化学：高須 清誠 教授

- 1) 生理活性天然化合物の合成
- 2) 高次分子変換のための実践的方法論の開拓
- 3) 活性種の特性を活かした高官能基選択的な変換反応の開拓
- 4) 生体内で特異機能を発現する人工低分子の設計と開発
- 5) 有機金属反応剤の活性化と不斉化手法の開拓

薬品分子化学：竹本 佳司 教授

- 1) プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 2) 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 3) 生物活性天然有機化合物及びその類縁体の全合成研究
- 4) 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 5) 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

薬品資源学：伊藤 美千穂 准教授

- 1) 二次代謝機能発現に関する研究、特にテルペノイドの生合成機構の解明
- 2) 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 3) 薬用植物の実態と多様性に関する調査研究
- 4) 吸入投与による精油の生薬薬理学的研究

薬品機能解析学：松崎 勝巳 教授

- 1) 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- 2) アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 3) 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 4) 受容体の機能解析と創薬
- 5) NMRによる生体分子の構造解析

構造生物化学：加藤 博章 教授

- 1) X線結晶構造に基づいたABCトランスポーターの構造生理学
- 2) ペルオキシソーム膜タンパク質の膜局在化メカニズムの構造生物学
- 3) 精密立体構造に基づく酵素の触媒作用の構造的起源の解明
- 4) X線結晶構造解析による生体時計の構造と機能の解明

ゲノム創薬科学：辻本 豪三 教授（兼任）

- 1) ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲットバリデーション
- 2) ゲノムインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 3) 生体内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガント探索
- 4) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

製剤機能解析学：石濱 泰 教授

- 1) プロテオーム一斉解析法の開発
- 2) シグナル伝達プロテオームに関する研究
- 3) 膜とタンパク質の相互作用および膜脂質のダイナミクスに関する研究
- 4) 脂質微粒子の調整と生物物理学的研究

精密有機合成化学：川端 猛夫 教授

- 1) 動的な不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 2) 有機触媒による精密反応制御
- 3) 分子のキラリティーに基づく高次構造の構築
- 4) 分子認識および超分子化学に関する研究
- 5) 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

生体分子認識学：竹島 浩 教授

- 1) 小胞体 Ca²⁺シグナリングに関する研究
- 2) 中枢系の機能制御と情報伝達に関する研究
- 3) 筋細胞の膜構築と機能に関する研究

分子微生物学：渡部 好彦 准教授

- 1) インターフェロン産生と作用機構（抗ウイルス機構）の解析
- 2) インターフェロンに対する多面的な細胞応答機構の解析
- 3) インターフェロンと各種疾患との相関の探索
- 4) インターフェロン遺伝子治療の基礎的研究

生体機能解析学：金子 周司 教授

- 1) イオンチャネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬、機能解析、薬効解析、安全性評価、病因論、ゲノム科学に関する研究
- 2) 痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機構に関する研究
- 3) 薬物依存や薬物有害事象の分子機構に関する研究
- 4) 生命科学用語オントロジーの研究

遺伝子薬学：伊藤 信行 教授

- 1) 細胞増殖因子（FGF）の脂肪組織、骨・軟骨、脳形成などにおける役割の解明
- 2) 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
- 3) 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
- 4) 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
- 5) 組織形成、組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用

生理活性制御学：小堤 保則 教授

- 1) 細胞死誘導型免疫抑制物質の作用機構と関連遺伝子に関する研究
- 2) スフィンゴ糖脂質の持つ生理活性に関する研究
- 3) シアル酸分子種に関する研究

生体情報制御学：中山 和久 教授

- 1) 低分子量 GTPase による細胞内タンパク質輸送の調節に関する研究
- 2) 多様なエンドサイトーシス経路の調節に関する研究
- 3) メンブレントラフィックによる細胞分裂の調節に関する研究
- 4) メンブレントラフィックとタンパク質分解の共役に関する研究

神経機能制御学：根岸 学 教授

- 1) 神経ネットワーク形成、神経可塑性の分子メカニズムの研究
- 2) 中枢神経系におけるプロスタノイド受容体の情報伝達機構の研究
- 3) 三量体G蛋白質及び低分子量G蛋白質による神経機能調節の研究
- 4) ストレス遺伝子の発現機構

生体機能化学：二木 史朗 教授

- 1) 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製
- 2) 細胞膜透過ペプチドベクターの開発とメカニズム
- 3) 亜鉛フィンガー型転写因子のDNA認識と機能解析
- 4) 細胞内ターゲティング（核・ミトコンドリアなど）の化学と分子設計
- 5) 環境応答型機能性ペプチドのデザイン

薬品動態制御学：橋田 充 教授

- 1) 医薬品の体内動態の分子機構の解明と動態モデルに基づく数理的解析
- 2) 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法、製剤設計法の開発
- 3) タンパク質医薬品の臓器、細胞特異的ターゲティング技術の開発
- 4) 遺伝子医薬品を対象とするドラッグデリバリーシステムの開発
- 5) 薬物の経粘膜・経皮吸収の機構解析とコンピュータ吸収予測法の開発

薬品作用解析学：赤池 昭紀 教授

- 1) 中枢神経作用薬の薬理学を主要研究課題とする
- 2) 中枢神経変性疾患におけるニューロン死の機構の解析とその保護因子の探索
- 3) 胎仔血清に由来する神経保護セロフェンド酸の作用機構の解析
- 4) 生体および天然物に由来する神経保護活性物質の探索研究
- 5) ニューロン生存と神経再生を制御する細胞内機能分子に関する研究

臨床薬学教育：矢野 育子 准教授

- 1) 医薬品の適正使用に関する教育・研究
- 2) 薬物動態と薬効の速度論的解析に基づく個別化投与設計に関する研究

病態機能分析学：佐治 英郎 教授

- 1) 脳疾患、心疾患、がん、糖尿病などでの生体機能変化をインヒビト解析する分子イメージング法の開発とそれによる病態及び薬物作用の解明に関する研究
- 2) 病態の特性に基づく標的部選択的移行、選択的活性化をおこなう機能性画像診断・治療薬の創薬研究
- 3) 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究
- 4) 薬物血中濃度データに基づく医薬品の適正使用

病態情報薬学：高倉 喜信 教授

- 1) 遺伝子治療・DNAワクテン療法最適化を目指した核酸医薬品開発
- 2) 核酸ナノデバイス・ハイドロゲルの開発
- 3) RNA干渉を利用した疾患治療システムの開発
- 4) 多機能細胞治療の開発

医療薬理学：桂 敏也 准教授

- 1) 医薬品の体内動態と薬効・毒性に関する基礎と臨床
- 2) 薬物トランスポーターの分子・細胞生物学的解析と臨床応用に関する研究
- 3) 病態時の薬物動態・薬効の変動要因解析と患者個別化投与設計に関する研究
- 4) 薬物相互作用の in vitro 予測・評価系の開発に関する研究
- 5) 薬物トランスポーター・代謝酵素の遺伝的多型とテーラーメイド医療

医薬創成情報科学専攻

薬理ゲノミクス：辻本 豪三 教授

- 1) 最先端質量分析に基づくがんのバイオマーカー探索
- 2) 最先端質量分析に基づくがんのゲノム創薬
- 3) 生体内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガント探索
- 4) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

ケモゲノミクス：大野 浩章 准教授（兼）

- 1) ゲノム/プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 新規複素環骨格構築法の開発と創薬テンプレートへの応用
- 3) 新規フラグメント合成法の開発と長鎖ペプチド合成への応用
- 4) ペプチド・ペプチド類似体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 5) 抗癌剤、抗ウイルス剤、抗痴呆剤の分子設計・合成研究

システムバイオロジー：岡村 均 教授

- 1) 再生、老化における分子時計の細胞内時間ネットワーク機構を解明する。
- 2) 分子時間の異常による慢性疾患（高血圧、発癌、神経変性疾患）の発症機構を解明し、時間を基にした新しい病気の理解、その治療法を開発する。

- 3) 哺乳類生体リズムにおける時間の生成と調律の仕組みを、細胞、組織、生体という多層レベルで解明する。
- 4) リガンド、受容体の解析による時間を調律する創薬研究

システムケモセラピー（制御分子学）：掛谷 秀昭 教授

- 1) 多因子疾患（癌、神経変性疾患、免疫疾患、糖尿病等）に対する次世代化学療法の開発を指向した先端のケミカルバイオロジー研究
- 2) 創薬リード化合物の開拓を指向した新規生理活性物質の天然物化学・天然物薬学
- 3) ケモインフォマティクス、バイオインフォマティクスを活用したシステムケモセラピー研究およびメタシナリティ研究
- 4) 有用物質生産・創製のための遺伝子工学的研究（コンビナトリアル合成生成研究等）

システムケモセラピー（創薬計算化学）：北浦 和夫 教授

- 1) 生体高分子のための量子化学計算法の開発
- 2) 生体高分子の構造と機能の理論的研究
- 3) 蛋白質と低分子の分子間相互作用の理論解析
- 4) 計算化学手法によるドラッグデザイン

統合ゲノミクス：金久 實 教授

- 1) バイオ情報を統合するバイオインフォマティクス技術の開発研究
- 2) ゲノムと生体内化学反応の知識に基づく合成可能な天然物の予測
- 4) 医薬品開発に伴う化学構造変換の知識に基づく薬らしさの予測
- 5) 薬物間相互作用、薬物・標的間相互作用のネットワーク解析

分子設計情報：馬見塚 拓 教授

- 1) バイオインフォマティクス：ゲノムワイドなデータからの情報処理技術による知識発見
- 2) 先端情報科学技術の創出による生命情報解析・創薬技術の高度化
- 3) 薬物投与データからの生体分子間ネットワーク推定による創薬インフォマティクス
- 4) 生体分子の生命機構の理解に向けた情報抽出技術の高精度化
- 5) システムバイオロジー：計算機による模倣からの生命現象の解析・理解

寄附講座

ナノバイオ医薬創成科学：清水 一治 寄附講座教授

- 1) 最先端工学技術とバイオ技術を融合したナノレベル創薬研究
- 2) 先端ナノバイオ工学技術DNAチップによるがん等の臨床検体の分析
- 3) 病態関連遺伝子やタンパク質情報を活用したテラーメード医療
- 4) 分子標的薬のターゲット探索、薬理ゲノミクス研究

システム創薬科学：奥野 恭史 寄附講座教授

- 1) 分子標的を指向したネットワーク創薬の開拓的研究
- 2) 遺伝子ネットワーク解析法を用いたうつ病の病態解明と創薬応用
- 3) システムスバイオリジーに基づく薬物作用メカニズムの解明
- 4) ケミカルゲノミクス情報に基づく新規医薬品開発探索理論の研究開発

最先端創薬研究センター

本センターは、最先端研究開発支援プログラム（FIRST プログラム）に採択された「次世代質量分析システム開発と創薬、診断への貢献」プロジェクトの研究拠点である。このプロジェクトでは、世界最高性能の質量分析システムを開発し、当該システムを用いたがん（乳がん、食道がん）やアルツハイマー病の新たな診断・治療手法の確立に向けて、バイオマーカーの発見やがん創薬のための分子標的候補の発見に努めることを目的としている。

統合薬学教育開発センター

本センターは、2010年4月より、京都大学大学院薬学研究科の附属施設として、高度化しつづける創薬や医療に即応できる先端的な薬学教育・研究体制を形成するための“創”と“療”の統合的薬学拠点として新設された。医薬品開発教育分野、創薬科学教育分野、実践臨床薬学分野の3専任分野を設置し、また別途、情報科学教育分野も並置し、学部内各分野、学内臨床部門や他学部との協力を体制、連携教授のご指導のもと、「横断的統合型教育による創薬・育薬力育成プログラム」の開発と推進を通じて高度な能力を有する薬学人を養成し、創薬と医療における社会貢献を目指している。

全学共通科目（専門基礎科目）

科目

薬学倫理・概論、薬学生物学、薬学物理化学（化学熱力学）、基礎有機化学A、基礎有機化学B、数学基礎A、数学基礎B、線形代数学A、線形代数学B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、減力学、物理学実験、基礎化学実験、生物学実習III、薬用植物学、基礎情報処理1、基礎情報処理2

学部カリキュラム

薬学共用試験

薬剤師国家試験

薬学科 (6年制)	学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	学部5年	学部6年	博士1年	博士2年	博士3年	博士4年
	全学共通科目 早期体験学習	専門科目 全学共通科目	専門科目	特別実習 専門科目 事前学習	特別実習 事前学習 病院・薬局実務実習	特別実習 アドバンスト医療 系講義・演習				
薬科学科 (4年制)	学部1年	学部2年	学部3年	学部4年	修士1年	修士2年				
	全学共通科目	専門科目 全学共通科目	専門科目	特別実習 専門科目						

専門科目（予定）

	1回生～	2回生～	3回生～	4回生～	5回生～	6回生～
化学系 講義科目		有機化学1（有機合成化学） 有機化学2（生物有機化学） 天然物薬学1（天然物化学） 天然物薬学2（薬用資源学） 創薬有機化学エクササイズ	有機化学3（創薬化学） 有機化学4（精密合成化学） 有機化学5（生体機能化学） 天然物薬学3（生薬学） 医薬品化学・新薬論			
物理系 講義科目		物理化学1（量子化学） 物理化学2（電気化学・界面化学） 物理化学3（構造化学） 分析化学1（薬品分析化学） 分析化学2（放射化学） 分析化学3（分光学） 創薬物理化学エクササイズ1 創薬物理化学エクササイズ2	分析化学4（臨床化学） 物理化学4（生物物理化学）			
生物系 講義科目		生物化学1（物質生物学） 生物化学2（代謝生物学） 生物化学3（基礎遺伝子学） 衛生薬学1（健康化学）	微生物学1（細菌学） 微生物学2（ウイルス学） 生物化学4（応用遺伝子学） 生物化学5（細胞生物学） 生物化学6（生理化学） 生物化学7（生体防御学） 衛生薬学2（環境衛生学）			
医療系 講義科目	生理学1（解剖生理学） 先端医療 SGD 演習	生理学2（分子生理学） 生理学3（病態生理学） 薬理学1（総論・末梢薬理） 薬理学1（溶液製剤論）	薬理学2（循環器薬理） 薬理学3（中枢神経薬理） 薬理学2（固形製剤論） 薬理学3（薬物動態学） 生理学4（病態ゲノム学） 医薬品開発プロジェクト演習Ⅰ 統合型薬学演習	医療薬理学1 医療薬理学2 薬局方・薬事関連法規 薬物治療学1 薬物治療学2 医薬品開発プロジェクト演習Ⅱ 医療倫理実習		
情報系 講義科目		バイオサイエンス統計基礎 地域医療薬学		基礎/バイオインフォマティクス 医薬品開発学		
専門実習			薬学専門実習1 薬学専門実習2 薬学専門実習3 薬学専門実習4			
薬科学科				特別実習		
薬学科				医療薬学ワークショップ 医療薬学実験技術 学術情報論 医療実務事前学習 特別実習	医療薬学ワークショップ 医療薬学実験技術 学術情報論 医療実務事前学習 病院実務実習 薬局実務実習 特別実習	医療薬学ワークショップ 医療薬学実験技術 学術情報論 臨床薬学総論 特別実習



自由な発想と独創性に 基づく社会貢献

【写真】学生実験風景

工学部

Faculty of Engineering

工学部のホームページ：

<http://www.t.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ：

工学部教務掛 tel.075-753-5039

工学部が望む学生像

- ・ 高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- ・ 既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- ・ 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

工学部への誘い

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人間の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の持続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりと基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30(1897)年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3(1914)年7月、理

工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8(1919)年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部へ発展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開校しました。桂キャンパスへは工学研究科と情報学研究科が移転することになっており、平成23年4月現在で工学研究科の地球系専攻、建築学専攻、電気系専攻、化学系専攻が移転を終え、今後も順次移転することになっています。桂キャンパスでは主に大学院教育を実施し、学部教育は吉田キャンパスで実施しますが、移転した専攻と関係の深い学科では、第4学年の特別研究(卒業研究)を主に桂キャンパスで行います。

工学部の教育

●「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るということに基づいています。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

●第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、人間・環境学研究科と理学研究科を実施責任部局として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が

「自分の可能性を探る」

地球工学科4回生

玉井 瑛子 さん

私は京都という魅力あふれる街で都市計画を学びたいと思い、京都大学工学部地球工学科に入学しました。今年度から研究室に配属され、都市の景観設計について考えています。机の上の勉強だけでなく、実際にいろんな街へ行き、見て、触れることで、五感を伴った学びの楽しさを感じている毎日です。

地球工学科は自分の可能性を広げられる環境が整っています。扱う分野が広いので学生の興味も様々で、学生生活は非常に刺激的なものです。勉強・サークル・アルバイト・資格取得等、力を入れていることもそれぞれでしょう。どんな分野に進んでも、自分が当初やりたかったことのイメージとは違う道を自ら選んでいた、というのはよくあることです。自分の興味の糸口を見つけ、さらに学科から提供される恵まれた環境も利用しながら色々なことに挑戦したい人に最適な学科だと思います。



「京都大学の魅力」

建築学科4回生

増田 喜憲 さん

京都大学に入学したいと思うきっかけは人それぞれだと思いますが、私の場合は「自由の学風」というものに魅力を感じたからでした。京大は本当に自由なところです。自分のやりたい事があればどこまでも許してくれる学校であり、またそれを行う環境も整っています。そして、課外活動に、研究にと熱心に活動している人達ばかりです。そういった環境や人と触れ合ううちに得られる経験はきっとかけがえないものになると、受験生のみなさんには言っておきたいです。

京都大学工学部には6学科があり、各学科の中でも研究内容が多岐に渡るため、あなたがやりたいと思うことを見つけられるはずです。私の所属する建築学科は、大規模な構造実験施設や一人一台の製図機をはじめとする素晴らしい環境と、充実した毎日です。





【写真】学生実験風景

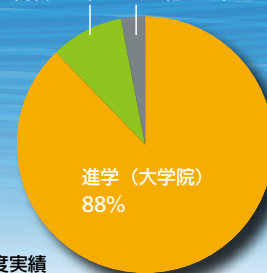
● 卒業後の進路

本学部卒業生の5分の4以上(平成22年度88%)の者が大学院修士課程へ進学しています。将来、大学の研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は増加しています。

● 工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、建築士、電気主任技術者、無線従事者、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者等の学科試験の全部または一部が免除されます。(また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。)

就職 9.2% その他 2.8%



2010年度実績

履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

● カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見通し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重視し、伸びのある思考力と実践力を

養うようにしています。また、カリキュラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習ができるようにしています。なお、必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。

● 高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年になると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降で専門科目を学びます。

● 第4学年では特別研究(卒業研究)に取り組む

第4学年では、特別研究(卒業研究)を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に組み、その結果を学士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を修得し、学士論文を完成すれば、学士(工学)の学位を取得することができます。

「広がる世界」

理工学 4年生
赤土 侑也 さん

私は京都大学が実家のすぐ近くで、高校も近くでした。しかし高校生の時と今では、ほぼ同じ場所を過ごしたのにまったく世界が違います。

私は1、2回生の時はサークルと基礎の勉強をしてきましたが、この時に沢山の先輩の話聞き、色々な同級生と話しました。そして、高校生の時までは比べものにならないくらい世界が広がり、それと共に自分の将来の標準が徐々に定まって来ました。今ではさらに発展した技術を知るために大学院進学に向けて日々勉強中です。京都大学はそういう風に自分のペースで考えさせてくれる大学です。

大学の4年間、勉強はもちろんバイトやサークルなど過ごし方は多種多様です。あなたも好きなことをしながら、自分の可能性を広げ、世界を広げて行きましょう。



卒業生メッセージ

「京大の魅力」

2004年工学部電気電子工学科卒業
2006年工学研究科電子工学専攻修士課程修了
2009年工学研究科電子工学専攻博士後期課程修了
株式会社デンソー機能材料研究部勤務

登尾 正人 さん



京都大学のよい点は、学部時代にとっても幅広い学識を身に付ける機会が与えられる点です。電気電子工学科では、固体物理から電子デバイスの動作や集積回路の設計まで学べます。また、ロボットの基礎となる制御理論に加えて、情報理論、通信システム、光工学、計算機、生体工学などの講義も提供されており、電気電子工学の裾野の広さに驚きます。

4年生からは研究室での生活が始まります。研究室では、教員はもちろん学生でも世界の第一線で活躍されている方がたくさんいます(講義をしていたあの先生が業界の超有名人というのはごく普通です)。設備も充実しており、研究者として大きく成長できる環境が整っています。

学部で学ぶ幅広い学術分野と研究室で取り組む最先端の研究。京大で学ぶ多くのことは社会に出た後も大いに役に立ちます。皆さんも是非、京大で多くのことを学び、そして楽しんで下さい。

「自由の学風と情報学」

2008年情報学科卒業
2010年情報学研究科修士課程修了
野村総合研究所 情報技術本部 共通基盤推進部
専門職テクニカルエンジニア

倉見 洋輔 さん



多くの方が仰るように京都大学には「自由の学風」があります。私が在籍していた工学部情報学科・情報学研究科にも、この学風が存分に表れているのではないのでしょうか。私は大学受験当時、「ITに関わりたい」という漠然とした理由で情報学を選択しました。6年間の大学・大学院生活を通して、「情報学」はとて幅広い学問であることを知りました。ソフトウェア工学、ネットワーク理論などから物理シミュレーション、果てには純粋数学まで多種多様な選択肢から、自分が学びたいものを自分で選ぶことが出来るのです。

現在、私はjavaによるWebアプリケーションフレームワーク開発に従事しています。在学時に専攻していた計算科学分野との直接的な繋がりはないのですが、研究生活で培った並列計算知識やサーバ運用スキル等は今も役に立っています。「ITに関わりたい」という入学当初の夢を今日も追いかけられるのは、京都大学のおかげといっても過言ではないでしょう。是非、自由の学風のもとであなたの夢を形にしてください。

学科紹介

地球工学科

地球工学 (Global Engineering) は、文明に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ (社会基盤施設) の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力を養成することを目標として教育を行っています。

2011年度より、国際的技術者の養成を目的とし、全授業を英語で受講できる国際コースを開設しています。

建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く係わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も、建築設計及び施工に従事する建築家、建築構造技術者及び設備環境技術者、行政的な指導・監督にあたる建築行政担当者、大学・研究機関で新しい技術を開発する研究者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。

物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギー源の開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組む新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておくことが必要です。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、宇宙基礎工学、原子核工学、エネルギー応用工学の5つのコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、材料工学の各専攻、エネルギー科学研究科と情報学研究科に属するいくつかの専攻が、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所、再生医科学研究所及び工学研究科附属量子理工学実験センターなどの協力のもとに、学際的広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行っています。

電気電子工学科

電気電子工学は、現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術を支えており、21世紀社会の発展のための多くの課題 (たとえば高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化など) において重要な役割を担っています。電気電子工学科では、幅広い領域にわたる総合的な知識と視野を持つ高度な専門性に加えて、高い独創性、倫理性をもった人材の育成をめざしています。そのため、カリキュラムも基礎的な共通科目を学習した後、各自の志望に応じて選択する高度な専門科目を通して、最先端の科学技術を理解し、さらなる発展を担うための基礎を広く身につけることができるよう組まれています。

情報学科

現在の高度情報化社会においては、対象とするシステムはますます巨大化・複雑化し、工学の各専門分野が融合した形態をとるのが普通です。このような情勢に対処するためには、システムの機能とそこに流れる「情報」の本質を究明し、それにもとづいて効率的なデザインを考えることが大切です。情報学科では数学や物理学を基礎とした数理的思考で高度なシステムの実際問題を解決し、計算機のハードウェア、システム・ソフトウェア、情報システムを設計・活用できる人材を育てることを目標として、基礎から応用までの総合的な教育研究を行っています。なお、1学年終了時に数理工学コースと計算機科学コースに分かれます。

工業化学科

化学は様々な物質を作り出す反応とそのプロセス、物質に機能を与える物性を対象とする学問で、人々の豊かな生活を支えるとともに、最先端科学技術の発展に大きな貢献をしています。工業化学科では、化学に関連した幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的として教育を行います。第一学年では化学・物理学・数学などの自然科学基礎科目と、語学や人文社会科目を学習します。第二学年前期から工業化学科としての専門基礎科目が始まります。第二学年後期より、創成化学コース、工業基礎化学コース、化学プロセス工学コースに別れて、専門教育を受けます。第四学年には各コースの研究室に所属して卒業研究を行い、研究者・技術者としての高度な知識を習得します。

工学部及び各学科の詳細については、「工学部紹介冊子2012」をご覧ください。また、「工学部紹介冊子2012」については、前頁の連絡先にお問い合わせください。

全学共通科目 (学科指定科目)

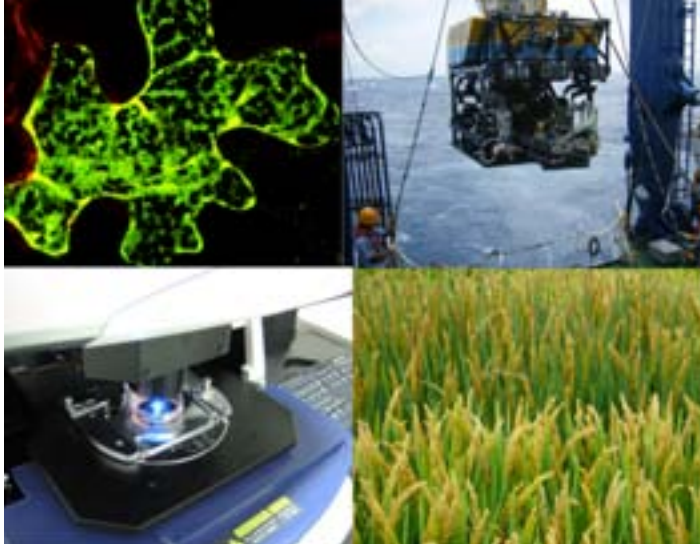
学科	科目
地球工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、熱力学、力学統論、物理学実験、基礎地球科学 IA、基礎地球科学 IB、基礎地球科学 IIA、基礎地球科学 IIB、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、図学 A、図学 B、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、振動・波動論、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生物自然史基礎論 A、生化学入門 101、生化学入門 102、地球科学序論、環境生物・化学、科学英語 (地球)、Japanese IA、Japanese IB、Japanese IC、Japanese II、Scientific English I (Reading and Writing)、Scientific English II (Presentation and Discussion)、Advanced Scientific English (Debate)
建築学科	自然現象と数学、線形代数学 A、線形代数学 B、微分積分学 A、微分積分学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、振動・波動論、熱力学、力学統論、図学 A、図学 B、コンピュータグラフィクス実習 A 又は B、物理学実験、生活と数学 A、生活と数学 B、基礎地球科学 IA、基礎地球科学 IIB、確率論基礎、数理統計、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B
物理工学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、図学 A、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、電磁気学統論、確率論基礎、数理統計、無機化学入門 A、無機化学入門 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、振動・波動論、統計物理学、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、力学統論
電気電子工学科	微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、自然現象と数学、物理学基礎論 A、力学統論、物理学実験、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎化学実験、関数論 (関数論)、線形代数学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、熱力学、統計物理学、量子物理学、解析力学、特殊相対論、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、神経科学総論 A、神経科学総論 B
情報学科	自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験、力学統論、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、線形代数学統論、熱力学、振動・波動論、確率論基礎、数理統計、数理論理学 A、数理論理学 B、情報と社会、科学英語 (数理)
工業化学科	基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、自然現象と数学、微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、物理学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎化学実験、微分積分学統論 A、微分積分学統論 B、熱力学、振動・波動論、力学統論、解析力学、科学英語 (創成化学)、科学英語 (工業基礎化学)、科学英語 (化学工学)

注) Japanese IA・IB・IC・IIは外国人留学生のみを対象とする科目

専門科目

学科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
地球工学科	地球工学総論、基礎情報処理演習、基礎情報処理、情報処理及び演習、Exercises in Infrastructure Design	確率統計解析及び演習、地球工学基礎数理、一般力学、社会基盤デザインⅠ、基礎環境工学Ⅰ、資源エネルギー論、工業数学 B1、構造力学Ⅰ及び演習、水理学及び演習、土質力学Ⅰ及び演習、計画システム分析及び演習、環境衛生学、物理探査学	測量学及び実習、連続体の力学、工業数学 B2、構造力学Ⅱ及び演習、材料学、波動・振動学、水文学基礎、水理水工学、海岸環境工学、土質力学Ⅱ及び演習、土質実験及び演習、社会システム計画論、基礎環境工学Ⅱ、大気・地球環境工学、水質学、環境装置工学、放射線衛生工学、環境工学実験Ⅰ、地質工学及び演習、弾性体の力学解析、流体力学、物理化学、資源工学基礎実験、資源工学フィールド実習、先端資源エネルギー工学、学外実習、空間情報学、構造実験・解析演習、コンクリート工学、耐震・耐風・設計論、河川工学、水資源工学、水理実験、地盤環境工学、岩盤工学、都市・地域計画、公共経済学、交通マネジメント工学、交通政策論、社会基盤デザインⅡ、都市景観デザイン、上水道工学、下水道工学、廃棄物工学、環境工学実験Ⅱ、固体の力学物性と破壊、波動工学、数値計算法及び演習、熱流体工学、分離工学、工業計測、資源工学材料実験、材料と塑性、International Internship、International Construction Management	地球工学デザイン A、地球工学デザイン B、地球工学デザイン C、土木法規、地球防災工学、材料実験、地殻海洋資源論、地殻開発工学、時系列解析、工学倫理、建築工学概論、特別研究
建築学科	基礎情報処理、基礎情報処理演習、建築工学概論、日本都市史、世界建築史、設計演習基礎、建築造形実習	建築計画学Ⅰ、住居計画学、建築設計論、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築構造力学Ⅰ、建築構造力学Ⅱ、建築生産Ⅰ、建築材料、建築・都市行政、景観デザイン論、建築情報処理演習、工業数学 C	都市設計学、行動・建築デザイン論、日本建築史、建築設備システム、鉄筋コンクリート構造Ⅰ、鉄骨構造Ⅰ、建築構造力学Ⅲ、建築生産Ⅱ、建築論、都市・地域論、都市環境工学、建築光・音環境学、建築温熱環境設計、建築構造解析、耐震構造、鉄筋コンクリート構造Ⅱ、鉄骨構造Ⅱ、設計演習Ⅲ、設計演習Ⅳ、建築応用数学、建築情報システム学	建築計画学Ⅱ、建築基礎構造、耐震構造、地球工学総論、設計演習Ⅴ、構造設計演習、構造・材料実験、建築安全設計、建築設備計画法、建築環境工学演習、工学倫理、専門英語、特別研究
物理工学科	物理学総論 A、物理学総論 B、基礎情報処理、基礎情報処理演習	計測学、計算機数学、材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、熱力学Ⅰ、熱力学Ⅱ、機械設計製作、工業数学 F1、工業数学 A1、材料基礎学Ⅰ、固体物理学、原子物理学、流体力学Ⅰ、物質科学基礎、材料統計物理学、材料科学基礎Ⅰ、材料科学基礎Ⅱ、化学熱力学基礎、原子核工学序論Ⅰ、原子核工学序論Ⅱ、機械製作実習、電気回路と微分方程式、エレクトロニクス入門	エレクトロニクス入門、応用電磁気学、工業数学 F2、工業数学 A2、工業数学 F3、工業数学 A3、数値解析、材料基礎学Ⅱ、量子物理学Ⅰ、量子物理学Ⅱ、連続体力学、流体熱工学、工業力学 A、エネルギー変換工学、振動工学、制御工学Ⅰ、制御工学Ⅱ、システム工学、生産工学、薄膜材料学、精密加工学、設計工学、材料組織学、結晶物性学、材料物理化学、量子物性基礎論、構造物性学、熱及び物質移動、統計力学、エネルギー・材料熱化学Ⅰ、エネルギー・材料熱化学Ⅱ、固体物性論、プラズマ物理学、量子反応基礎論、中性子理工学、エネルギー化学Ⅰ、エネルギー化学Ⅱ、流体力学Ⅱ、統計熱力学、量子線計測学、気体力学、熱統計力学、空気力学、推進基礎論、航空宇宙機力学、固体力学、量子無機材料学、固体電子論、材料機能学、材料プロセス工学、高分子材料概論、物理学演習Ⅰ、物理学演習Ⅱ、機械システム学演習、機械システム工学実験Ⅰ、機械システム工学実験Ⅱ、機械システム工学実験Ⅲ、機械設計演習Ⅰ、機械設計演習Ⅱ、材料科学実験および演習Ⅰ、材料科学実験および演習Ⅱ、エネルギー理工学設計演習・実験Ⅰ、エネルギー理工学設計演習・実験Ⅱ、航空宇宙工学実験Ⅰ、航空宇宙工学実験Ⅱ、インターンシップ、金属材料学、材料強度物性、材料量子化学、材料電気化学、材料分析化学、加速器工学、放射化学、結晶解析学、原子炉物理学、伝熱工学	量子物理学Ⅱ、人工知能基礎、システム工学、マイクロ加工学、物理学英語、固体物性学、信頼性工学、品質管理、機械要素学、核物理基礎論、生物物理学、原子炉基礎演習・実験、数値解析、有限要素法の基礎と演習、航空宇宙工学演義、工学倫理、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ
電気電子工学科	電気電子工学概論、電気回路基礎論、電気電子回路、基礎情報処理、基礎情報処理演習	電子回路、電気電子工学実験 A、電気電子工学実験 B、電気電子プログラミング及演習、電気電子工学Ⅰ、電磁気学Ⅰ、論理回路、計算機工学、情報理論、物性・デバイス基礎論、半導体工学、電気電子計測	電気電子工学実習 A、電気電子工学実習 B、電気電子計算工学及演習、グラフ理論、電気回路、電磁気学Ⅱ、電気機器基礎論、電気電子数学Ⅱ、デジタル回路、自動制御工学、ディジタル制御、システム最適化、応用電気機器、パワーエレクトロニクス、電力工学Ⅰ、放電工学、通信基礎論、情報伝送工学、通信ネットワーク、電波工学、計算機ソフトウェア、組み込み計算機システム、ディジタル信号処理、固体電子工学、電気電子工学のための量子論、プラズマ工学、真空電子工学Ⅰ、電気電子材料学、光工学Ⅰ、生体工学の基礎、メカトロニクス入門	マイクロ波工学、生体医療工学、アンテナ・伝搬工学、知能型システム論、光通信工学、電力工学Ⅱ、真空電子工学Ⅱ、光電子デバイス工学、光工学Ⅱ、電気伝導、集積回路工学、電気電子英語、工学倫理、電気法規、電波法規、特別研究
情報学科	計算機科学概論、数理工学概論、アルゴリズムとデータ構造入門、線形計画、電気回路と微分方程式、基礎情報処理演習	エレクトロニクス入門、工業数学 A1、数理工学実験、基礎数理演習、プログラミング演習、計算機科学実験及演習Ⅰ、計算機科学実験及演習Ⅱ、システム解析入門、論理システム、システムと微分方程式、解析力学、論理回路、言語・オートマトン、計算機アーキテクチャⅠ、プログラミング言語、コンパイラ、情報理論、コンピュータネットワーク、グラフ理論、数値解析	コンピュータネットワーク、数値解析、工業数学 A2、工業数学 A3、線形制御理論、確率と統計、確率離散事象論、応用代数学、人工知能、ヒューマンインタフェース、数値計算演習、数理工学セミナー、システム工学実験、計算機科学実験及演習Ⅲ、計算機科学実験及演習Ⅳ、物理統計学、連続体力学、量子物理学Ⅰ、量子物理学Ⅱ、現代制御論、最適化、非平衡系の数理、情報システム理論、計算機アーキテクチャⅡ、オペレーティングシステム、パターン認識と機械学習、データベース、集積システム入門、技術英語、情報システム、アルゴリズム論、画像処理論、ソフトウェア工学、マルチメディア、計算と論理、生命情報学、情報と通信の数理	電子回路、信号とシステム、数理解析、非線形系の力学、情報と職業、通信基礎論、工学倫理、ビジネス数理、特別研究Ⅰ、特別研究Ⅱ
工業化学科	工業化学概論Ⅰ、工業化学概論Ⅱ、基礎情報処理、基礎情報処理演習	物理化学基礎及び演習、有機化学基礎及び演習、基礎無機化学、化学プロセス工学基礎 【創成化学コース】有機化学Ⅰ（創成化学）、物理化学Ⅰ（創成化学）、無機化学（創成化学）、分析化学（創成化学）、高分子化学基礎Ⅰ（創成化学）、化学数学（創成化学）、化学プロセス工学 【工業基礎化学コース】物理化学Ⅰ（工業基礎化学）、無機化学Ⅰ（工業基礎化学）、分析化学Ⅰ（工業基礎化学）、有機化学Ⅰ（工業基礎化学）、化学プロセス工学（工業基礎化学）、最先端の化学入門（工業基礎化学） 【化学プロセス工学コース】物理化学Ⅰ（化学工学）、無機化学Ⅰ（化学工学）、基礎流体力学、化学工学数学Ⅰ（化学工学）、化学工学計算機演習、反応工学Ⅰ	【創成化学コース】創成化学実験（創成化学）、有機化学Ⅱ（創成化学）、生体関連物質化学（創成化学）、物理化学Ⅱ（創成化学）、高分子化学基礎Ⅱ（創成化学）、統計熱力学入門（創成化学）、機器分析化学（創成化学）、環境安全概論、有機化学Ⅲ（創成化学）、物理化学Ⅲ（創成化学）、錯体化学（創成化学）、最先端機器分析（創成化学）、高分子化学Ⅰ、化学生物学、材料有機合成化学、環境安全化学、高分子化学Ⅱ 【工業基礎化学コース】工業基礎化学実験（工業基礎化学）、物理化学Ⅱ（工業基礎化学）、有機化学Ⅱ（工業基礎化学）、無機化学Ⅱ（工業基礎化学）、分析化学Ⅱ（工業基礎化学）、グリーンケミストリー概論、生化学Ⅰ（工業基礎化学）、高分子化学概論Ⅰ（工業基礎化学）、化学数学Ⅱ、環境保全概論、有機化学Ⅲ（工業基礎化学）、物理化学Ⅲ（工業基礎化学）、無機化学Ⅲ（工業基礎化学）、生化学Ⅱ、生物化学工学、有機工業化学、高分子化学概論Ⅱ（工業基礎化学）、量子化学概論、環境安全化学、界面基礎化学 【化学プロセス工学コース】移動現象、流体系分離工学、プロセス制御工学、物理化学Ⅱ（化学工学）、化学工学数学Ⅱ、計算化学工学、化学工学実験（化学工学）、環境保全概論、反応工学Ⅱ、固相系分離工学、微粒子工学、プロセスシステム工学、化学工学シミュレーション、生物化学工学、環境安全化学、物理化学Ⅲ（化学工学）、有機工業化学	【創成化学コース】電気化学、有機分光学、化学のフロンティア（創成化学）、産業科学特論、工学倫理、化学実験の安全指針、特別研究 【工業基礎化学コース】化学実験の安全指針、触媒化学、化学統計学（工業基礎化学）、有機分光学、電気化学、先端機器分析科学（工業基礎化学）、工学倫理、特別研究、有機化学Ⅳ（工業基礎化学） 【化学プロセス工学コース】化学実験の安全指針、プロセス設計、工学倫理、特別研究

注) 青文字の科目：地球工学科国際コースにおいて、英語による授業も提供する科目



生命・食料・環境

【写真】左上：植物細胞／右上：海洋探査／左下：顕微鏡／右下：イネ多収品種

農学部

Faculty of Agriculture

農学部のホームページ：

<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/>

入学についてのお問い合わせ：

農学部第一教務掛 tel.075-753-6012

農学部が望む学生像

農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学等の多様な基礎知識を必要とするいろいろな学問分野から成り立っています。21世紀の重要課題である生命・食料・環境に関わる様々な、かつ複合的な問題に立ち向かっていくためには、特定の専門に偏らない広い視野に立った総合的な取り組みが必要です。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科毎に異なる高度な専門教育を実施することにより、広い視野と高度な専門知識を持った多様で優れた人材を養成することを目的としています。したがって、各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育に必要な学力を有する人材を求めています。

農学部への誘い

衣食住は人類の生活にとって必要不可欠な条件です。食物はもとより、私たちの身の回りの多くのものが農林水産業や畜産業に関わりを持っています。21世紀を迎えて、地球環境を守りながら、あまねく人類の健康で文化的な生活を保障するために、農学はますます重要な使命を担っています。

農学と聞くと古くさくて何となく現代的でないイメージを持つかもしれません。しかし今や農学はバイオテクノロジーやロボット工学など最先端の技術を駆使しながら品種改良や、食品の機能の向上、農業生産の効率化をめざす学問です。より環境にやさしい農業をおこなうために、人工衛星などを利用したリモートセンシングやIT技術も積極的に取り入れられています。また、自然条件のみならず、地域の経済的・社会的・文化的諸条件を総合的に見わたしながら、今後人類がどのようにして持続的に発展を続けていくべきか考えていくことも、農学の重要な課題です。今日の農学は、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした生命系の総合科学へと発展しているのです。

京都大学農学部は1923年、農林水産業の技術向上に貢献すべく、農作園芸学科（農学科）、林学科、農芸化学科、農林生物学科、農林工学科、農林経済学科の6学科が設置されてスタートしました。それ以来、さまざまな社会の変化とその要請に対応しながら、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基盤とし、「生命・食料・環境」をキーワードとする幅広い教育と研究を行う体制を作り上げてきました。創設以来、1万7千名に及ぶ卒業生を社会に送り出し、食料の生産・加工技術や環境の保全・管理技術の発展に大きく貢献しています。

現在わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。一方、地球上では多くの人々が飢えに苦しみに瀕しています。食料は人類が快適で平和に暮らしていく上で欠かすことのできないものです。しかし、砂漠化や地球温暖化などの環境問題が深刻になりつつある中で、これからの人間の活動にはなおいっそうの自然との調和が求められています。食料の生産も例外ではありません。できるだけ環境に負担をかけない方法や技術を見つけていかなければならないのです。

この大きな課題に皆さんもぜひチャレンジしてください。

在学生メッセージ

「世界を広げる」

地域環境工学科 4 回生

高垣 茜 さん

高校の頃の私が今の私を見たら、笑ってしまうだろう。あの頃工学など見向きもしなかったのに、今や農業機械という分野に魅かされているのだから。しかし、この自分の世界を広げることこそ大学生活の醍醐味であると思う。

そもそも私が本学を目指したのは、京都への憧れというんなりに会いたいという想いからだった。実際、全国から集まる仲間の価値観は多様で自分の視野の狭さに気づかされる、と同時に新たな視点をもてるのが面白い。さらに己のベクトルを持ち、目標に邁進する姿は実に刺激的で、学びたい・知りたいが止まらない。

今のあなたにはまだ見えていないものがたくさんあると思う。新しい世界を見つけるために、またそれを掘り下げるために共に歩んでいきませんか。学びたいという姿勢を後押ししてくれる何かがあるから。



「農」学部に来ませんか？

森林科学科 4 回生

中野 周平 さん

農学部は「農」という名称ゆえに農業をしていると思われがちですが、実際はそうとは限りません。共通するのは「生命とそれに付随するもの」でしょうか。学生はそれぞれの興味ある分野に生物・化学・物理・その他様々な方向から挑むことができます。また、ほのぼのわかれた雰囲気は何となく漂っているのも農学部の魅力の一つです。

僕の所属する森林科学科では主に林学と林産工学を学びます。研究室ごとにテーマが様々で、フィールドに出て調査を行なう人がいれば実験室で実験をする人もいます。一つの学科にしては研究対象の範囲がとても広い、面白い学科です。僕は木材細胞に興味があったので、今は化学処理した木材細胞の形状変化を研究しています。直に木材に触れると癒されますよ。

京大農学部で、自然の生命活動の一端と一緒に覗いてみませんか？



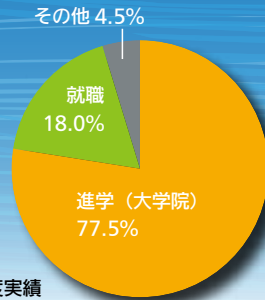
● 卒業後の進路

卒業生の8割弱程度が大学院に進学しています。

就職先については、公務員、公的研究機関の研究員、化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・コンピュータ関係など、幅広い分野で活躍しています。

就職先の例

農林水産省／環境省／京都府／京都市／ダイキン工業（株）／日本電産リード（株）／サントリーホールディングス（株）／明治製菓（株）／日本食研ホールディングス（株）／三井物産（株）／（株）みずほ銀行／（株）京都銀行／野村證券（株）／（株）大和証券キャピタル・マーケット／（株）損害保険ジャパン／日本放送協会



2010年度実績

農学部の教育

● 専門知識の習得と広い視野の育成

農学部は、農学とそれに関連する学識とともに高い倫理性を身につけた社会人を育てることを目的としています。さらにそのような人材に（1）人類が直面する課題に対して、幅広い視野から科学的解決法を構想する能力（2）農林水産業及び食品・生命科学関連産業の意義と重要性を理解し、その発展に寄与する能力（3）生命・食料・環境に関わる世界水準の自然科学・社会科学を理解する能力を備えさせることをめざしています。

この目的を実現するため、農学部では、資源生物科学科（生物系）、応用生命科学科（化学系）、地域環境工学科（物理系）、食料・環境経済学科（社会科学系）の基礎系4学科と森林科学科、食品生物科学科の総合系2学科、計6学科を設置し、本学の最大の特徴である自由の学風を尊重し、学生の自主的判断を活かしつつ、ものごとを広い視野から総合的に判断することができる人材の育成をめざしています。

人間社会は、地球上の動植物や微生物と共存しながらそれらを利用しています。生物を資源として利用しようとする場合、生物が生命を維持している仕組みや、生物が食物連鎖や物質循環をとおしてどのような生態系を形成しているのかについての深い理解が欠かせません。また人間の活動をより自然と調和のとれたものに改善していくためには、工学的な技術や社会科学の手法を用

いた分析も必要になります。それぞれの学科で求められる専門知識の基礎をしっかりと身につけながら、関連する分野にも積極的に興味をもって視野を広げていくことが求められます。

● どのように学ぶか

農学部では入学時に学ぶ学科が決まり、それぞれの学科で4年間の一貫教育がおこなわれます。農学では生物学、化学、物理学などの自然科学に加えて、社会科学の手法も用いられます。学科にとらわれない幅広い学識を養うことを目的にまず1～2年生では主に、自然科学、人文・社会科学、語学などの基礎教養科目を履修します。これと並行して専門基礎科目も開講され、3年生からの本格的な専門教育に備えます。農学部の専門科目では講義に加え、実験、実習、

● 農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、測量士及び測量士補の資格取得の教育課程、樹木医補の資格認定のための教育課程を設けているなど、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

ゼミナールが重視され、各学科において必要とされる実験技術・手法に関する密度の高い教育が実施されます。さらに4年生では研究分野（研究室）に分かれて課題研究（卒業研究）に取り組めます。教員の指導、助言を受けながら大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む最初のステップです。以上により所定の単位を修得した学生は、学士（農学）の学位を取得して卒業することになります。さらに研究を深めようと志す学生は大学院へ進学します。

農学部の教育の大部分は京都大学吉田キャンパス北部構内の農学部総合館で行われます。一部は、総合館北の農学・生命科学研究棟、宇治キャンパス（京都府宇治市）、農学部附属の農場（大阪府高槻市）・牧場（京都府京丹波町）でも行われます。



【写真】実験風景



【写真】実験結果をディスカッションする学生たち

卒業生メッセージ

「京都大学で得たもの」

2008年応用生命科学科卒業
2010年農学研究科応用生命科学専攻修士課程修了
アサヒビール（株）勤務

吉河 万里さん



学部時代で印象に残っているのは、基礎的な講義とともに、お酒を造る実験があったり、企業の方にお話を伺える講義があったりしたことです。自分が学んでいることが社会とどうつながっているかという視点を持つことができ、より興味も深まりました。そうした興味と、大学の先生や友人と楽しくお酒を飲んだ経験とがあって、お酒を造る会社で働きたいという思いにつながり、現在に至っていると思います。大学時代はそれまでの学校生活に比べ、自分で選択することが多くなります。それは非常に貴重な経験であり、卒業後も役に立ちます。京都大学には悩みなながらも、自分で考え学んでいくことができる雰囲気と環境がありますので、そうした大学生生活を送りたい受験生の皆さんはぜひ頑張って京都大学に入学し、様々な経験を積んで頂ければと思います。

「熱くなれる場所」

2011年食品生物科学科卒業
農学研究科食品生物科学専攻 修士課程1年生
友石 満里絵さん



大学で4年間を過ごしてきて思うのは、京都大学には「熱く」なれる環境があるということです。積極的で思考力があり努力家な仲間が常に自分の周りにいたことで、いろいろな場面で良い刺激を受け、大学生活では本気になって頑張ることが多かったと思います。現在は大学院に進学し、4年生から配属している研究室で酵素の研究をしています。研究では思うようにいかないことも多いのですが、その都度よく考えて問題に取り組もうと心がけることで、研究を始める前に比べると論理的な思考が出来るようになったように思います。またここでも素晴らしい先生方に指導して頂き、また優秀な先輩方や同期の友人たちに日々刺激を受けて頑張っています。みなさんもぜひ、京都大学で熱い仲間と熱い大学生活を送ってください。

学科紹介

資源生物科学科

資源生物科学科は、陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を、環境との調和を図りながら追求することを目標に、研究・教育を行っています。また、このような資源生物を、外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ方策を探るとともに、有用物質・遺伝子の有効利用やこれまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した、新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象に基礎から応用に至るまでの研究を多面的に行っています。

作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学、動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養科学、生体機構学、畜産資源学、生物資源情報学、海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学、雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学

応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する（バイオサイエンス）、一方その成果を農・医薬、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する（バイオテクノロジー）ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学（全能性制御機構学）、植物分子生物学（遺伝子特性学）

地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、アセットマネジメント（農業水利施設の効率的な維持管理と更新）による生産環境の充実、生態系と調和した大気・水・土壌環境の実現、農村計画と住民主体による地域づくり、精密農業による資源循環型社会の構築、ロボットやIT利用の未来型農業の追求、農畜水産物と食品生産に関わる計測と制御など、様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、農産加工学

食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活に最も関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林・林業政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論

森林科学科

環境の保全に配慮しながら自然資源を有効に利用するため、森林の持続的管理がキーワードになっています。森林科学科では、森林生態系の機能・構造と物質循環を基礎に、森林資源の持続的な生産技術、木材や紙をはじめセルロースや生分解性プラスチックなどさまざまな林業生産物の利用法、水や大気などの保全に果たす森林の役割、さらにこれらの社会科学的評価などをテーマとして、広く森林を取り扱う教育・研究を行っています。

森林・人間関係学、熱帯林環境学、森林利用学、森林生物学、環境デザイン学、山地保全学、生物材料設計学、林産加工学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生態学、森林水文学、森林生化学、森林育成学、森林情報学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学

食品生物科学科

食品生物科学科では、食品を構成する物質の構造と機能、新しい食品機能を持つ物質や遺伝子の探索、疾病を予防する機能や栄養性・安全性などに優れた食品の創成と効率的な生産、並びに地球規模での食環境など、食料全般に関わる諸問題を微生物、植物、動物を対象に研究し、教育を行います。これにより、食料科学の学術の進展のみならず、健康の維持・増進や食糧不足の改善など、多様な社会的問題の解決に寄与し、豊かな食生活の確立に貢献することを目指しています。

栄養化学、生体情報応答学、生命有機化学、農産製造学、微生物生産学、酵素化学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、食環境学

全学共通科目（学科指定科目）

学科	科目
資源生物科学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、基礎情報処理（農学部）、基礎情報処理演習（農学部）、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎生物学 A、農学の新戦略－増収と環境の調和をめざして－、生物圏の科学－生命・食糧・環境－、基礎化学実験、環境科学基礎ゼミナール
応用生命科学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、確率論基礎、基礎情報処理（農学部）、基礎情報処理演習（農学部）、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、無機化学入門 A、無機化学入門 B、農学の新戦略－増収と環境の調和をめざして－、基礎化学実験、基礎生物学 A
地域環境工学科	微分積分学 A、微分積分学 B、線形代数学 A、線形代数学 B、数理統計、確率論基礎、基礎情報処理（農学部）、基礎情報処理演習（農学部）、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、物理学実験
食料・環境経済学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、確率論基礎、数理統計、基礎情報処理（農学部）、基礎情報処理演習（農学部）、環境学、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、基礎生物学 A、基礎生物学 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、農学の新戦略－増収と環境の調和をめざして－、生物圏の科学－生命・食糧・環境－、人間と数学 A、人間と数学 B、環境科学基礎ゼミナール
森林科学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、基礎情報処理（農学部）、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎有機化学 A、基礎有機化学 B、生命科学概論 A、生命科学概論 B、物理学実験、基礎生物学 A、基礎生物学 B、基礎化学実験、地球科学序論、生存圏の科学－環境計測－地球再生
食品生物科学科	数学基礎 IA、数学基礎 IIA、数学基礎 IB、数学基礎 IIB、基礎物理化学 A、基礎物理化学 B、基礎化学実験、物理学基礎論 A、物理学基礎論 B

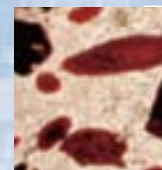
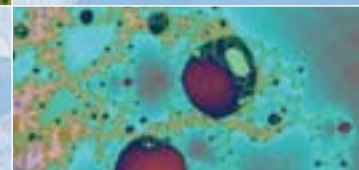
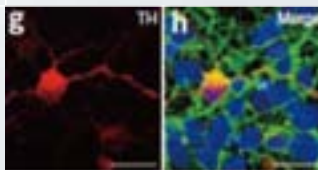
専門科目

学科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
資源生物科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、資源生物科学基礎、細胞生物学Ⅰ、遺伝学	資源生物科学概論Ⅰ、資源生物科学概論Ⅱ、資源生物科学概論Ⅲ、資源生物科学概論Ⅳ、細胞生物学Ⅱ、細胞生物学Ⅲ、生態学、動物生理学、微生物学、植物生理学Ⅰ、大気環境学、生物統計学、資源生物科学基礎実験、土壌学Ⅰ、海洋動物学、栽培技術論と実習Ⅰ、畜産技術論と実習Ⅰ、海洋生物科学技術論と実習Ⅰ、海洋生物科学技術論と実習Ⅱ、海洋生物科学技術論と実習Ⅲ、植物調査法と実習、応用数学、食品安全学Ⅰ	栽培植物起源学、植物生理学Ⅱ、作物学Ⅰ、育種学Ⅰ、蔬菜園芸学、果樹園芸学Ⅰ、植物生産管理学、栽培システム学Ⅰ、品質科学、動物遺伝育種学、動物生殖学、動物栄養学、動物生体機構学、資源動物生産学、海洋環境学、海洋生物生態学、海洋微生物学Ⅰ、海洋生物資源利用学、海洋環境微生物学、雑草学Ⅰ、植物病理学Ⅰ、昆虫生態学Ⅰ、昆虫生理学、熱帯農業生態学、微生物生態学、生態情報開発学、生物圏情報学Ⅰ、資源生物科学専門外書講義Ⅰ、資源生物科学専門外書講義Ⅱ、資源生物科学実験及び実験法Ⅰ、資源生物科学実験及び実験法Ⅱ、栽培技術論と実習Ⅱ、作物学Ⅱ、育種学Ⅱ、花卉園芸学、果樹園芸学Ⅱ、栽培システム学Ⅱ、家畜ゲノム科学・バイオテクノロジー、動物機能開発学、海洋生物生理学、海洋微生物学Ⅱ、魚類学、海洋生物細胞工学、雑草学Ⅱ、昆虫生態学Ⅱ、生態制御学、バイオインフォマティクス、環境毒性学、遺伝学Ⅱ、品質設計開発学、品質評価学、応用動物遺伝学、動物栄養機能学、動物環境生理学、海洋生態系学、海洋機能分子利用学、植物病理学Ⅱ、植物環境ストレス学、土壌学Ⅱ、農業科学、生物圏情報学Ⅱ、分析化学、生物有機化学Ⅱ、植物栄養学、食品微生物学、酵素化学	畜産技術論と実習Ⅱ、食品安全学Ⅱ、資源生物科学特別科目Ⅰ、資源生物科学特別科目Ⅱ、資源生物科学特別科目Ⅲ、資源生物科学特別科目Ⅳ、作物科学演習、園芸科学演習、耕地生態科学演習、品質科学演習、生産管理科学演習、応用動物科学演習Ⅰ、応用動物科学演習Ⅱ、海洋生物資源学演習、海洋微生物学演習、海洋生物生産学演習、資源植物科学演習、植物保護科学演習、生産生態科学演習、課題研究
応用生命科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、応用生命科学入門Ⅰ、応用生命科学入門Ⅱ、応用生命科学入門Ⅲ、応用生命科学入門Ⅳ	細胞生物学概論、生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、有機構造解析学、生物物理学Ⅰ、有機反応機構論Ⅰ、有機反応機構論Ⅱ、応用微生物学Ⅰ、食品安全学Ⅰ	生物物理学Ⅱ、分析化学、生物有機化学Ⅰ、生物有機化学Ⅱ、生物有機化学Ⅲ、一般生体高分子化学、生体高分子構造論、構造生物学、応用微生物学Ⅱ、応用微生物学Ⅲ、植物栄養学、植物生化学Ⅰ、分子生物学Ⅰ、分子生物学Ⅱ、分子細胞生物学Ⅰ、分子細胞生物学Ⅱ、基礎生理学、専門外国書講義、植物生化学Ⅱ、産業微生物学、分析化学実験、生化学実験、分子生物学実験、植物生化学実験、応用微生物学実験、有機化学実験、生物物理学実験	応用微生物学Ⅳ、栄養化学、食品工学、醸造食品学概論、食品工業論、食品安全学Ⅱ、土壌学Ⅰ、応用生命科学演習Ⅰ、応用生命科学演習Ⅱ、課題研究
地域環境工学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、地域環境工学概論Ⅰ、地域環境工学概論Ⅱ、地域環境工学演習	大気環境学、応用数学、応用力学、材料力学、水理学、工業数学C、土木材料学、土壌物理学、振動学、熱力学及び伝熱工学、数値計画法、情報処理学及び演習Ⅰ、情報処理学及び演習Ⅱ、栽培技術論と実習Ⅰ	環境動態学、測量学、構造解析学、環境水文学、地域整備開発施設学、灌漑排水学、農村計画学、農地整備学、水資源利用学、利水システム工学、生物機械計測学、農用エネルギー、動力学、フィールドロボティクス、農産加工機械学、制御工学、機械設計、電気・電子工学、農業機械学専門外書講義、作物学Ⅰ、蔬菜園芸学、果樹園芸学Ⅰ、土壌学Ⅰ、農学原論、食料・環境政策学、資源環境経済学、食品工学、砂防学Ⅰ、森林水文学、森林生態学、土木材料・環境地盤工学実験、水理学実験、土壌物理学・水環境工学実験、測量法及び実習、施設機能工学演習、計算水理学演習、農業機械学実験Ⅰ、農業機械学実験Ⅱ、製図（CAD）演習、技術英語演習	国土・地域計画、生物圏情報学Ⅰ、生物圏情報学Ⅱ、地域環境工学実習、灌漑排水学演習、農村整備計画演習、農業機械学演習、課題研究
食料・環境経済学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、食料・環境経済学概論Ⅰ、食料・環境経済学概論Ⅱ、食料環境基礎社会・経済論、国際農林業概論、食料・環境経済入門	経済原論Ⅰ（ミクロ経済学）、経済原論Ⅱ（社会経済学）、経済原論Ⅲ（マクロ経済学）、経済思想史、社会経済史、農林統計利用実習、農業発展論、農業会計学基礎実習、資源生物科学基礎、アグリビジネス論、調査研究方法実習Ⅰ、調査研究方法実習Ⅱ	農業組織経営学、農業経営情報会計学、資源環境経済学、食料・環境政策学、林業政策学、国際農村発展論、農業・農村史、農学原論、農企業問題特論、農業資金会計論、資源環境分析学、農林統計学、農産物価格論、林業経済学、農村社会学、専門外国書講義Ⅰ（英語）、専門外国書講義Ⅱ（ドイツ語）、作物学Ⅰ、土壌学Ⅰ、植物栄養学、農村計画学、水資源利用学、国際森林資源論、熱帯林環境学、花卉園芸学、栄養化学、農地整備学、野生動物保全学、熱帯森林資源学、食品安全学Ⅰ、食品化学、リスク管理論、食料・農業経済情報論、食・農学倫理、農業組織経営学演習Ⅰ、農業経営情報会計学演習Ⅰ、資源環境経済学演習Ⅰ、食料・環境政策学演習Ⅰ、林業政策学演習Ⅰ、国際農村発展論演習Ⅰ、農業・農村史演習Ⅰ、農学原論演習Ⅰ、農林経営経済調査実習、食料・環境経済学特別講義Ⅰ	国土・地域計画、食料・環境経済学特別講義Ⅱ、食料・環境経済学特別講義Ⅲ、食料・環境経済学特別講義Ⅳ、食料・環境経済学特別講義Ⅴ、食品安全学Ⅱ、森林法律論、農業組織経営学演習Ⅱ、農業組織経営学演習Ⅲ、農業経営情報会計学演習Ⅱ、資源環境経済学演習Ⅱ、食料・環境政策学演習Ⅱ、食料・環境政策学演習Ⅲ、林業政策学演習Ⅱ、林業政策学演習Ⅲ、国際農村発展論演習Ⅱ、国際農村発展論演習Ⅲ、農業・農村史演習Ⅱ、農業・農村史演習Ⅲ、農学原論演習Ⅱ、農学原論演習Ⅲ、課題研究
森林科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、森林基礎科学Ⅰ、森林基礎科学Ⅱ、森林基礎科学Ⅲ、森林基礎科学Ⅳ	森林科学Ⅰ、森林科学Ⅱ、森林科学Ⅲ、森林科学Ⅳ、大気環境学、森林科学実習Ⅰ、森林科学実習Ⅱ、森林科学実習Ⅲ、森林科学実習Ⅳ、研究林実習Ⅰ	国際森林資源論、森林計画学、造園学Ⅰ、造園学Ⅱ、森林利用学、樹木生理学、森林育成学、森林植物学、森林資源管理学、森林環境学、森林生態学、群集生態学、森林植物繁殖学、野生動物保全学、熱帯林環境学、熱帯森林資源学、樹木細胞生理学、細胞壁形成論、砂防学Ⅰ、砂防学Ⅱ、森林水文学、森林影響論、生物材料物性学、木構造学、木材加工学Ⅰ、木材加工学Ⅱ、セルロース化学、バイオマス化学、森林生化学Ⅰ、森林生化学Ⅱ、高分子合成化学、バイオマス複合材料化学、生物材料物理学、生物材料構造学、専門外国書講義Ⅰ、コンピュータ利用と森林科学、森林総合実習及び実習法、森林生物学実験及び実験法、森林物理学実験及び実験法、森林基礎化学実験及び実験法、森林利用学実習及び実習法、基礎生態学実験及び実験法、応用生態学実験及び実験法、樹木の超微形態観察及び観察法、森林水文・砂防学実験及び実験法、木材工学実験及び実験法、木材加工学実験及び実験法、バイオマス化学実験及び実験法Ⅰ、バイオマス化学実験及び実験法Ⅱ、造園学実習Ⅰ、研究林実習Ⅱ、研究林実習Ⅲ、研究林実習Ⅳ	緑地植物学、専門外国書講義Ⅱ、森林法律論、緑地計画論、森林有機化学、高分子物性学、バイオマスエネルギー、生物圏情報学Ⅰ、生物圏情報学Ⅱ、木材保存学、木質材料学、住環境学、きのこ学、森林科学特別科目Ⅱ、林業政策学、林業経済学、測量学、水理学、土壌学Ⅰ、土壌学Ⅱ、材料力学、構造解析学、振動学、熱力学及び伝熱工学、応用数学、森林分析化学、造園学実習Ⅱ、建築設計・製図実習、森林科学演習、課題研究
食品生物科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、食品基礎生化学Ⅰ、食品基礎生化学Ⅱ、食品有機化学Ⅰ、食品安全学Ⅰ	食品有機化学Ⅱ、食品有機化学Ⅲ、食品物理学Ⅰ、食品物理学Ⅱ、食品生化学Ⅰ、食品生化学Ⅱ、酵素の作用と応用、応用数学、生物統計学、食品生物科学入門及び実習	食品安全学Ⅱ、食品生化学Ⅲ、食品微生物学、食品生理学、酵素化学、生命有機化学、栄養化学、食品工学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、生体情報応答学、微生物生産学、食品化学、専門外国書講義Ⅰ、専門外国書講義Ⅱ、食品生物科学基礎実験及び実験法、有機化学実験及び実験法、食品・栄養化学実験及び実験法、化学工学実験及び実験法、酵素化学・生化学実験及び実験法、微生物学実験及び実験法、生命科学実験及び実験法	食品工業論、醸造食品学概論、食品生物科学演習、課題研究

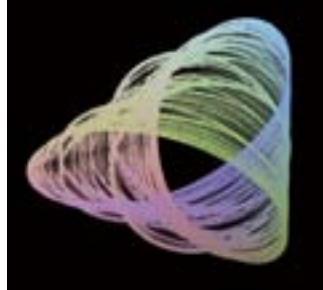
教員の研究テーマ紹介

ここでは、京都大学教員の研究テーマを学部ごとに紹介します。
進路の選択や、興味ある研究テーマを探すための参考にしてください。

Research Activities



総合人間学部



赤松 紀彦 教授

(高等教育研究開発推進センター兼務)
中国古典演劇

浅野 耕太 教授

環境経済学, 応用計量経済学

阿辻 哲次 教授

漢字の歴史

石川 尚人 教授

古地磁気学・岩石磁気学的情報による地球表層部での地学現象(超大陸の形成史, 古環境変遷など)の解明

石田 明文 教授

ドイツ近代の知の構造

石原 昭彦 教授

神経・筋の可塑性に関する分子生物学的研究

稲垣 直樹 教授

◎ヴィクトル・ユゴー研究
◎近現代フランス小説とその日本での受容
◎科学技術と擬似科学の文化表象

伊従 勉 教授

近現代建築都市論研究, 歴史民俗世界の祭儀空間研究

宇敷 重広 教授

力学系の分岐理論, カオス・フラクタル, 複素力学系

内田 賢徳 教授

古代日本語文法の研究・和歌のこぼの研究

内本 喜晴 教授

次世代電気化学エネルギー変換デバイス-高エネルギー密度蓄電池・高効率燃料電池-

江田 憲治 教授

1920-30年代の中国政治史・思想史

大川 勇 教授

ドイツ・オーストリア文学, 中欧精神史, 教養論

大木 充教授

外国語教授法, 動機づけ, 自律学習, CALL

岡 真理 教授

◎現代アラブ文学
◎第三世界のフェミニズム思想
◎パステナ問題

岡田 温司 教授

◎西洋美術史・芸術理論
◎表象文化論
◎現代思想

岡田 敬司 教授

教育において自律, かかわり, 共同体を問う

小方 登 教授

(地球環境学堂)
コンピュータを利用した地理情報処理, 宇宙からの映像による遺跡探査と歴史景観復原

奥田 敏広 教授

20世紀ドイツの長編小説-トーマス・マンを中心に-

尾野 照治 教授

ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ中世の思想・文芸作品および法書・史書に映し出された当時の人々の理想像ならびに生活像

加藤 真 教授

(地球環境学堂兼務)
植物や動物の生態と進化, 生物の多様性と生態系の保全

加藤 幹郎 教授

映画学ならびに表象文化論(アイルランド亡国文学研究等)

金坂 清則 教授

◎都市の地域的存在様式と地域整備に関する歴史地理学的研究
◎イザベラ・バードを主とする19世紀英国の旅行家とその活動に関する研究

鎌田 浩毅 教授

火山学, 地質学, 地球科学, 科学教育法, コミュニケーション論

河崎 靖 教授

言語学・文献学

川島 昭夫 教授

近代イギリスの文化史, 社会生活史および科学の制度史

小島 泰雄 教授

人文地理学, 中国農村の生活空間研究

小林 茂夫 教授

(情報学研究科)
感覚を生むしくみ, 記憶素子の探索

小山 静子 教授

近代日本における教育とジェンダーに関する歴史的研究

齋木 潤 教授

視覚認識の認知神経科学的研究

齋藤 治之 教授

ドイツ語の歴史および印欧語比較言語学

佐伯 啓思 教授

現代社会の諸現象を思想的背景にもとづいて分析する。

酒井 敏 教授

大気・海洋の流体としての力学

阪上 雅昭 教授

実験室でブラックホールを造る, 惑星形成, 群れの科学

佐藤 義之 教授

メルロ＝ポンティ, レヴィナスを手がかりとした, 現象学ならびに倫理学の研究

篠原 資明 教授

間哲学と交通論という立場にもとづく芸術の研究

新宮 一成 教授

精神分析および精神医学の思想と臨床実践の研究

菅原 和孝 教授

身体性の人類的考察, 相互行為とコミュニケーションの人類的分析, 狩猟採集民の社会と生態

杉万 俊夫 教授

グループ・ダイナミクス, 社会心理学

杉山 雅人 教授

(地球環境学堂兼務)
水圏における化学物質の分布・循環機構・動態に関する研究。環境化学物質の高感度検出法に関する研究

須田 千里 教授

日本近代文学の研究

多賀 茂 教授

十八世紀フランスの知の構造及びフランス現代思想

高崎 金久 教授

代数解析, 数理解論, 可積分系

高橋 由典 教授

感情を基点とする社会学理論の研究

竹安 邦夫 教授

(生命科学研究所)
細胞のナノバイオロジー, バイオインフォーマティクス

田地野 彰 教授

(高等教育研究開発推進センター)
教育言語学, 教育文法, 外国語の教授と学習, 第二言語習得論

田部 勢津久 教授

光機能性材料化学, フォトニクス, 白色LED蛍光体, 発光材料, 太陽光発電

田邊 玲子 教授

近代西欧, 特にドイツの文学現象における人間, ジェンダー, セクシュアリティ観

田村 類 教授

◎分子のキラリティーが誘起する物質の新しい現象や性質に関する研究
◎キラリ機能性有機化合物の設計・合成と物性に関する研究

壇辻 正剛 教授

(学術情報メディアセンター)
言語音の分析と記述, 言語学の実用研究

津田 謹輔 教授

糖尿病・栄養学

東郷 雄二 教授

◎一般言語学における機能言語学, 談話理論, 意味論
◎フランス語の冠詞論, 時制論

富田 恭彦 教授

◎粒子仮説を基盤とした17世紀観念説の理論空間とその変貌
◎現代言語哲学・科学哲学

中西 輝政 教授

冷戦後の新しい国際政治秩序の形成と東アジアの地域秩序の相関

西垣 安比古 教授

東アジアの住まいに関する建築論的研究／住居観の史的考察

西村 稔 教授

18～19世紀ドイツ法文化史および近代日本道徳思想史

西山 良平 教授

日本古代・中世の都市・文化・社会

服部 文昭 教授

スラヴ諸語の研究

ブライアン・マサル・ハヤシ 教授

アメリカ20世紀の移民史

廣野 由美子 教授

19世紀イギリス小説, 小説技法, 物語論

藤田 耕司 教授

生成文法, 生物言語学による言語能力の起源・進化研究

船橋 新太郎 教授

(こころの未来研究センター)
前頭連合野の機能に関する神経科学的研究

カール・ベッカー 教授

(こころの未来研究センター)
生命倫理・医療倫理の教育と東西比較

前川 覚 教授

物性物理学, 極低温における磁性体の量子力学的現象やスピン現象の核磁気共鳴法による研究

前川 玲子 教授

20世紀のアメリカ思想・文化史研究

松井 正文 教授

両生爬虫類の系統分類学的研究

松浦 茂 教授

17・18世紀のアムール川流域史, 18世紀東アジア地理学史, 清初史

松下 和夫 教授

(地球環境学堂)
公共政策としての環境政策論の研究, 特に地球環境に関する法的・制度的な枠組みの検討と政府・企業・NGOなどの多様な主体の役割の分析

松田 清 教授

日本洋学史, 日欧文化交流史

松田 英男 教授

イギリスおよびアメリカ映画論

松村 道一 教授

運動制御の神経機構

間宮 陽介 教授

公共的空間 (コモンズ, 都市空間, 政治空間) に関する研究

丸橋 良雄 教授

英国喜劇と比較演劇

水野 尚之 教授

◎アメリカ19・20世紀の小説
◎アメリカの都市の成立と文化

水野 真理 教授

英国ルネサンス期の文学と文化, イングランド人による自己と他者・異文化の表象

三谷 恵子 教授

中・東欧の言語と文化, 言語接触と言語変化, 言語と社会

道籟 泰三 教授

W.ベンヤミン, S.フロイト等19, 20世紀のドイツ語圏文学・思想の研究

宮本 嘉久 教授

ソフトマターの構造形成, 緩和現象, 破壊

元木 泰雄 教授

日本中世成り期の政治史, 院政・武士・内乱について

森谷 敏夫 教授

生体信号処理・応用生理学

森本 芳則 教授

偏微分方程式に対する非線形超局所解析

山口 良平 教授

有機金属分子・錯体の構造と触媒機能の探求, ならびにその触媒機能を活用した環境調和型分子変換に関する研究

山田 孝子 教授

東アジア諸民族における宗教と生態に関する人類学的比較研究

山梨 正明 教授

言語学 (意味論・語用論)・記号論

山本 行男 教授

(高等教育研究開発推進センター兼務)
酵素や生体関連物質の機能解明研究

吉田 純 教授

(高等教育研究開発推進センター)
ドイツの社会思想・社会理論, 情報ネットワーク社会の理論的・経験的研究

依田 義丸 教授

創造行為としての演劇 (特にシェイクスピアを中心とした英米演劇)

エンゲルベルト ヨリッセン 教授

日欧交渉史, 西南ヨーロッパのルネサンス・バロック時代, ヨーロッパの領土拡張政策に関連した問題, 比較文化・比較文学, インド英文学

安部 浩 准教授

M.ハイデガーを中心とする存在論・実存哲学。H.ヨナスを中心とする環境思想。

市岡 孝朗 准教授

生態学, 昆虫学, 熱帯雨林における群集生態学

上木 直昌 准教授

確率解析学

大倉 得史 准教授

人間の自己性・主体性の形成過程についての研究

小倉 紀蔵 准教授

東アジア比較思想, 朝鮮文化・思想

小畑 史子 准教授

(地球環境学堂)
労働災害の予防と補償を中心とする労働法, 環境法, 民法などの研究

勝又 直也 准教授

◎中世ヘブライ文学
◎ユダヤ学
◎地中海・中東における3つの一神教文明の交流史

桂山 康司 准教授

(高等教育研究開発推進センター兼務)
英国宗教詩人の研究 - ミルトン, ホプキンスを中心に -

木坂 正史 准教授

力学系理論, 特に複素力学系

木下 俊哉 准教授

レーザー冷却, トラッピング, 冷却原子を用いた物性物理学

桑山 智成 准教授

英国ルネサンス期における演劇と詩

神崎 素樹 准教授

◎協働筋の機能的意義の解明
◎立位姿勢制御の解明

小木曾 哲 准教授

岩石から読み取る地球の営み

櫻川 貴司 准教授

計算機科学

佐野 亘 准教授

政治・政策に関する規範理論の研究

瀬戸口 浩彰 准教授

植物系統進化学・植物地理学

大黒 弘慈 准教授

貨幣・信用を中心とする経済理論および経済思想史

高谷 修 准教授

18世紀英文学及び比較文学

立木 秀樹 准教授

プログラミング言語理論, 実数計算, 連続性と計算可能性, 及びフラクタル立体図形の研究

津江 広人 准教授

構造有機化学および合成有機化学を基盤とした, 窒素架橋かご形分子の合成と物性に関する研究

月浦 崇 准教授

ヒト記憶の脳内機構に関する認知神経科学的研究

辻 正博 准教授

中国中世 (六朝隋唐時代) の政治制度, 中国法制史, 敦煌・トルファン出土文書研究

戸田 剛文 准教授

認識論・近代イギリス経験論・知覚

中嶋 節子 准教授

近代都市史, 都市景観史, 建築史。自然景観や建築から都市の歴史を読む

永田 素彦 准教授

社会心理学, グループ・ダイナミクス; 防災・災害, コミュニティ活性化, 科学技術と社会

中森 誉之 准教授

言語習得理論・認知科学理論を基盤とした効果的かつ効率的な英語学習・指導理論の構築

西山 教行 准教授

外国語教育ならびに言語政策, フランコフォニー, 植民地主義などの研究

林 達也 准教授

運動による糖・脂質・エネルギー代謝活性化とそのメカニズム解明

日置 尋久 准教授

データハイディング (ステガノグラフィ)

マーク・ピーターソン 准教授

コンピューターを利用した英語教育

藤田 健一 准教授

(地球環境学堂兼務)
新しい有機遷移金属錯体の創製と環境調和型分子変換触媒としての応用

藤原 直樹 准教授

高温超伝導体の研究, (高圧下での) 強相関電子系の研究

道坂 昭廣 准教授

中国古典文学, 特に南北朝から唐の散文。江戸から明治時代の漢文学

宮下 英明 准教授

微生物の多様性と多機能性に関する研究。藻類学, 系統進化学, 微生物生態学, 生物工学

吉村 成弘 准教授

(生命科学研究所)
1分子イメージング・計測・操作技術を用いて, 細胞核内の分子構造や分子反応機構を解明する。

細川 浩 講師

(情報科学研究科)
神経生物学, 細胞生物学, 行動をうみだす神経ネットワークの研究

見平 典 講師

憲法秩序形成の在り方に関する規範的分析と経験的分析

文学部



哲学基礎文化学系

哲学専修

伊藤 邦武 教授

合理性をめぐる現代哲学

出口 康夫 准教授

数理哲学および分析アジア哲学の研究

西洋古代哲学史専修

中畑 正志 教授

西洋古代哲学の研究。現代英語圏哲学を視野に入れた「心の哲学」の研究

西洋中世哲学史専修

川添 信介 教授

トマス・アクィナスの自然法論、スコラ哲学における心身問題

西洋近世哲学史専修

福谷 茂 教授

カントを中心とする近世哲学史、形而上学史

日本哲学史専修

藤田 正勝 教授

西田哲学をはじめとする日本近代哲学の研究

倫理学専修

水谷 雅彦 教授

現代倫理学の理論的研究、コミュニケーション及び情報の倫理学的研究

宗教学専修

氣多 雅子 教授

近代のニヒリズムの本質と思想的系譜について

杉村 靖彦 准教授

現代フランス哲学と京都学派の哲学を発想源とした、「宗教哲学」の批判的再構築

キリスト教学専修

芦名 定道 教授

近代キリスト教世界の形成と現代キリスト教思想の諸問題について

美学美術史学専修

中村 俊春 教授

17世紀フランドル絵画史

根立 研介 教授

日本仏教美術史、特に仏師論、美術の対外受容、肖像彫刻論など。

吉岡 洋 教授

現代のメディア、テクノロジー環境を見据えた美学・芸術理論

平川 佳世 准教授

ドイツを中心とする北方ルネサンス美術、および北方美術とイタリア美術の交流について

東洋文化学系

国語学国文学専修

木田 章義 教授

日本語の歴史

大谷 雅夫 教授

国文学の研究、特に和漢比較文学研究

大槻 信 准教授

古代日本語の研究

金光 桂子 准教授

中古・中世の物語文学

中国語学中国文学専修

川合 康三 教授

六朝・唐宋の文学

平田 昌司 教授

中国における言語の史的変化と社会変動・情報技術の変遷過程について

木津 祐子 准教授

中国近世口語史の研究、対話型テキストの文献論的研究

緑川 英樹 准教授

唐宋変革期における詩文および文学理論の研究

中国哲学史専修

池田 秀三 教授

漢魏六朝の学術と思想

宇佐美 文理 准教授

中国思想史、特に存在論と藝術論についての研究

インド古典学専修

横地 優子 准教授

インド古代から中世にかけてのヒンドゥー教の神話・信仰の変遷。特に大女神信仰の形成過程

ディヴァカル・ナート・アーチャールヤ 准教授

写本に基づくインド哲学研究

仏教学専修

宮崎 泉 准教授

インド大乘仏教とそのチベットへの伝播について

西洋文化学系

西洋古典学専修

高橋 宏幸 教授

ラテン文学を主対象とする古典文献学

マルティン・チエシュコ 准教授

ギリシア・ローマ演劇、叙情詩

スラブ語学スラブ文学専修

佐藤 昭裕 教授

スラブ言語学、古教会スラブ語、古ロシア文章語の成立について

ドイツ語学ドイツ文学専修

西村 雅樹 教授

19世紀末から20世紀前半にかけてのオーストリアの文学ならびに文化の研究

松村 朋彦 准教授

18・19世紀ドイツ文学・文化史

英語学英文学専修

宮内 弘 教授

英詩（特にルネサンス期と20世紀）及び文体論研究

佐々木 徹 教授

ディッケンズを中心としたイギリス小説研究

廣田 篤彦 准教授

ルネサンス期のイギリス演劇（特にシェイクスピア）

家入 葉子 准教授

英語史・歴史社会言語学・現代英米語法研究・コーパス言語学

アメリカ文学専修

若島 正 教授

Vladimir Nabokov を中心としたアメリカ小説の研究

森 慎一郎 准教授

アメリカ小説研究（F・スコット・フィッツジェラルドなど）

フランス語学フランス文学専修

吉川 一義 教授

近現代フランス文学。プルースト小説の生成および絵画との関連。

田口 紀子 教授

フランス語学・テキスト言語学。文学テキストの言語学的解析により、形式面から作品の意味を明らかにする。

増田 真 准教授

ルソーを中心とする18世紀フランスの思想と文学

永盛 克也 准教授

フランス17世紀演劇の劇作法と文学理論の関係

エリック・アヴォカ 特定准教授

18-19世紀のフランス文学と政治、フランス革命の演説家たち、悲劇と悲劇的なるもの、演劇性、歴史記述、創作中の政治

イタリア語学イタリア文学専修

天野 恵 教授

ルネサンス期のイタリア文学、特に騎士物語詩

ダニエーラ・シャローム・ヴァーガータ 特定准教授

ダンテおよびイタリア近現代文学と60年代のイタリア映画

歴史基礎文化学系

日本史学専修

藤井 譲治 教授

日本近世政治史研究

勝山 清次 教授

日本中世の社会と国家

吉川 真司 教授

日本古代史

谷川 穰 准教授

近代日本の教育／宗教／社会史研究

東洋史学専修

夫馬 進 教授

中国明清社会研究

杉山 正明 教授

モンゴル時代史

吉本 道雅 教授

中国古代史（西周～前漢）・中国古代中世民族史（10世紀以前）

中砂 明德 准教授

17世紀の世界史とイエズス会

高嶋 航 准教授

近代東アジアの社会と文化

西南アジア史学専修

井谷 鋼造 教授

西南アジア史、アラビア文字資料研究

久保 一之 准教授

前近代中央アジア・イラン史

西洋史学専修

服部 良久 教授

ドイツを中心とするヨーロッパ中世の政治・社会・文化の研究

南川 高志 教授

ローマ帝国政治史・社会史の研究、古代末期の研究

小山 哲 教授

ポーランド近世史、とくに貴族の政治文化の研究

金澤 周作 准教授

近代イギリスにおける国制、チャリティ、海事の研究

考古学専修

上原 真人 教授

日本における瓦生産体制の変遷について

泉 拓良 教授

西日本縄文文化・社会の研究及び、中東フェニキアの考古学的研究

吉井 秀夫 准教授

考古資料を通して朝鮮三国時代の地域性や地域間関係を復元し、その意味を考察する。

行動・環境文化学系

心理学専修

藤田 和生教授

知性と感情の多様性と進化に関する行動的研究

櫻井 芳雄教授

心の実体である脳内の情報表現を神経細胞の活動から解明する認知神経科学的研究

板倉 昭二教授

エージェントの理解と社会的認知の発達科学的研究

藤田 宏准教授

視覚を中心とする感覚・知覚とその脳内機構に関する心理物理学・認知神経科学的研究

言語学専修

田窪 行則教授

理論言語学（生成文法、語用論、談話理論）、調査言語学（琉球諸語）、日本語、英語、朝鮮語の統語論・語用論

吉田 和彦教授

インド・ヨーロッパ諸語比較言語学

吉田 豊教授

中央アジア出土中世イラン語文獻の言語学的・文献学的研究

社会学専修

伊藤 公雄教授

ポピュラー・カルチャーを対象とした文化社会学的研究

松田 素二教授

アフリカ都市社会の研究

落合 恵美子教授

家族と親密性の比較社会学

田中 紀行准教授

ヴェーバー社会学の再構成と継承に関する研究

太郎丸 博准教授

社会階層論、数理社会学、社会学の方法論

森本 一彦 特定准教授

民族・歴史社会学による家族・親族論、地縁社会学論、民俗宗教学論

安里 和晃 特定准教授

移民政策論、特にアジアにおける看護・介護・家事労働をめぐる人の国際移動

ライカイ、ジョンボル、ティボル 特定准教授

家族社会学、とりわけ非西欧文化圏における家族の変動と家族イデオロギーの比較研究

地理学専修

小林 致広教授

中南米の先住民社会ならびに先住民運動の研究

石川 義孝教授

人の空間的流動をはじめとする人口地理学研究、およびエスニック地理学研究

杉浦 和子教授

都市の空間構造の形成や変化の過程に関するモデル化について

米家 泰作准教授

近世・近代日本における地理的知と環境の歴史地理学的検討

基礎現代文化学系

科学哲学科学史専修

伊藤 和行教授

力学を中心とした西欧近代初期科学史、ルネサンスの科学思想史

伊勢田 哲治准教授

科学者共同体の哲学、科学的実在論、バイズ主義、功利主義、科学技術倫理

情報・史料学専修

林 晋教授

情報化社会と情報技術の人文・社会学的分析とそれに関連する近現代史、人文情報学

二十世紀学専修

杉本 淑彦教授

フランス植民地帝国の社会史をテーマとし、文学・絵画・映画などを素材にして、フランス民衆のアラブ観・イスラーム観を研究している。

現代史学専修

永井 和教授

戦前日本における政軍関係の研究、倉富勇三郎日記の研究と翻刻・刊行

小野澤 透准教授

アメリカ外交史および冷戦史の研究

教育学部



辻本 雅史教授

教育史学：日本教育史・近世思想史

鈴木 晶子教授

教育学：教育哲学・思想史

駒込 武准教授

教育史学・植民地教育史

山名 淳准教授

教育学：教育哲学・思想史

山田 洋子教授

発達教育論：生涯発達心理学・ことばとイメージ・フィールド心理学

田中 耕治教授

教育方法学：学力論、授業論、評価論

西岡 加名恵准教授

教育方法学：カリキュラム論、教育評価論

明和 政子准教授

発達教育論：比較認知発達科学、乳幼児期の心の発達・模倣

子安 増生教授

発達心理学：視点理解、心の理論、創発的思考

楠見 孝教授

認知心理学：比喩・類推、知識、熟達化、意思決定

齊藤 智准教授

認知心理学：記憶・作動記憶、言語産出、言語理解

野村 理朗准教授

認知心理学：感情認識・表出、自己制御、生命システム

岩井 八郎教授

教育社会学：ライフコース・教育と社会移動

稲垣 恭子教授

教育社会学：学校社会学・青年文化史

川崎 良孝教授

図書館情報学

前平 泰志教授

生涯教育学

渡邊 洋子准教授

生涯教育学：生涯学習・成人教育の国際比較研究、社会教育史

佐藤 卓己准教授

広報学：メディア社会学、マス・コミュニケーション研究、情報史

高見 茂教授

教育政策学：教育資源分配と公共政策

杉本 均教授

比較教育学：教育と国際関係（東南アジア）

金子 勉准教授

教育行政学：高等教育に関する立法過程、大学の自治

南部 広孝准教授

比較教育学：高等教育改革の国際比較研究

矢野 智司教授

教育人間学：生成と発達の教育人間学、贈与と交換の教育人間学

西平 直教授

臨床教育学：人間形成と東洋哲学

齋藤 直子准教授

教育人間学：アメリカの教育哲学

桑原 知子教授

心理臨床学・人格心理学：心理臨床及び人格のダイナミズムに関する研究

田中 康裕准教授

心理臨床学：ユング心理学に基づく心理療法における治療とその限界

大山 泰宏准教授

心理臨床学：心理療法論、臨床心理学の言説研究

皆藤 章教授

臨床実践指導学：心理臨床学・心理臨床と教育の接点

高橋 靖恵准教授

臨床実践指導学：心理臨床学・心理アセスメント・心理療法における家族コミュニケーション

角野 善宏教授

(臨床教育実践研究センター)
臨床心理実践学：心理療法・精神医学

松木 邦裕教授

(臨床教育実践研究センター)
臨床心理実践学：精神分析・心理療法

松下 姫歌准教授

(臨床教育実践研究センター)
臨床心理実践学：心理臨床におけるイメージと心的体験のリアリティに関する研究

法学部



法学部の研究テーマ紹介については、法学部の学部紹介（62, 63 ページ）に掲載されています。

経済学部



経済経営学科

依田 高典 教授

「ネットワーク・エコノミクス」情報通信・電力・ガスのようなネットワーク産業の理論・実証研究。特にBBサービスの需要分析、規制機関分割の契約理論的分析、産業融合における経済政策分析など

岩本 武和 教授

国際貿易・国際金融に関する理論的、歴史的研究

植田 和弘 教授

財政と公共政策に関する基礎理論、持続可能な社会の経済と財政、環境制御の財政理論、循環型社会の理論と政策

宇仁 宏幸 教授

経済制度の多様性と補完性、日本と米国の成長体制の分析、輸出主導型成長と為替体制の国際比較

江上 雅彦 教授

ファイナンス工学

大西 広 教授

「レーニン型」の国際資本リンクモデルの構築から、「マルクス＝新古典派型」の2部間成長モデルの開発へとテーマを移動。後者は「技術に依存した経済システムの転換」過程のモデル化でもあり、その観点から中国経済の転換過程分析も行っている。

岡田 知弘 教授

日本における地域開発、産業構造の再編と地域経済の変動、経済のグローバル化と地域、都市形成史、農村経済論、アグリビジネス論

加藤 康之 教授

金融工学、ファイナンス理論、投資理論

黒澤 隆文 教授

近現代ヨーロッパ経済史・経済政策史、工業経済論

小島 専孝 教授

ケンブリッジ学派の経済理論に関する学説史研究。とくにホートリー、ピグーの貨幣・景気・雇用理論を研究。

澤邊 紀生 教授

会計学、管理会計学、会計制度形成過程の研究

塩地 洋 教授

自動車産業に関して、その史的形成過程及び現在の構造的特質、国際比較等を生産、開発、流通等の全分野において解明している。

島本 哲朗 教授

マスメディアの経済学、金融政策の有効性

末松 千尋 教授

事業創成、ITビジネス論、IT戦略論

相山 泰生 教授

企業のグローバル戦略、企業内研究のマネジメント、イノベーションにおける協働とビジネス・エコシステムのマネジメント

武石 彰 教授

技術経営、競争戦略

田中 秀夫 教授

17～18世紀の英国（スコットランドを含む）の社会思想の諸側面を原資料の分析を通して解明すること

徳賀 芳弘 教授

会計基準の国際的調和化現象の分析、研究開発投資の効果発現に関する会計学的考察

成生 達彦 教授

マイクロ経済学への応用という観点から、企業組織、企業間関係、マーケティング、流通について研究しています。

西牟田 祐二 教授

経営史、国際経営史、投資銀行史。

根井 雅弘 教授

マーシャル以後の現代イギリス経済学

日置 弘一郎 教授

組織論、経営人類学、共生経営、事業創成。

久野 秀二 教授

グローバル資本主義における農業・食料システムの構造と動態、主要アクターである各国政府、国際機関、多国籍アグリビジネス、農民・市民社会組織等の諸関係に関する政治経済学的・農業社会学的な分析。

久木 憲夫 教授

一国の労使関係・人材育成・処遇制度などが固有にもつ論理の相違点と共通点を国際比較を通じて解明すること

藤井 秀樹 教授

会計の比較制度分析、国際会計論 公会計、非営利組織（NPO）会計

堀 和生 教授

日本、中国、朝鮮の近代経済史を比較検討し、東アジアの発展理論を構築することをめざしている

文 世一 教授

都市の空間構造に関する理論的、実証的分析、交通政策の分析

諸富 徹 教授

環境税、排出権取引制度をはじめとする、環境政策における経済的手段の研究。租税構造の歴史的変動と租税思想史の研究。地域の持続可能な発展とそれを支える財政システムの研究。

劉 徳強 教授

中国の経済改革と経済発展における諸問題を研究している。

若林 直樹 教授

企業組織でのネットワーク行動に関する実証研究

若林 靖永 教授

マーケティング・流通・商業。顧客満足志向マーケティング（組織）、リレーションシップ・マーケティング、非営利・協同組織のマーケティング。

飯山 将晃 准教授

情報処理論、メディア工学

稲葉 久子 准教授

異なる文化的背景を持つ個人や組織が接触する際に、何を学習し、どのように多文化共存の途に活用できるか、探求すること。

宇高 淳郎 准教授

応用マイクロ経済学、特にマーケティング戦略の経済分析

菊谷 達弥 准教授

契約理論・ゲーム理論を用いた企業組織および企業間関係の分析、比較制度分析

草野 真樹 准教授

財務会計、国際会計

坂出 健 准教授

20世紀に登場した主要産業の一つである航空機産業における国際的な競争、協調関係の特質の検討をつうじて、欧米各国の産業構造の史的展開とその国際的連関を研究している。

佐々木 啓明 准教授

有効需要が産出や雇用を決めるとするポスト・ケインズ派の立場から、経済成長、景気循環、経済発展といった分野を理論的に分析している。

神事 直人 准教授

研究テーマ：国際貿易に関する研究。特に、貿易と環境／貿易と再生可能資源、等。

竹澤 祐丈 准教授

近代社会形成期の英国（イングランドとスコットランド）での議論、特に、共和主義思想を、同時代のヨーロッパの動向と関連付けながら、思想的に研究しております。

敦賀 貴之 准教授

マクロ経済学、特に物価に関する研究

曳野 孝 准教授

経済環境と社会組織が異なる条件のもとで、現在の世界経済の重要な要素である巨大企業がどのように生成し発展を遂げたかを、国際比較によって明らかにすること。

松井 啓之 准教授

行政の情報化、計画支援情報システムの開発、マルチエージェントシミュレーション

矢野 剛 准教授

途上国経済における企業金融、企業家の生成

ディミター・ヤルナツフ 准教授

◎ロシア・東欧における資本市場とコーポレート・ガバナンス
◎ブルガリアにおける市場経済移行
◎EU経済統合とEUの東方拡大

遊喜 一洋 准教授

マクロ経済学、特に経済発展のメカニズムや所得・資産分布の決定要因についての分析

若井 克俊 准教授

マイクロ経済学、金融経済学、行動経済学・行動ファイナンス

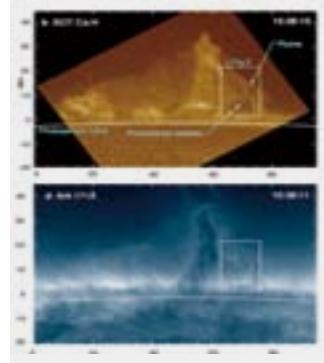
渡辺 純子 准教授

近現代日本経済史 停滞・衰退産業の産業調整に関する研究（繊維・石炭・造船・化学・金属等）

末石 直也 講師

計量経済学

理学部



数理科学系

池田 保 教授

（整数の性質に関する研究）
数論

泉 正己 教授

（解析学）
作用素環

磯 祐介 教授

（応用数学）
微分方程式論の数値解析、逆問題解析、応用解析学

上 正明 教授

（3, 4次元空間）
低次元トポロジー

上田 哲生 教授

（複素数とその関数）
多変数複素関数論および複素力学系

加藤 信一 教授

（対称性）
代数群の表現論

加藤 毅 教授

（幾何学）
空間の局所的な微分構造から大域的構造を調べる微分位相幾何学

木上 淳 教授

（解析学）
フラクタル上の解析、フラクタル幾何学

國府 寛司 教授

（ダイナミクス（時間と共に変化するシステムの解構造））
力学系とその分岐、力学系理論の応用

重川 一郎 教授

（確率論）
確率論 無限次元空間上の解析を確率論の立場から研究

穴倉 光広 教授

（力学系、複素解析）
力学系、特に複素力学系の変集合や分岐集合の研究

堀 誉志雄 教授

（微分方程式）
非線形偏微分方程式論 特に非線形分散型及び波動方程式

並河 良典 教授
(代数幾何)
代数幾何学 特に複素シンプレクティック多様体やカラビヤウ多様体の研究

西和田 公正 教授
(微分方程式, 数理ファイナンス)
偏微分方程式の解の構造

深谷 賢治 教授
(図形) (空間)
幾何学, 特に シンプレクティック幾何学, 位相的場の理論

三輪 哲二 教授
(代数解析学, 数理物理)
代数解析学, 数理物理

森脇 淳 教授
(代数幾何)
代数幾何学, 特にモディライ空間と数論的多様体の研究

吉川 謙一 教授
(解析的振率, モジュライ空間, 保型形式)
複素幾何学

吉田 敬之 教授
(保型形式, L 関数)
数論 保型形式から得られる L 関数について, その特殊値と零点の研究

浅岡 正幸 准教授
(空間の対称性)
力学系理論 特に低次元力学系の位相的性質の研究

市野 篤史 准教授
(整数, 対称性)
保型表現論

伊藤 哲史 准教授
(整数, 素数, 幾何学, 楕円曲線)
代数幾何学

入谷 寛 准教授
(数理物理と関係する幾何)
数理物理のミラー対称性に基づいた幾何学的現象の観察をしています

梅田 亨 准教授
(表現論, 不変式論)
関数解析 量子群対称性に基づく不変式論及び双対性の研究

大鍛治 隆司 准教授
(微分方程式論)
微分方程式論

太田 慎一 准教授
(空間の曲がり方)
微分幾何学, 特にリーマン幾何学

加藤 周 准教授
(対称性)
幾何学的表現論

岸本 大祐 准教授
(ホモトピー, ホモロジー)
代数的位相幾何学

小西 由紀子 准教授
(数理物理)
数理物理 特にミラー対称性などの弦理論に由来するテーマを研究

塩田 隆比呂 准教授
(古典可積分系)
微分方程式論

高村 茂 准教授
(複素幾何学)
複素曲線の退化の変形の構成や変形に関して最も安定な退化の分類研究

中西 賢次 准教授
(微分方程式)
偏微分方程式論

西村 進 准教授
(プログラム変換)
計算機科学 特にプログラミング言語の理論

畑 政義 准教授
(無理数論)
超越数論

藤井 道彦 准教授
(双曲幾何学, 多様体論)
微分位相幾何学 特に双曲多様体の変形の研究

藤野 修 准教授
(代数幾何学)
代数幾何学, 特に高次元代数多様体の双有理幾何学

矢野 孝次 准教授
(確率論)
確率過程論, ランダムな時間発展の極限定理の研究

山崎 愛一 准教授
(整数論)
多元環の整数論

吉田 伸生 准教授
(統計物理学に関連した確率論)
確率論 統計物理学の対象となる諸現象を確率論の立場から研究。特に相転移 (例えば液体の気化や凝固) の確率論的な仕組みについて

稲場 道明 講師
(代数方程式で定義される図形の研究)
代数幾何学におけるモジュライ理論

稲生 啓行 講師
(マンデルブロ集合, ジュリア集合)
複素力学系, 特に一次元複素力学系のくりこみとパラメータ空間の研究

平賀 郁 講師
(L-関数)
数論 特に保型表現

前野 悦輝 教授
(固体物理学)
◎スピン三重項超伝導体などの新しい超伝導体や磁性体の物質開発
◎熱測定などによる低温での量子凝縮状態の研究
◎低温での測定技術の開発

石田 憲二 教授
(ミクロな物性, 物質が低温で示す性質の研究)
固体物理学 新奇な超伝導体や磁性体の研究。主に原子核レベルのミクロな測定 (核磁気共鳴 (NMR) 実験を用いた研究)

松田 祐司 教授
(固体物理学 新奇超伝導状態の研究)
強く相関し合った電子系を示す新しい量子状態の電子輸送現象を中心に研究

芝内 孝禎 准教授
(超伝導, 固体中の電子が示す量子現象)
固体物性・低温物理学 超伝導を中心とした極低温・強磁場下における物質中の量子現象に関する実験的研究

高橋 義朗 教授
(レーザー冷却)
量子光学 中性原子のレーザー冷却及びその精密測定の基本物理への応用

田中 耕一郎 教授
(光物性)
◎超高速レーザー分光法をもちいた非平衡系のダイナミクスの研究
◎光誘起構造変化の素過程の解明
◎新しいテラヘルツ分光法の開発およびソフトマテリアルへの応用

中 楊子 准教授
(半導体, レーザー)
光物性物理学 レーザー分光による固体中の量子多体系の実験的研究, 光を用いた量子物質相の相制御。

八尾 誠 教授
(無秩序の中に秩序を見出す)
不規則系物理学 液体, アモルファス, マイクロクラスター等の構造, 量子物性, ダイナミクスに関する実験的研究

松田 和博 准教授
(液体金属の物性)
不規則系物理学 超臨界金属流体の構造, 量子物性, ダイナミクスに関する実験的研究

吉川 研一 教授
(生命現象を探索)
時空間秩序・生命物理 生命・非生命に限らず, 非平衡開放系に潜む一般原理の解明をめざす。

市川 正敏 講師
(うごめく物体)
生命現象などの, ソフトマテリアル系における非平衡現象の実験的研究

山本 潤 教授
(ソフトマター物理学)
液晶・高分子・ゲル・マイクロエマルジョン・生命体の階層構造とダイナミクス

高西 陽一 准教授
(液晶の構造と物理的性質に関する研究)
液晶を中心としたソフトマターの相構造と物性に関する発現機構解明をめざす。

前川 孝 教授
(プラズマ物理学)
◎プラズマ波動物理
◎トラスプラズマの波動加熱・電流駆動及び平衡と安定性

田中 仁 准教授
(プラズマ, 電磁・静電波動, 核融合)
プラズマ物理学 特に, 電子サイクロトロン波・電子バーンスタイン波を用いた球状トカマクの生成, 純電子プラズマの閉じ込めと波動特性の研究

川上 則雄 教授
(量子物理, 物性物理の理論)
凝縮系理論 強相関電子系, 低次元量子多体系, ナノ量子系, 冷却原子系などの理論研究

池田 隆介 准教授
(超伝導, 超流動)
凝縮系理論 磁場下の超伝導の基礎理論, 新奇な超伝導・超流動状態の理論など, 低温で実現する量子凝縮系の理論的研究

藤本 聡 准教授
(超伝導, 磁性, 量子現象)
凝縮系理論 強相関電子系における新奇超伝導, 新奇な磁性, 新しい量子凝縮相, および量子輸送現象の理論的研究

太田 隆夫 教授
(柔らかい物質の構造とダイナミクスの理論的研究)
非線形散逸系, 非平衡ソフトマターを主たる研究対象としてミクロ非平衡系の基本原理・法則の解明

篠本 滋 准教授
(脳科学, 信号推定, 神経細胞モデル)
非線形動力学, 統計物理学, 脳の情報処理の理論的研究 「時間・空間の脳内表現」について医学部の研究室と共同研究を行っている。

藤 定義 准教授
(でたらめな流れに潜む秩序やその強い混合能力の研究)
流体物理学 乱流ダイナミクス, 乱流輸送現象の理論的研究

小貫 明 教授
(統計物理学)
◎相転移ダイナミクス
◎非平衡現象の統計物理学

荒木 武昭 准教授
(やわらかな物質の新しい振る舞いを探索)
統計物理学・計算物理学 ソフトマター, 相転移ダイナミクス

武末 真二 准教授
(熱伝導に見る非平衡系の物理)
熱伝導などの輸送現象を例に, 非平衡系の基本原理について研究。最近では破壊現象にも興味を持っている。

永江 知文 教授
(クォーク, 原子核, 加速器)
原子核物理学 高エネルギー加速器を用いて, クォーク・ハドロン・原子核の新しい様相を実験的に研究している。

川畑 貴裕 准教授
(原子核物理学)
量子多体系である原子核において現れる様々な現象, 特に, クラスタリング現象に関心をもち, 加速器を用いた実験的研究を行っている。

川合 光 教授
物理に限らずサイエンス一般に興味を持っているが, 通常は素粒子論を中心とし, 場の理論, 量子重力, 超弦理論に関する研究をしている。特に超弦理論は非常に面白い段階にさしかかっており, 力をいれている。

畑 浩之 教授
(素粒子論, 超弦理論, 場の理論)
素粒子基礎論
◎ゲージ場・重力場理論のダイナミクス
◎弦理論の基本原理とダイナミクスの解明

福岡 将文 准教授
(素粒子間の相互作用の統一的理解)
素粒子基礎論
◎場の量子論のダイナミクス
◎弦理論・量子重力理論の基本原理の解明と, 理論の定式化

小林 達夫 准教授
(素粒子論)
弦理論から素粒子の様々な現象論的性質がどのように導かれるのかを研究している。

植松 恒夫 教授
(量子色力学, 構造関数, 超対称性)
素粒子論。特に, 量子色力学と深非弾性過程, 核子や光子の構造関数, 超弦理論など相互作用の統一理論における超対称性とその自発的破れおよび有効作用理論の研究

青山 秀明 教授
(理論物理学・素粒子論, 社会・経済物理学)
理論物理学・素粒子論, 他に経済, 社会, 環境エネルギー, 言語等の分野における理論物理学の視点からの研究。

中家 剛 教授
(素粒子, ニュートリノ)
素粒子実験物理学を専門としており, 現在は加速器 (J-PARC) を使ったニュートリノ実験 T2K やスーパーカミオカンデ実験を行っている。研究テーマは, ニュートリノ振動とその質量の起源, 粒子と反粒子の対称性, 大統一理論, 新物理探索を行っている。

市川 温子 准教授

素粒子実験物理学, 特にニュートリノ振動現象の観測を通じた素粒子の質量の起源の解明

石野 雅也 准教授

(高エネルギー物理実験)
世界最高エネルギーの加速器 LHC を使って素粒子のふるまいを実験的に研究する。物質が質量をもつ「しかけ」、素粒子世界の全体像を明らかにする研究を推進する。

谷森 達教授

(宇宙の始まり, ブラックホール, 暗黒物質, 宇宙線)
高エネルギー宇宙物理学, 特にガンマ線天文学及び素粒子論的宇宙観測。それに必要なガンマ線, 粒子線, イメージング技術開発

鶴 剛教授

(X線ガンマ線天文学・宇宙観測用人工衛星)
高エネルギー宇宙物理学 特に天文衛星など飛翔体を用いた宇宙 X線, ガンマ線の観測的研究と, それに必要な観測機器の開発

國廣 倅二教授

(超高温・高密度の物質の理論的研究)
宇宙初期や中性子星の内部で実現されている超高温・高密度での物質(クォーク・グルーオン物質あるいはハドロン物質)の性質についての理論的研究, 「くりこみ群法」による数理論

菅沼 秀夫 准教授

(クォーク, グルーオン, ハドロン, 量子色力学, 核子, 中間子)
強い相互作用の基礎理論である量子色力学に基づき, 「クォークの閉じ込め問題」や, クォーク多体系であるハドロン(核子・中間子), 約2兆度の超高温の新物質相「クォーク・グルーオン・プラズマ」(ビッグバン直後の宇宙)等に関する理論研究を行っている。

延與 佳子 准教授

(原子核)
原子核構造の理論的研究。特に不安定原子核構造とクワスター現象に関する理論研究を行っている。

藤原 義和 講師

(原子核)
クォーク模型によるバリオン間相互作用の理論的研究。及び, それらを用いた少数バリオン系や, 軽い原子核, ハイパー核等の多クワスター問題

中村 卓史教授

相対論的天体物理学: ブラックホール, 重力波, 中性子星, ガンマ線バースト, ダークマター, ダークエネルギー等の形成, 起源の研究

白水 徹也 准教授

一般相対論, 宇宙論; 高次元ブラックホール, 高次元宇宙模型, 初期宇宙, 宇宙検閲仮説等の研究

大向 一行 准教授

宇宙物理学, 宇宙論; 宇宙初期の星やブラックホールをはじめとする天体の形成・進化的研究

早田 次郎 准教授

(インフレーション宇宙, ブラックホール)
弦理論的宇宙論, およびブラックホール物理学。超弦理論などの量子重力理論に基づいた宇宙初期やブラックホールの理論的研究

長田 哲也 教授

(銀河系中心部)
赤外線天文学, 銀河系中心領域, 星間現象, 観測装置開発

太田 耕司 教授

(銀河形成・進化, ガンマ線バースト, 活動銀河核進化)
銀河の形成と進化, QSO / AGN の探査の研究

嶺重 慎 教授

(ブラックホール)
ブラックホールへのガス降着とガス噴出, バイナリーブラックホールなど

岩室 史英 准教授

(銀河天文学, 高赤方偏移天体, 観測装置開発)
銀河天文学, 高赤方偏移天体, 観測装置開発

戸谷 友則 准教授

(ビッグバン宇宙論, 銀河形成, 超新星, ガンマ線バースト)
宇宙物理学, 宇宙論, 高エネルギー天体物理学

上田 佳宏 准教授

(X線天文学, ブラックホール, 活動銀河核の進化)
X線天文学, ブラックホール, 活動銀河核の進化

柴田 一成 教授

(太陽宇宙プラズマ物理学)
太陽・宇宙プラズマ物理学, 天体電磁流体力学, 太陽フレア, 宇宙ジェット, 宇宙天気

一本 潔 教授

(太陽, 天体観測)
太陽磁気活動現象の観測的研究, 太陽プラズマの偏光分光による診断学

北井 礼三郎 准教授

(太陽黒点, 粒状斑, コロナ, フレア爆発)
太陽の対流現象の観測的研究, 太陽大気加熱機構の観測的研究

地球惑星科学系

福田 洋一 教授

(地球の重力変化に関連した研究)
測地学
◎絶対重力計, 超伝導重力計による精密重力測定
◎衛星重力・衛星高度計データ解析
◎ジオイドの精密決定, 重力異常と地下構造

宮崎 真一 准教授

(GPSによる地殻変動)
測地学及び地殻変動論・地震学
◎測地データを利用した地殻変動解析
◎地殻活動予測シミュレーション観測データと数値モデルの統合解析

秋友 和典 准教授

(流れの物理, 深層循環)
◎対流・乱流・境界層と地球規模循環
◎湖沼の循環

余田 成男 教授

(気象学)
◎成層圏変動と気候
◎非線形力学とカオス
◎実験の数値天気予報

石岡 圭一 准教授

(気象学)
地球流体力学 地球流体運動に関する数値実験的・理論的研究

堤 浩之 准教授

(活断層, 地震の予測, 地殻変動)
変動地形学及び活構造学
◎活断層の地震危険度評価に関する研究
◎東アジアのアクティブテクトニクスに関する研究

町田 忍 教授

(磁気圏, オーロラ, プラズマ)
地球電磁気学及び太陽地球系物理学
◎地球・惑星磁気圏物理学
◎磁気圏における粒子加速

中西 一郎 教授

(地球内部構造, 地震発生の仕組み)
地震学及び地球内部物理学
◎計測地震学
◎史料地震学

平原 和朗 教授

(計算機の中に日本列島を作り地震を起こす)
地震学及び地球内部物理学
◎地震発生サイクルシミュレーション
◎地球内部の構造と運動のモデリング

久家 慶子 准教授

(地震の起こり方, 地球内部の構造)
地震学及び地球内部物理学
◎地震の破壊過程と物理
◎地球内部の構造

里村 雄彦 教授

(計算機の中に雨を再現)
物理気候学
◎数値モデル開発, 数値実験
◎領域気候と局地気候の形成, 維持, 変動メカニズム
◎熱帯擾乱と降水

重 尚一 准教授

(宇宙からの降水観測)
物理気候学
◎雲降水システムに関する研究
◎衛星物理量推定アルゴリズム開発に関する研究

家森 俊彦 教授

(太陽風, 磁気嵐, 宇宙空間を流れる電流, 地球の磁場)
◎太陽地球系物理学および地球電磁気学
◎磁気圏および電離層における電磁気的現象の研究
◎地磁気の観測とデータ処理に関する研究

藤 浩明 准教授

(電気伝導度構造, 地磁気モデル, 海底観測)
地球電磁気学
◎磁気圏及び電離層の磁場変化が地球内部に引き起こす電磁誘導に関する研究
◎海底/地上/衛星の地磁気データを用いた地球磁場モデルに関する研究
◎海底長期電磁場観測データを用いた海洋のダイナモ作用に関する研究

竹村 恵二 教授

(第四紀の環境変動と地殻変動)
◎第四紀層序学
◎火山地域の地熱テクトニクスと活構造研究
◎湖沼内堆積物による古気候変動解析

大沢 信二 教授

(地球の水の動きや化学的振る舞いに関する研究)
地熱流体力学, 同位体水文学, 地球環境化学

鍵山 恒臣 教授

(火山・地熱活動の観測と研究)
火山活動の物理学的研究, 火山活動の予測, 火山活動とテクトニクスの関係

大倉 敬宏 准教授

(日本列島や活火山の下の構造)
地震学, 火山物理学, 測地学, プレートの構造

古川 善昭 准教授

(プレート・テクトニクス, 惑星内部の活動)
地球惑星科学 惑星の構造形成, 進化, 沈み込み帯のダイナミクス

小畑 正明 教授

(岩石学, マグマ学)
上部マントル・地殻下部の岩石学, マグマの発生と移動, 結晶分化作用, 岩石組織と構造形成のダイナミクスの研究

平島 崇男 教授

(岩石学, 造山帯)
◎超高温・超高温変成岩の形成史
◎大陸衝突帯の深部プロセスの研究
◎地下深部流体の研究

田上 高広 教授

(地球史, マントル対流, 断層運動, 気候変遷)
放射性核種の壊変を利用した年代測定と同位体を用いた地球変動, 特に断層運動, 火山活動及び気候変動の研究

酒井 治孝 教授

(造山帯, ヒマラヤ, 大陸衝突, モンスーン, 古環境)
アジアの造山帯の形成・上昇プロセス及びそのモンスーン気候とのリンクに関する研究

平田 岳史 教授

(宇宙地球化学, 分析化学)
◎太陽系惑星・地球形成の年代学
◎生体金属支援機能科学(メタロミクス)
◎微量元素分析技術の開発



山路 敦 教授

(地殻変動)
地質学的データを用いた地球及び他の惑星・衛星のテクトニクスの研究

前田 晴良 准教授

(古生物学, 化石化のメカニズム)
◎アンモナイト類の分類・進化・古生態
◎例外的に保存のよい化石(化石鉱脈)の成因解明
◎タフオノミー

下林 典正 准教授

(実際の地球・惑星物質に触れてミクロスコピックな見地から研究を進める)
造岩鉱物, 稀産鉱物, 結晶
◎鉱物の微細組織や集合様式の解析による地球・惑星物質の形成過程の解明
◎稀産鉱物の記載を通じた新たな鉱物生成環境の探査; 新しい鉱物種の発見

三宅 亮 准教授

(鉱物)
天然の鉱物の微細組織に関する研究・造岩鉱物のコンピューターシミュレーション

化学系

北川 宏教授

(無機化学, 錯体化学)
プロトン伝導体, 分子性半導体, 水素吸蔵体, 表面多孔体の研究

三木 邦夫教授

(タンパク質, 立体構造, X線結晶解析, 構造 (かたち) と機能 (はたらき) の関係)
タンパク質結晶学による生体高分子の構造生物学の研究 (タンパク質の構造と機能の解明)

竹田 一旗講師

(生物物理学, 結晶学)
物質輸送を担うタンパク質の構造と作動原理の研究

谷村 吉隆教授

(理論化学)
凝縮系の化学物理理論, 統計力学理論, 分光理論の研究

安藤 耕司准教授

(化学反応量子論)
化学反応量子論, 分子多体系における量子移動過程の理論的研究

林 重彦准教授

(理論化学)
生体機能の分子機構に関する理論的研究

鈴木 俊法教授

(反応する分子内の電子や原子の運動をみる)
気相および液相反応ダイナミクスの超高速分光分子分光

足立 俊輔准教授

(パルスレーザー)
真空紫外レーザーパルスによる超高速分光

松本 吉泰教授

(分子分光, 表面科学)
光触媒反応機構と表面・界面反応ダイナミクスの研究

渡邊 一也准教授

(表面時間分解分光)
固体表面での超高速現象の研究と界面選択的分光法の開発

寺嶋 正秀教授

(生体分子のレーザー分光)
新規時間分解レーザー分光の開発と蛋白質反応に関するエネルギーと構造ダイナミクスの研究

熊崎 茂一准教授

(光合成, 葉緑体, 分子分光, 光学顕微鏡, シアノバクテリア)
レーザー顕微分光学による酸素発生型光合成膜の構造と光化学の関係の研究

木村 佳文准教授

(特殊な溶液中での化学反応の研究)
超臨界流体, イオン液体などの特殊環境下での化学反応と分子ダイナミクスのレーザー分光による研究

竹腰 清乃理教授

(分子の構造, 分子の測定法, 超強力磁石)
固体 NMR 法の開発と応用研究

武田 和行講師

(原子核の磁性, 核磁気共鳴, MRI)
これまで不可能だった分析を可能にする磁気共鳴分光法の研究

吉村 洋介講師

(液体・流体の物理化学)
流体中の化学反応と流体の物性の研究

馬場 正昭准教授

(光励起分子, 分子構造, 紫外スペクトル, 高分解能レーザー)
レーザー分子分光学 励起分子の構造とダイナミクス

有賀 哲也教授

(固体表面の物性化学)
固体表面を利用した低次元物質の作成と新奇物性の探索

奥山 弘准教授

(水素, 触媒反応, 顕微鏡)
固体表面における分子の吸着および反応の基礎的研究

吉村 一良教授

(磁性と超伝導)
◎遷移金属化合物の磁気的・電気的性質の研究
◎核磁気共鳴を用いたマイクロ固体物性研究

中西 和樹准教授

(セラミックス, 重合反応, シリカゲル, 多孔質, 非晶質, 液体クロマトグラフィー)
液相合成による多孔性物質の構造制御

林 民生教授

(新しい有機合成)
遷移金属錯体を用いた高選択的な新規有機合成反応の開発

白川 英二准教授

(簡単に手に入るものを使った新しい反応)
新規高効率炭素-炭素結合形成反応の開発

西村 貴洋講師

(遷移金属, 有機合成, 触媒)
遷移金属を触媒とする立体選択的な炭素結合形成反応の開発

丸岡 啓二教授

(環境調和, 有機触媒, アミノ酸, 医薬)
環境調和型の金属フリー触媒の研究

加納 太一講師

(有機合成化学, 有機触媒, 不斉反応)
有機分子触媒を用いた不斉合成反応の開発

大須賀 篤弘教授

(世界で一番長い合成分子, メビウスの帯に沿って共役した有機分子)
新規な構造と機能を持つポルフィリン系化合物の開拓

杉山 弘教授

(ゲノム化学, ケミカルバイオロジー, DNA)
核酸を中心としたケミカルバイオロジー, 遺伝子発現制御化学

板東 俊和准教授

(DNA 化学)
有機合成化学を基盤としたケミカルバイオロジー

井上 丹教授

(RNA, タンパク質, 分子デザイン)
シンセティックバイオロジー: RNA-タンパク質複合体の分子デザイン, 構築と細胞への応用の研究

白石 英秋准教授

(植物プランクトン, 光合成細菌)
微細藻の生物学とバイオテクノロジー

依光 英樹准教授

(有機化学)
新規有機合成反応の開発とそれに基づく新規π共役系分子創出

生物科学系

堀 道雄教授

(魚類の食物網, ハンミョウの来た道, 動物の右利きと左利き)
◎アフリカのタンガニカ湖の魚類群集の研究
◎甲虫の個体群および生物地理学についての研究
◎水生動物の左右性についての研究

山極 壽一教授

(人間性, 霊長類, 進化, 社会)
◎ゴリラ・チンパンジー・ニホンザルの社会生態学
◎人間の社会性の起源

疋田 努教授

(分類, 系統, 生物地理, 種分化)
爬虫類の系統分類学と生物地理学

曾田 貞滋教授

(生態, 進化, 昆虫)
◎節足動物の適応進化と種分化および近縁種の共存機構
◎生物種間の共進化
◎昆虫を主とした動物の系統地理学

沼田 英治教授

(光周性, 生物時計, 昆虫)
動物の季節適応および時間設定機構の研究

中務 真人教授

(化石, アフリカ, 進化, 霊長類, 解剖学)
◎類人猿の進化と人類の起源に関する古人類学
◎霊長類の運動分析と運動器官の形態学

久保田 洋准教授

(細胞運動のメカニズム, モリアオガエル)
アオガエル科精子の運動メカニズム

秋山 秋梅准教授

(活性酸素, 突然変異, DNA 修復, ストレス応答)
◎酸化的 DNA 損傷の生成とその修復機構
◎酸化ストレスと癌化, 老化の関係
◎放射線, 活性酸素に対する細胞応答

渡辺 勝敏准教授

(生態, 保全, 淡水魚)
淡水魚類を中心とした進化生態学・系統地理学・保全生物学

森 哲准教授

(防衛行動, 補食行動, ヘビ, 食性)
爬虫類の行動および生態に関する研究

佐藤 ゆたか准教授

(発生生物学, ホヤ, 進化)
尾索動物ホヤを対象とした発生生物学とそれを通じた脊椎動物の進化の研究

中川 尚史准教授

(行動と社会の種内変異, 人類進化)
霊長類の採食生態, および社会生態学的研究

國松 豊准教授

(霊長類, アフリカ, ユーラシア, 古生物学, 形態学)
◎ヒト科を中心とした化石霊長類研究
◎原生霊長類の形態学

稲葉 カヨ教授

(免疫応答, 制御, マウス)
異物認識機構と自然免疫ならびに適応免疫応答の制御に関する研究

高原 和彦講師

(感染, レクテン, マウス疾患モデル)
免疫システムにおける外来微生物の認識と生体の応答

長谷 あきら教授

(植物の光感覚, フィトクロム)
植物の光応答に関する, 分子遺伝学的, 生化学的, 生理学的及び細胞学的研究

戸部 博教授

(植物分類学, 植物系統学, 植物形態学, 進化, 被子植物)
高等植物の形態学と系統分類学

田村 実教授

(植物の進化, 植物の多様性, 植物の系統, 植物の分類)
高等植物の系統分類学と種生物学

西村 いくこ教授

(植物細胞, 細胞小器官, 環境応答, 感染応答)
高等植物の細胞と細胞小器官の分化に関する分子生物学的・細胞生物学的研究

鹿内 利治教授

(光合成, 葉緑体)
光合成・葉緑体機能に関する分子遺伝学・生理学的研究

小山 時隆准教授

(概日時計, 光周性花成, 植物, シアノバクテリア)
光合成生物の時間生物学

井上 敬講師

(社会性アメーバ, 多細胞生物の進化)
細胞性粘菌における細胞分化と細胞運動・形態形成機構の研究

嶋田 知生講師

(植物, 細胞, 遺伝子)
植物の高次機能の制御に関する分子細胞生物学

藤吉 好則教授

(神経細胞)
膜蛋白質を中心とする細胞のシグナル伝達機構についての構造生理学的研究

平野 丈夫教授

(脳, シナプス, 学習)
脳神経系がはたらくメカニズムについての分子・細胞レベルの研究

七田 芳則教授

(視覚の研究)
生体における情報変換機構の分子レベルでの研究

森 和俊教授

(細胞, タンパク質, 品質管理)
小胞体の恒常性を維持する応答機構の解析

阿形 清和教授

(幹細胞, 再生, 発生, 進化, 脳, プラナリア, イモリ)
幹細胞をキーワードにした再生と進化に関する研究

土井 知子准教授

(受容体, 情報伝達, 可塑性)
シグナル伝達における膜蛋白質が担う調節機構の構造生物学的研究

船山 典子准教授

(幹細胞, 体のパターン形成, 多細胞動物の進化)
カワカイメンを用いた, 進化的に最も古い多細胞動物での幹細胞分化制御機構, 細胞間相互作用

今元 泰准教授

(タンパク質, 反応, 分子のかたち)
センサータンパク質の応答に関する物理化学的・構造生物学的研究

高田 彰二准教授

(タンパク質, 生体分子シミュレーション)
生体分子システムの構造・機能についての, 理論およびシミュレーション研究

西田 栄介教授

(シグナル伝達)
細胞増殖・分化, 発生及び寿命 (老化) を制御するシグナル伝達に関する分子生物学

石川 冬木教授

(遺伝子, がん, 老化)
遺伝子の振る舞いが、どのように老化やがんを引き起こすかを明らかにする。

上村 匡教授

(発生, 細胞極性, 神経系, 上皮)
動物発生における神経細胞と上皮細胞の構築とリモデリング, そして神経細胞の長寿に関する研究

千坂 修准教授

(マウス, ニワトリ, 器官形成)
動物の分子発生生物学 (胎児が辿る進化の歴史)

中世古 幸信准教授

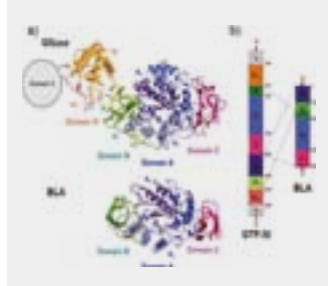
(細胞周期, 染色体, 酵母)
細胞周期を制御する因子の分子生物学的解析

国際交流室

鈴木 在乃講師

(比較住宅論, 伝統建築庭園論, デザイン理論)
世界各地の建築に関する知識と経験を活かし、現在は日本における留学生の住宅および生活環境の研究をしています。

医学部



医学科

渡邊 大教授

生体情報科学

萩原 正敏教授

形態形成機構学

斎藤 通紀教授

機能微細形態学

武藤 誠教授

遺伝薬理学

松田 道行教授

病態生物医学

羽賀 博典教授

病理診断学

光山 正雄教授

微生物感染症学

湊 長博教授

免疫細胞生物学

玉木 敬二教授

法医学

長田 重一教授

医化学

岩田 想教授

分子細胞情報学

野田 亮教授

分子腫瘍学

篠原 隆司教授

分子遺伝学

武田 俊一教授

放射線遺伝学

金子 武嗣教授

高次形態学

河野 憲二教授

認知行動脳科学

大森 治紀教授

神経生物学

成宮 周教授

神経・細胞薬理学

芹川 忠夫教授

実験動物学

松田 文彦教授

疾患ゲノム疫学

山田 亮教授

統計遺伝学

小西 靖彦教授

医学教育学, 教育社会学, 社会心理学, 外科学一般

福山 秀直教授

脳機能イメージング

高折 晃史教授

血液・腫瘍内科学

中尾 一和教授

内分泌・代謝内科学

木村 剛教授

循環器内科学

千葉 勉教授

消化器内科学

三嶋 理晃教授

呼吸器内科学

三森 経世教授

臨床免疫学

稲垣 暢也教授

糖尿病・栄養内科学

小池 薫教授

初期診療・救急医学

宮地 良樹教授

皮膚科学

平家 俊男教授

発達小児科学

平岡 真実教授

放射線腫瘍学・画像応用治療学

富樫 かおり教授

画像診断学・核医学

一山 智教授

臨床病態検査学

坂井 義治教授

消化管外科学

上本 伸二教授

肝胆膵・移植外科学

戸井 雅和教授

乳腺外科学

福田 和彦教授

麻酔科学

小西 郁生教授

婦人科学・産科学

小川 修教授

泌尿器科学

坂田 隆造教授

心臓血管外科学

伊達 洋至教授

呼吸器外科学

鈴木 茂彦教授

形成外科学

吉村 長久教授

眼科学

伊藤 壽一教授

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

別所 和久教授

口腔外科学

藤田 潤教授

分子病診療学

高橋 良輔教授

臨床神経学

宮本 享教授

脳神経外科学

村井 俊哉教授

精神医学

佐藤 俊哉教授

医療統計学

福原 俊一教授

医療疫学

川上 浩司教授

薬剤疫学

今中 雄一教授

医療経済学

小杉 真司教授

医療倫理学

中山 健夫教授

健康情報学

小泉 昭夫教授

環境衛生学

古川 壽亮教授

健康増進・行動学

木原 正博教授

社会疫学

中原 俊隆教授

健康政策・国際保健学

前川 平教授

輸血医学, 血液学

清水 章教授

分子生物学, 遺伝子医学

横出 正之教授

先端医療構築学, 高齢医学

吉原 博幸教授

病院情報システム学, 医療情報交換規格

中嶋 善明准教授

生体情報科学

三浦 岳准教授

形態形成機構学

光家 保准教授

細胞機能制御学

河村 伊久雄准教授

微生物感染症学

縣 保年准教授

免疫細胞生物学

濱崎 洋子准教授

免疫細胞生物学

鶴山 竜昭准教授

法医学

北山 仁志准教授

分子腫瘍学

廣田 耕志准教授

放射線遺伝学

藤山 文乃准教授

高次脳形態学

小川 正 准教授
認知行動脳科学

久場 博司 准教授
神経生物学

石崎 敏理 准教授
神経・細胞薬理学

庫本 高志 准教授
実験動物学

山田 重人 准教授
先天異常学

角谷 寛 准教授
疾患ゲノム疫学

須山 幹太 准教授
ゲノム情報科学

美馬 達哉 准教授
臨床脳生理学

門脇 則光 准教授
血液・腫瘍内科学

向山 政志 准教授
内分泌・代謝内科学

武藤 学 准教授
消化器内科学

新實 彰男 准教授
呼吸器内科学

藤本 新平 准教授
糖尿病・栄養内科学

椛島 健治 准教授
皮膚科学

西小森 隆太 准教授
発達小児科学

河井 昌彦 准教授
発達小児科学

磯田 裕義 准教授
画像診断学・核医学

高倉 俊二 准教授
臨床病態検査学

岡部 寛 准教授
消化管外科学

杉江 知治 准教授
乳腺外科学

藤原 浩 准教授
婦人科学・産科学

池田 義 准教授
心臓血管外科学

根尾 昌志 准教授
整形外科学

藤村 和磨 准教授
口腔外科学

伊藤 克彦 准教授
分子病診療学

池田 昭夫 准教授
臨床神経学

高橋 英彦 准教授
精神医学

寒水 孝司 准教授
医療統計学

山崎 新 准教授
医療疫学

樋之津 史郎 准教授
薬剤疫学

沼部 博直 准教授
医療倫理学

岩隈 美穂 准教授
医学コミュニケーション学

原田 浩二 准教授
環境衛生学

木原 雅子 准教授
社会疫学

里村 一成 准教授
健康政策・国際保健学

荒井 俊之 准教授
虚血再灌流傷害の研究

柴田 登志也 准教授
画像診断学

柿木 良介 准教授
末梢神経損傷・上肢損傷に対する手術とリハビリ

三上 芳喜 准教授
診断病理学, 婦人科腫瘍学, 泌尿器腫瘍学

南口 早智子 准教授
病理診断学, 胎盤病理診断学, 細胞診断学

海道 利実 准教授
肝移植, 肝臓外科, 外科栄養, EBM

手良向 聡 准教授
臨床統計学

丸井 晃 准教授
再生医療, 心臓血管外科

海老原 健 准教授
内分泌学, 代謝学

桂 敏也 准教授
医療薬理学, 生物薬剤学

黒田 知宏 准教授
情報工学, 特にVR, コピキタスコンピューティング技術の医療・福祉分野への応用

岸本 寛史 准教授
地域医療学・緩和医療学・心身医学

林 克彦 講師
機能微細形態学

園下 将大 講師
遺伝薬理学

小林 拓也 講師
分子細胞情報学

森本 剛 講師
医学教育学, 総合内科学, 医療安全学, 臨床疫学

川端 浩 講師
血液・腫瘍内科学

山下 浩平 講師
血液・腫瘍内科学

八十田 明弘 講師
内分泌・代謝内科学

桑原 宏一郎 講師
内分泌・代謝内科学

久米 典昭 講師
循環器内科学

塩井 哲雄 講師
循環器内科学

尾野 亘 講師
循環器内科学

丸澤 宏之 講師
消化器内科学

平井 豊博 講師
呼吸器内科学

大村 浩一郎 講師
臨床免疫学

武地 一 講師
加齢医学

長嶋 一昭 講師
糖尿病・栄養内科学

野村 尚史 講師
皮膚科学

谷岡 未樹 講師
皮膚科学

渡邊 健一郎 講師
発達小児科学

溝脇 尚志 講師
放射線腫瘍学・画像応用治療学

澁谷 景子 講師
放射線腫瘍学・画像応用治療学

中本 裕士 講師
画像診断学・核医学

岡田 知久 講師
画像診断学・核医学

長谷川 傑 講師
消化管外科学

波多野 悦朗 講師
肝胆臓・移植外科学

高折 恭一 講師
肝胆臓・移植外科学

岡本 晋弥 講師
肝胆臓・移植外科学

廣田 喜一 講師
麻酔科学

倉田 二郎 講師
麻酔科学

巽 啓司 講師
婦人科学・産科学

万代 昌紀 講師
婦人科学・産科学

神波 大己 講師
泌尿器科学

吉村 耕治 講師
泌尿器科学

三和 千里 講師
心臓血管外科学

阪井 宏彰 講師
呼吸器外科学

園部 誠 講師
呼吸器外科学

河合 勝也 講師
形成外科学

内藤 素子 講師
形成外科学

森本 尚樹 講師
形成外科学

宮本 和明 講師
眼科学

辻川 明孝 講師
眼科学

大谷 篤史 講師
眼科学

平野 滋 講師
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

中川 隆之 講師
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

中山 富貴 講師
整形外科

小林 雅彦 講師
整形外科

高橋 克 講師
口腔外科学

園部 純也 講師
口腔外科学

伊東 秀文 講師
臨床神経学

高橋 淳 講師
脳神経外科学

高木 康志 講師
脳神経外科学

北条 雅人 講師
脳神経外科学

波多野 悦朗 講師
脳神経外科学

野間 俊一 講師
精神医学

深尾 憲二朗 講師
精神医学

鈴木 崇生 講師
初期診療・救急医学

西山 慶 講師
初期診療・救急医学

深津 敦司 講師
腎臓内科学

伊藤 順子 講師
臨床神経生理学

佐藤 格夫 講師
侵襲期における栄養素の代謝動態, 腸管における虚血再灌流障害

小阪 謙三 講師
婦人科手術学 (腹腔鏡下手術)

瀬川 一 講師
集中治療医学, 麻酔科学

仲瀬 裕志 講師
炎症性腸疾患の新規治療法開発

宮川 (林野) 文 講師
肝移植の病理

菅井 学 講師
分子生物学, 遺伝子医学

村山 敏典 講師
先端医療システム構築学, 被験者擁護論

増田 智先 講師
薬物の体内動態・毒性発現の分子機構解明

竹村 匡正 講師

医療言語処理学, 過去症例に基づく医学知識抽出

医学部人間健康科学科

足立 壯一 教授

血液学, 小児科学, 造血細胞移植学, 感染症

荒井 秀典 教授

地域医療学及び在宅医療学, 新たな地域医療システムを構築するための研究, 老年医学, 肥満・動脈硬化の予防に関する研究

石橋 誠 教授

中枢神経系, 骨格系の発生・再生の分子機構の解明(遺伝子工学的手法, 発生工学的手法, 数理生物学的手法による)

市橋 則明 教授

骨・関節系理学療法に関する臨床的およびバイオメカニクスの研究

岡 昌吾 教授

生化学・神経糖鎖生物学

桂 敏樹 教授

老人・成人保健, 健康な街づくり

我部山 キヨ子 教授

母性・父性のメンタルヘルスと育児支援システム構築に関する研究, 助産ケアの質向上のためのシステム構築に関する研究, 女性の生涯に渡るシプロタクティブヘルスに関する研究

木下 彩奈 教授

認知症の病態に関する分子生物学的研究および認知症のケアに関する研究

黒木 裕士 教授

超音波装置を用いた軟骨の評価に関する研究, 遠心性収縮による運動療法がラット骨格筋に及ぼす影響に関する研究, 空気圧を利用した歩行補助装置の研究

齋藤 邦明 教授

アミノ酸代謝と免疫および疾患メタボローム・プロテオーム解析

椎名 毅 教授

生体医工学, 医用超音波技術, 次世代医用イメージングと診断・治療支援技術開発

杉本 直三 教授

医用画像情報学

菅 佐和子 教授

臨床心理学, 看護カウンセリング

菅沼 信彦 教授

不妊症学, 産婦人科内分泌学

鈴木 真知子 教授

小児在宅療養支援に関する研究, 超重症児の自律に向けた育児支援に関する研究, 学校看護師の専門的機能と役割に関する研究, 訪問看護ステーションにおける重心児(者)の専門特化すべきサービスのあり方に関する研究

精山 明敏 教授

生体が営む複雑な生命現象を, 磁気共鳴・光学計測法などの物理的手法を用いて可視化し, その機能発現を解明する

高桑 徹也 教授

慢性炎症から発症するリンパ腫の研究

坪山 直生 教授

整形外科学, 運動器リハビリテーション学

十一 元三 教授

精神医学認知神経科学, 発達障害学, 児童司法精神医学

中泉 明彦 教授

肺癌の早期診断を目指した臨床

野本 慎一 教授

災害医学, 看護学, 医療安全学, 心臓血管外科学

二木 淑子 教授

障害学, 作業療法学に関する研究(主に身体障害, 高次脳機能障害, 認知機能障害のリハビリテーションに関する研究)

任 和子 教授

慢性の病とともに生きる人のセルフマネジメント支援・疾病管理等における看護ケア開発, それらに伴う看護管理上の課題に関する研究

細田 公則 教授

内分泌代謝内科学 肥満 糖尿病

三谷 章 教授

リハビリテーションの神経機構

山根 寛 教授

障害構造およびトータルリハビリテーションシステム, 作業活動を介したコミュニケーション, 場の機能とグループダイナミクス

青山 朋樹 准教授

間葉系幹細胞移植及び内因性幹細胞活性化による運動器の再生

赤澤 千春 准教授

臓器移植に関するクリティカル看護ケアに関する研究, リンパ浮腫に関する研究, アクティブ・ラーニングに関する研究

石津 浩一 准教授

画像診断学, 核医学, 医用画像工学, CT, MRI

伊吹 謙太郎 准教授

微生物学・ウイルス感染症学

大塚 研一 准教授

偏微分方程式論

加藤 寿宏 准教授

発達障害の作業療法(特に高機能広汎性発達障害, 注意欠陥多動性障害, 学習障害児に対する臨床研究)

笹山 哲 准教授

医療情報処理

作田 裕美 准教授

がん看護学(がん術後リンパ浮腫の発症予測に関する生理学的研究, がん術後リンパ浮腫患者への治療的介入研究, がん患者のQOL向上に向けた教育・指導の方法論に関する研究)

谷口 初美 准教授

性と生殖に関するTransitionの看護観念をテーマに各 transition の女性達の成長や健康への影響に関する研究

本田 育美 准教授

糖尿病患者の足病変予防に関する研究, 高齢者へのフットケアに関する研究

柳ヶ 桂子 准教授

助産ケアモデルの構築, 助産学教育, 助産管理

若村 智子 准教授

生体リズムからみた生活環境調整に関する研究, 睡眠に関する研究

大倉 美佳 講師

行政分野で働く保健師に関する継続教育・キャリア開発の研究

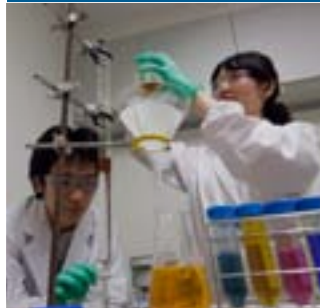
大畑 光司 講師

運動発達とその障害に関する研究, 脳損傷とリハビリテーション

前田 祐子 講師

高齢者医療の心理・態度研究と医療コミュニケーションの研究

薬学部



高須 清誠 教授

創薬を志向した新規分子変換法の開拓と機能性低分子の創製

竹本 佳司 教授

◎金属錯体を用いた立体選択的合成法の開発
◎生物活性天然有機化合物の不斉合成研究

松崎 勝巳 教授

生体膜における生体分子間相互作用解析と創薬への展開

加藤 博章 教授

酵素, トランスポーター, チャンネル, シャペロン, レセプターなど細胞内のタンパク質装置がいかに機能しているのか, X線結晶構造解析で決定した原子レベルの構造に基づいてその仕組みを解明すること。

辻本 豪三 教授

ゲノム包括的解析, バイオインフォマティクスによる in silico 創薬研究とテララーメイド医療

石濱 泰 教授

細胞内に存在しているすべてのタンパク質(プロテオーム)を一斉解析法の開発
細胞内シグナル伝達に関わるプロテオームの研究

竹島 浩 教授

細胞内 Ca2+ シグナルと神経情報伝達の分子基盤解明

金子 周司 教授

神経伝達物質受容体とイオンチャンネルに関する電気生理および分子薬理学的研究

伊藤 信行 教授

遺伝子探索法による細胞間シグナル分子の探索とその生理的意義

中山 和久 教授

◎細胞内メンブレン・トラフィックの調節機構
◎細胞内タンパク質分解の調節機構

橋田 充 教授

◎薬物の体内動態の機構解明に関する研究
◎薬物体内動態の精密制御を目的とした新しい薬物投与技術の開発

赤池 昭紀 教授

◎神経疾患におけるニューロン死の機序と神経保護因子の探索
◎虚血性網膜障害の予防・治療薬の研究

佐治 英郎 教授

◎画像診断薬, 放射線治療薬の創製
◎病態解明, 創薬のための分子イメージング法の開発
◎金属化合物の生体作用の解明

高倉 喜信 教授

◎遺伝子治療・DNA ワクチン療法の最適化を目指した核酸医薬品開発
◎RNA 干渉を利用した疾患治療システムの開発

岡村 均 教授

哺乳類における時計遺伝子の分子システムの解明, リズム障害の分子基盤に関する研究

掛谷 秀昭 教授

次世代化学療法剤の開発を指向した先端的ケミカルバイオロジー研究および天然物薬学研究

北浦 和夫 教授

計算化学による生体高分子の構造・機能の研究と創薬のための新規手法の開発

大野 浩章 准教授

創薬テンプレートの構築を指向した新規変換反応の開発と応用に関する研究

山田 健一 准教授

有機合成反応の開発と生物活性物質合成への応用

伊藤 美千穂 准教授

◎植物二次代謝産物の構造-機能相関研究
◎フィールドワークを軸とする薬用植物の調査・開発研究

星野 大 准教授

高分解能 NMR による生体物質の構造機能解析

中津 亨 准教授

◎光生体タンパク質の構造生物学的研究
◎ヒト赤血球アニオントランスポートの構造生物学的研究

平澤 明 准教授

◎オーファン受容体のリガンド探索と機能解析
◎DNA マイクロアレイを用いた発現プロファイル解析

中野 実 准教授

◎脂質膜の静的・動的構造評価とタンパク質との相互作用評価
◎脂質ナノ粒子の創製と薬学的応用

柿澤 昌 准教授

◎活動依存的な中枢神経系機能制御とシグナリング機構
◎新規カルシウムシグナル制御系の分子機構と機能的役割

渡部 好彦 准教授

サイトカインの細胞生物学および腫瘍免疫学

中川 貴之 准教授

◎薬物依存形成機構の神経薬理学的解析
◎痛みの発生・制御機構に関する神経薬理学的解析

山下 富義 准教授

◎薬物体内動態シミュレーターの開発研究
◎微粒子運搬体による薬物体内動態制御に関する研究

久米 利明 准教授

神経変性疾患における中枢ニューロン死制御を目指した神経薬理学的研究

矢野 育子 准教授

薬物動態と薬効の速度論的解析並びに個別化投与設計に関する研究

小野 正博 准教授

病態機能分析を指向した分子イメージング技術の開発とその創薬研究への応用

土居 雅夫 准教授

脳内中枢時計における分子振動システムの解明, 生体リズム調製薬の開発

西川 元也 准教授

◎核酸を基盤とする治療・デリバリーシステムの開発
◎生体防衛関連因子の時空間制御技術の開発

服部 明准教授
 エピキチン - プロテアソーム系制御法の開発とその創薬への応用

三宅 歩講師
 ゼブラフィッシュを用いた FGF の機能解析

川上 茂講師
 ◎機能性 DDS キャリアの開発
 ◎細胞選択的遺伝子ターゲティングシステムの開発

大石 真也講師
 生体分子からの医薬品リード化合物の創製と応用

岡 二三生教授
 (地盤の変形と強度)
 社会基盤工学専攻 計算地盤力学, 砂地盤の液化解析, 地盤の変形の局所化

木村 亮教授
 (構造物の基礎, トンネル, 貧困削減)
 社会基盤工学専攻/産官学連携本部 新たな建設材料と構造物の設計・施工法の開発, 発展途上国の住民参加型インフラ整備

田村 正行教授
 (空と宇宙からの測量)
 社会基盤工学専攻 衛星リモートセンシング及び地理情報システムに関する研究

川崎 雅史教授
 (景観設計, 景観環境計画, 都市デザイン)
 社会基盤工学専攻 公共空間における景観デザイン

後藤 仁志教授
 (海岸工学)
 社会基盤工学専攻 海岸工学, 流砂・漂砂水理学, 数値流体力学

河野 広隆教授
 (人々の生活を支えるインフラを, 良く造り, うまく使う技術)
 都市社会工学専攻 構造物の維持管理, コンクリート工学

清野 純史教授
 (地震, 地震被害, ライフライン)
 都市社会工学専攻 地盤震動および地震時の人的被害発生メカニズムの解明に関する研究

細田 尚教授
 (河川工学)
 都市社会工学専攻 川と湖の水環境, 豪雨と水害

大津 宏康教授
 (地盤・岩盤工学, リスク, マネジメント)
 都市社会工学専攻 ジオリスクエンジニアリング, 海外建設プロジェクトリスクマネジメント

小林 潔司教授
 (国土政策論)
 都市社会工学専攻 国土・地域システムの分析と計画方法論に関する研究

中川 大教授
 (都市交通計画)
 都市社会工学専攻 都市計画, 交通計画, 公共交通政策

谷口 栄一教授
 (交通計画)
 都市社会工学専攻 交通計画, シティロジスティクス, ITS (高度道路交通システム) に関する研究

藤井 聡教授
 (インフラについての公共政策論)
 都市社会工学専攻 土木計画, 交通計画ならびに社会心理学等の社会科学を基本とした公共政策研究

藤田 正治教授
 (土砂災害)
 社会基盤工学専攻/防災研究所 土砂災害・土砂資源に関する研究

中川 一教授
 (好ましい川づくり, 洪水氾濫, 土石流)
 社会基盤工学専攻/防災研究所 洪水および土砂災害の防止・軽減に関する研究

井合 進教授
 (地震と液化)
 社会基盤工学専攻/防災研究所 地震時の地盤災害, 地盤防災に関する研究

中北 英一教授
 (雲と雨の科学, ゲリラ豪雨)
 社会基盤工学専攻/防災研究所 降雨予測を含むレーダー水文学, 世界の異常降雨災害

間瀬 肇教授
 (海岸の災害)
 社会基盤工学専攻/防災研究所 波の理論, 地球温暖化に伴う沿岸災害評価, 洋上風力発電サイトの気象・海象解析, 信頼性・耐波設計法

寶 馨教授
 (水文統計学, 洪水リスク評価)
 社会基盤工学専攻/防災研究所 洪水予報と治水計画, 極値統計理論, 防災の新技术・政策論

平石 哲也教授
 (あなたの街を水際で守ります)
 社会基盤工学専攻/防災研究所 津波・高潮・高波による海岸侵食の防止技術, 砂丘環境のモニタリングと形成過程の解明, 港湾構造物の耐波安定性・洗掘対策

牛島 省教授
 (水の流れの計算)
 社会基盤工学専攻/学術情報メディアセンター 数値流体力学と水工学分野への応用

澤田 純男教授
 (耐震設計法)
 都市社会工学専攻/防災研究所 震源モデルと地盤震動解析に基づく設計入力地震動評価

小尻 利治教授
 (人工知能, 水資源)
 都市社会工学専攻/防災研究所 総合流域管理, 流域環境評価

堀 智晴教授
 (水資源, 洪水, 濁水, 水不足)
 都市社会工学専攻/防災研究所 水資源システムの計画と管理, 水災害の防止と軽減

岡田 憲夫教授
 (災害リスクマネジメント)
 都市社会工学専攻/防災研究所 災害リスクマネジメント, 特に, 計画的な手法やシステム科学的アプローチに関する研究

角 哲也教授
 (ダム, 河川環境)
 都市社会工学専攻/防災研究所 ダムの持続的 management のための流砂系統合土砂管理に関する研究

戸田 圭一教授
 (都市の水害)
 都市社会工学専攻/防災研究所 地下浸水を含む都市水害の予測と対策

勝見 武教授
 (地盤の環境問題の解決)
 地球環境学 社会基盤親和技術の開発, 環境地盤工学

多々納 裕一教授
 (防災計画)
 防災研究所 防災の経済分析, 災害リスクガバナンス

矢守 克也教授
 (防災教育, パニック, 防災心理学)
 防災研究所 防災心理学に関する研究, 防災教育を中心とした減災・防災システムに関する研究

林 春男教授
 (防災心理学, 組織の危機管理, 災害情報システム, 災害過程)
 防災研究所 組織/個人が災害をのりこえる力を高める方法

西藤 潤准教授
 (数値シミュレーション, トンネルの力学)
 社会基盤工学専攻 数値計算力学, トンネル工学, 最適設計

山本 貴士准教授
 (コンクリート構造物)
 社会基盤工学専攻 コンクリート構造の力学性能および耐久性, 補修・補強, 新材料・新工法

宇都宮 智昭准教授
 (洋上風力発電, など)
 社会基盤工学専攻 海洋構造物の動的応答に関する研究

八木 知己准教授
 (橋と風)
 社会基盤工学専攻 構造物の空気力学, 強風防災, 風工学に関する研究

五十嵐 晃准教授
 (構造力学, 耐震構造, 振動制御)
 社会基盤工学専攻 地震に対する社会基盤構造物の安全性と構造物の動的応答の制御

山上 路生准教授
 (乱流水理学)
 社会基盤工学専攻 水・空気界面の乱流ダイナミクス, 乱流輸送に基づく環境水理学

立川 康人准教授
 (洪水の予測や治水・利水のための技術開発)
 社会基盤工学専攻 水文学, 水資源工学, 水災害軽減に関する研究

木元 小百合准教授
 (地盤の変形と強度)
 社会基盤工学専攻 地盤材料の構成式, 地盤数値解析

須崎 純一准教授
 (都市の構造)
 社会基盤工学専攻 衛星・地上リモートセンシングによる都市環境のモニタリングとモデリング

久保田 善明准教授
 (公共空間デザイン)
 社会基盤工学専攻 景観工学, 橋梁設計, デザインマネジメント

原田 英治准教授
 (流砂・漂砂水理学)
 社会基盤工学専攻 流砂・漂砂水理学, 固液混相流の計算力学

服部 篤史准教授
 (インフラ構造物による快適で安全・安心な社会, インフラ構造物のドクター)
 都市社会工学専攻 コンクリート構造物のマネジメント, 耐久性, 維持管理, 補修・補強, 新材料・新工法

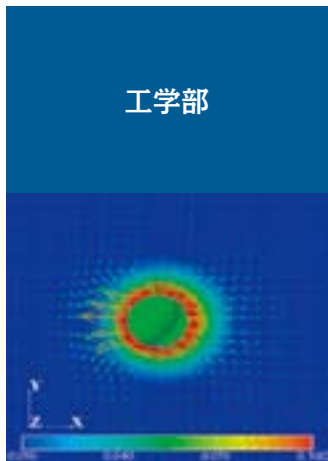
古川 愛子准教授
 (地震, 構造物診断)
 都市社会工学専攻 地震時における組積造構造物の破壊挙動解析, 振動特性の変化を利用した構造ヘルスマニタリング

岸田 潔准教授
 (地下空間の有効活用)
 都市社会工学専攻 地盤の力学・水理学特性の評価, トンネルと地下空間の創出, 地下構造の可視化

塩谷 智基准教授
 (スマート計画)
 都市社会工学専攻 土木構造物の維持管理に資する先端計測技術・評価手法の研究

西山 哲准教授
 (地下を利用した住み良い国土を作る)
 都市社会工学専攻 地下空間の創造・保全・維持管理のための力学, 地下水の挙動を解明する解析および計測手法の研究

松島 格也准教授
 (交通政策論)
 都市社会工学専攻 国土・地域のマネジメント手法論の開発, 交通市場構造分析



地球工学科 (Department of Earth Engineering)

宮川 豊章教授
 ("丈夫で, 美しく, 長持ち" するインフラ)
 社会基盤工学専攻 コンクリート構造物の耐久性, 維持管理, 補修・補強, 新材料・新工法

杉浦 邦征教授
 (橋の力学)
 社会基盤工学専攻 鋼構造物・複合構造物の力学, 耐久性, 健全度評価, 維持管理, 新材料・新構造形式

白土 博通教授
 (風と社会基盤 (構造物・施設) の関わり合い)
 社会基盤工学専攻 風と構造物の相互作用, 空気力学, 風に起因する安全性確保, 塩害・腐食環境の物理モデル

小池 武教授
 (地震防災)
 社会基盤工学専攻 都市ライフラインシステムの災害軽減と安全設計法に関する研究

福津 家久教授
 (水理学)
 社会基盤工学専攻 各種水域における流れと環境の相互特性および乱流輸送現象に関する研究, 世界最先端の流体計測による乱流科学の解明

椎葉 充晴教授
 (水の循環を科学的に理解し人と水のより良い関係を構築する)
 社会基盤工学専攻 水文学, 水資源工学, 河川防災

松中 亮治 准教授

(魅力ある持続可能な都市地域・交通)
都市社会学専攻 都市地域計画, 交通計画,
都市環境評価, 交通政策・制度

山田 忠史 准教授

(物資の輸送システム, 商品の流通システム, 物流最適化)
都市社会学専攻 サプライチェーンネットワークと交通ネットワークを明示的に考慮した効果的なロジスティクスシステムの設計

宇野 伸宏 准教授

(交通マネジメント)
都市社会学専攻 交通システムの計画とITSによるマネジメント

中野 剛志 准教授

(ナショナルリズム)
都市社会学専攻 政治経済思想を基本とした公共政策研究

堤 大三 准教授

(土砂災害, 斜面崩壊)
社会基盤工学専攻/防災研究所 山岳域における土砂生産や流砂の観測および土砂災害防止に関する研究

竹林 洋史 准教授

(河川工学, 環境水理学, 砂防工学)
社会基盤工学専攻/防災研究所 土砂水理学, 河川工学

川池 健司 准教授

(都市の水害, 洪水氾濫)
社会基盤工学専攻/防災研究所 都市水害の氾濫数値解析, 防災水工学

三村 衛 准教授

(地盤防災工学)
社会基盤工学専攻/防災研究所 粘土地盤の変形解析, 地盤情報データベース, 土木遺跡の保存

城戸 由能 准教授

(水環境の解析)
社会基盤工学専攻/防災研究所 水・物質循環の動態解析と予測・評価

森 信人 准教授

(高波, 高潮, 津波)
社会基盤工学専攻/防災研究所 沿岸災害メカニズムの基礎理論およびモデリング

山敷 庸亮 准教授

(琵琶湖の水質, 土石流災害, 海水温上昇)
社会基盤工学専攻/防災研究所 地球規模水・物質循環, 閉鎖性水域モデル, 陸域/海域の融合シミュレーション

馬場 康之 准教授

(現地での観測)
社会基盤工学専攻/防災研究所 沿岸域における波・流れ・土砂移動に関する観測研究

高橋 良和 准教授

(耐震工学)
都市社会学専攻/防災研究所 地震時における土木構造システムの安全性評価, ハイブリッドシミュレーション

田中 賢治 准教授

(水・エネルギー循環)
都市社会学専攻/防災研究所 陸面過程モデルの開発, 大気陸面相互作用

横松 宗太 准教授

(防災対策の効果の分析)
都市社会学専攻/防災研究所 防災投資の経済便益評価

竹門 康弘 准教授

(棲み場所の生態学)
都市社会学専攻/防災研究所 河川や湖沼の生態系管理のための応用生態工学的, 生態水文学的研究

米山 望 准教授

(津波, 洪水, 予測)
都市社会学専攻/防災研究所 数値シミュレーションによる水災害の予測

乾 徹 准教授

(地盤環境の保全と汚染対策)
地球環境学専攻 地盤中の環境影響質の挙動と対策, 環境地盤工学

畑山 満則 准教授

(地理情報システム)
防災研究所 時空間地理情報システム, 災害リスク・コミュニケーション, 情報システムを用いた災害対応

牧 紀男 准教授

(防災都市計画)
防災研究所 防災計画, 復興計画, 危機管理, すまいの災害誌

金 善攻 講師

(気候変動による水資源の変化予測と対策)
社会基盤工学専攻 水文学, 水資源工学, 水災害軽減, 気候変動と水工計画

三ヶ田 均 教授

(応用地球物理学)
社会基盤工学専攻 地球物理学を用いた統合型マルチスケール解析技術の確立と応用の研究

石田 毅 教授

(岩盤力学)
社会基盤工学専攻 地下深部の利用・開発に関わる地圧状態の研究や破壊音の測定による岩盤破壊の研究

朝倉 俊弘 教授

(トンネル工学)
社会基盤工学専攻 岩盤構造物設計と保守に関する研究

岡岡 俊文 教授

(二酸化炭素の地中貯留)
都市社会学専攻 エネルギー資源開発と地球環境保全へのナノジオサイエンスの適用研究

小池 克明 教授

(地下の可視化)
都市社会学専攻 地殻構造と環境の時空間モデリングに関する地質情報工学

馬淵 守 教授

(エコロジカルマテリアル)
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギー・省資源に資する新材料に関する研究

宅田 裕彦 教授

(加工プロセス)
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギーを目的とした材料加工プロセス

後藤 忠徳 准教授

(物理探査)
社会基盤工学専攻 電磁探査を用いた海底資源・活断層調査技術の開発と適用

村田 澄彦 准教授

(資源開発)
社会基盤工学専攻 人と地球環境にやさしい資源開発技術の開発

塚田 和彦 准教授

(非破壊検査)
社会基盤工学専攻 構造物健全性診断や資源開発に関わる非破壊検査・応用計測技術の開発

山田 泰広 准教授

(地質モデル)
都市社会学専攻 資源開発と地球環境保全のための地質モデルに関する研究

水戸 義忠 准教授

(不連続性岩盤)
都市社会学専攻 岩盤構造物の情報化設計・施工と地盤環境評価技術の開発

浜 孝之 准教授

(金属材料の力学)
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギー・省資源を目的とした金属材料の塑性加工プロセスに関する研究

藤本 仁 准教授

(加工プロセス)
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 省エネルギーを目的とした材料加工プロセス

楠田 啓 准教授

(炭素循環)
エネルギー科学研究科・エネルギー応用科学専攻 炭素を中心とした資源・エネルギー循環

高岡 昌輝 教授

(資源循環)
都市環境工学専攻 循環型社会形成のための廃棄物の処理・処分・管理に関する研究

高野 裕久 教授

(環境医学)
都市環境工学専攻 環境と健康, 疾病に関する研究

津野 洋 教授

(きれいな水の保全と創出)
都市環境工学専攻 公共用水域の水質制御と水処理に関する研究

米田 稔 教授

(環境リスク)
都市環境工学専攻 土壌圏を中心とする環境汚染物質のリスク評価

松岡 譲 教授

(地球温暖化問題)
都市環境工学専攻 地球環境の統合評価に関する研究

伊藤 禎彦 教授

(上水道と飲み水)
都市環境工学専攻 都市衛生工学, 水道水質の安全性評価とその制御

清水 芳久 教授

(よりよい流域環境の創造のために)
都市環境工学専攻 統合的湖沼流域管理, 水環境中天然有機物質の科学的解明, 地下水・土壌浄化, 環境微量汚染物質の分析方法の開発と挙動の解明

田中 宏明 教授

(下水道, 水の再利用)
都市環境工学専攻 健全な水循環, 水環境をめざす研究

酒井 伸一 教授

(ごみとリサイクル)
都市環境工学専攻 循環型社会形成と廃棄物管理に関する研究

馬原 保典 教授

(環境動態)
都市環境工学専攻 環境中での放射能の移動挙動と分布に関する研究

小山 昭夫 教授

(放射性廃棄物)
都市環境工学専攻 放射性廃棄物管理に関する研究

藤井 滋穂 教授

(水環境)
地球環境学専攻 水域水質・生態系の保全と制御に関する研究

東野 達 教授

(大気環境)
エネルギー科学研究科・エネルギー社会・環境科学専攻 エアロゾル粒子の環境動態と環境負荷・影響評価に関する研究

松井 利仁 准教授

(騒音公害)
都市環境工学専攻 サウンドスケープおよび騒音の健康影響に関する研究

西村 文武 准教授

(水環境保全)
都市環境工学専攻 水環境の保全と廃水処理に関する研究

八十島 誠 准教授

(水環境保全)
都市環境工学専攻 微量汚染物質の検出と健全な水環境の創造に関する研究

中山 亜紀 准教授

(環境リスク)
都市環境工学専攻 生物学的メカニズムに基づいた健康リスク評価方法の構築

倉田 学児 准教授

(大気環境)
都市環境工学専攻 広域大気汚染シミュレーションとその将来影響予測に関する研究

越後 信哉 准教授

(飲み水の化学)
都市環境工学専攻 浄水処理の化学, 高度水処理技術の開発

平山 修久 准教授

(防災・減災と環境衛生工学)
都市環境工学専攻 水道事業の戦略計画に関する研究

松田 知成 准教授

(毒性メカニズム)
都市環境工学専攻 環境微量汚染物質の毒性メカニズムの解明

平井 康宏 准教授

(廃棄物)
都市環境工学専攻 教育研究における環境安全に関する研究, 廃棄物管理・物質循環のシステム解析に関する研究

藤川 陽子 准教授

(汚染物質環境動態・環境修復)
都市環境工学専攻 放射性廃棄物中処分の環境安全評価に係る実験的研究

田中 周平 准教授

(水環境生態工学)
地球環境学専攻 化学物質の挙動調査と処理技術の開発, 沿岸生態系の修復保全

松井 康人 講師

(健康リスク)
都市環境工学専攻 ナノマテリアルのリスク評価, 室内環境中化学物質の曝露評価

山下 尚之 講師

(水環境保全)
都市環境工学専攻 健全な水環境をめざす研究

金 哲佑 教授

(損傷感知スマートセンサー)
社会基盤工学専攻 振動モニタリングによる橋梁の異常診断および損傷推定, 橋梁振動の周辺環境への影響とその対策, スマートセンサ開発, 車両 - 橋梁連成系の不規則振動

安 琳 准教授

(PC 腐食, インテリジェントコンクリート)
社会基盤工学専攻 コンクリート構造物の補修, 補強, 道路橋 PC 橋の耐久性, コンクリートの自己修復

TAMRAKAR Surendra Bahadur 准教授

(土の強度特性)
社会基盤工学専攻土の引張り強度の測定方法と圧縮強度との比較、セメント改良土の初期強度測定に関する研究、土質実験

DURAN C. Freddy 准教授

(地下構造物地震解析)
都市社会工学専攻 地下構造物およびRC橋脚の非線形地震解析と耐震設計

金 広文 准教授

(国際協力・地域開発)
都市社会工学専攻 開発途上国の地域計量分析、都市交通システム分析、越境経済・交通プロジェクトに関する研究、ソーシャルキャピタル論からみた文化・知的交流の意義とNPOの役割に関する研究

SCHMÖCKER Jan-Dirk 准教授

(都市と交通)
都市社会工学専攻 ネットワークとリスク：不確実性に対する行動分析、公共交通乗客配分モデル、高齢者に対するモビリティ分析、土地利用と交通パターン分析

KHAYYER Abbas 講師

(数値流体力学)
社会基盤工学専攻 粒子法、海岸工学、乱流モデル

MYGDALSKYY Volodymyr 講師

(ガラスの亀裂)
社会基盤工学専攻 応用解析学、破壊力学の数理、亀裂伸展における数理モデルおよび数値解析、微分方程式論

PUAY How Tion 講師

(流体流れの特性)
都市社会工学専攻 水工学、数値流体力学

FLORES Giancarlo 講師

(環境地盤工学)
都市社会工学専攻 地盤中の化学物質挙動、廃棄物の適正処分、土壌・地下水汚染の浄化・リスク評価

QURESHI Ali Gul 講師

(物流計画)
都市社会工学専攻 数理計画、地域ロジスティクスに関する研究

嶋本 寛 講師

(環境に優しい交通計画)
都市社会工学専攻 交通ネットワーク解析、公共交通乗客配分モデル、交通行動パターン解析

建築学科

林 康裕 教授

(住まい・職場の安全性、地震、文化財)
地域と建築物の保全再生、建築物の耐震性能評価とリスクマネジメント、建築地震防災

神吉 紀世子 教授

(都市計画・農村計画)
環境共生の地域づくり

西山 峰広 教授

(耐震、耐火、建築構造)
建築物の耐震・耐火設計、既存建築物の耐震性能評価と補強

門内 輝行 教授

(建築・都市計画、人間-環境系のデザイン、景観まちづくり、設計方法)
建築環境計画学及び建築・都市設計の方法に関する研究

銚井 修一 教授

(夏涼しく冬暖かい家、エネルギーを無駄使しない家)
エネルギーの有効利用と快適な建築温熱環境の設計

高松 伸 教授

(建築設計、デザイン)
建築設計過程の分析を通じた建築意匠学の研究

岸 和郎 教授

(建築・都市空間、形態分析、モダニズム、批評)
建築設計および都市・建築空間の形態分析の方法に関する研究

上谷 宏二 教授

(構造最適設計)
弾塑性構造物の臨界現象論と建築構造物の性能設計

加藤 直樹 教授

(最適避難計画、オフィスビルマネジメント)
情報工学、システム工学、数理技術を用いた建築・都市計画に関する研究

吹田 啓一郎 教授

(鉄骨構造)
鋼構造建築物の設計と接合システム、耐震補強に関する研究

金子 佳生 教授

(高度解析技術、変形制御設計、高性能構造)
新素材を用いた次世代構造システムの機能創生と環境共生への適用

高田 光雄 教授

(住まい・まちづくり、住環境デザイン)
建築計画学及び住まい・まちづくりに関する研究

原田 和典 教授

(熱環境、火災)
都市と建築空間の熱環境と火災安全

高橋 大弐 教授

(音環境、騒音、振動、建築音響)
居住・行動空間の音環境設計に関する研究

竹脇 出 教授

(建物の構造安全性、構造力学、耐震設計)
制振構造・免震構造・極限地震動に関する研究、建物・地盤連成系の設計法

大西 良広 准教授

(耐震構造)
建物に作用する地震動・地震防災に関する研究

石田 泰一郎 准教授

(照明、色彩、視覚)
人間の視覚特性に基づいた建築視環境に関する研究

山岸 常人 准教授

(建築の歴史)
日本建築史及び歴史的建造物保存

河野 進 准教授

(コンクリート、耐震、損傷制御、地震被害軽減、大型実験)
コンクリート系構造物の耐震設計

吉田 哲 准教授

(都市空間、居住空間、心理、行動)
都市空間、居住空間における人の心理と行動の研究

小椋 大輔 准教授

(文化財の保存環境)
建築と文化財を長く守る環境制御手法に関する研究

竹山 聖 准教授

(空間的想像力)
建築空間論及び居住形態論

田路 貴浩 准教授

(建築設計、建築論)
建築・都市デザインに関する建築論的研究

荒木 慶一 准教授

(建物の揺れ、シミュレーション、コントロール)
地震による建物の揺れの解析と制御に関する研究

古阪 秀三 准教授

(建築プロジェクト、マネジメント)
建築プロジェクトのマネジメントシステムに関する研究

髙高 裕治 准教授

(鉄骨構造)
鋼構造建築物の立体挙動と制振・耐震設計に関する研究

上谷 芳昭 准教授

(自然光、採光、照明、省エネルギー)
建築照明に関する研究

伊勢 史郎 准教授

(音響空間の創造)
音場再現、空間共有、アクティブ騒音制御に関する研究

辻 聖晃 准教授

(耐震補強、持続可能な社会、構造設計)
既存建築物の耐震補強、持続可能な社会のための新しい構法システム

李 有震 講師

(構造計画)
最適設計手法を用いた建物の構造計画に関する研究

中島 正愛 教授

(耐震構造)
建物の地震時挙動の解明と震害の防衛・軽減技術の開発と評価

川瀬 博 教授

(地震波予測、耐震施策)
都市居住空間の地震災害低減のための構造物の被害予測と耐震性向上策の提案

河井 宏允 教授

(強風災害、耐風設計)
強風災害と建築物の耐風設計法

田中 仁史 教授

(鉄筋コンクリート、耐震設計)
鉄筋コンクリート構造物の耐震設計法、CO2削減を目的とした集材材床の開発

田中 孝義 教授

(地震火災、都市防災計画、文化遺産建築、性能火災安全設計)
地震火災被害のリスク評価と防災対策

小林 正美 教授

(都市設計、環境デザイン)
自然が災害によって教える人間らしい居住のあり方に関する研究

松島 信一 准教授

(地震時の揺れの予測、都市の実耐震性能評価)
震源と地盤の不均質性を考慮した強震動評価とその都市防災への応用

丸山 敬 准教授

(風環境、強風被害、防災対策)
風環境の解明と強風被害のリスク評価および防災対策

田村 修次 准教授

(液状化、杭基礎)
液状化地盤における建築基礎構造の耐震性

小川 広英 准教授

(環境デザイン、地域建築)
人間環境設計に関する実践的研究

物理工学科

榎木 哲夫 教授

(人と機械を繋ぐデザイン)
機械理工学専攻・機械システム学コース
人間機械協調システムのデザインと知的意思決定支援

西脇 真二 教授

(最適化)
機械理工学専攻・機械システム学コース
◎最適設計法・構造最適化
◎設計・生産システムに関する研究

北條 正樹 教授

(軽くて強く堅い材料の研究)
機械理工学専攻・機械システム学コース
先進複合材料の破壊における巨視微視相関メカニクス、ソフトアクティブマテリアル

宮崎 則幸 教授

(固体材料の強さ)
機械理工学専攻・機械システム学コース
電子材料／電子デバイスの強度評価、計算固体力学手法による水素脆化機構の解明

小森 悟 教授

(環境中の流れ)
機械理工学専攻・機械システム学コース
流体装置および環境中に見られる乱流輸送現象の流体力学的解明

北村 隆行 教授

(破壊と創製)
機械理工学専攻・機械システム学コース
小さな構造材料の破壊機構の解明と数値シミュレーション

牧野 俊郎 教授

(生産・生活と熱・ふく射)
機械理工学専攻・機械システム学コース
熱・ふく射輸送現象の解明と制御、熱・ふく射応用計

松野 文俊 教授

(ロボティクス、機械システムの制御、レスキュー工学、ヒューマンインターフェイス、生物の運動知能の理解と機械システムによる実現)

中部 主敬 教授

(熱流体制御)
機械理工学専攻・機械システム学コース
熱物質移動現象の解明と制御ならびに熱流体応用計測

蓮尾 昌裕 教授

(光計測とプラズマ診断)
機械理工学専攻・機械システム学コース
プラズマ中の原子・イオン・光のダイナミクス解明とそのための手法開発

富田 直秀 教授

(機械理工学専攻・機械システム学コース)
荷重支持組織の再生、再建とその生体環境設計

井手 亜里 教授

(分析的イメージング)
機械理工学専攻・機械システム学コース
超高精細イメージングによる材料分析

安達 泰治 教授

(生物のかたちとはたらき)
再生医科学研究所・機械システム学コース
生体組織・細胞の機能的適応のバイオメカニクスとその工学的応用

池田 徹 准教授

(機械理工学専攻・機械システム学コース)
界面の破壊力学、電子実装における信頼性評価

花崎 秀史教授

(流れのメカニズム)
機械理工学専攻・機械システム学コース
流体中の熱・物質輸送現象の解明

松本 充弘准教授

(ナノ)
機械理工学専攻・機械システム学コース
分子熱流体現象の解明

小森 雅晴准教授

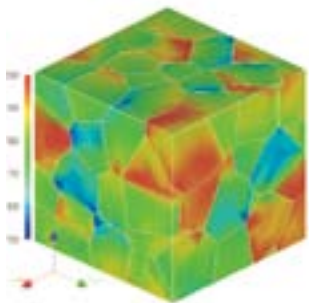
(メカニズム)
機械理工学専攻・機械システム学コース
◎メカニズム・機構・ロボット・機械要素
◎超精密計測

黒瀬 良一准教授

(工業装置内の流れ)
機械理工学専攻・機械システム学コース
流体装置内および環境中に見られる乱流輸送現象の解明

巽 和也准教授

(機能性熱流体)
機械理工学専攻・機械システム学コース
微小流路内の複雑流体流れの現象解明



中西 弘明講師

(ロボットの自律制御)
機械理工学専攻・機械システム学コース
学習・適応システムとシステム制御, 自律型ロボットの設計とその安全・防災活動への応用

澄川 貴志准教授

機械理工学専攻・機械システム学コース
微小構造体の変形と破壊特性に関する実験及び力学解析

西川 雅章准教授

(コンポジット材料)
機械理工学専攻・機械システム学コース
複合材料・構造の設計のためのマイクロメカニクス

阿部 拓郎講師

(超平面配置に関連した数学)
機械理工学専攻・機械システム学コース
超平面配置の幾何学及び組み合わせ論の, 代数及び代幾何学からの解析

四竈 泰一講師

(プラズマ計測)
機械理工学専攻・機械システム学コース
プラズマ壁相互作用の解明, 光を利用した新しいプラズマ測定法の開発

福島 宏明講師

(自律移動ロボットの制御)
機械理工学専攻・機械システム学コース
移動ロボットのモデリングと制御系設計・解析, 複数ロボットの分散・協調制御

小寺 秀俊教授

(マイクロナノテクノロジー)
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
細胞と生体分子の機能を探るマイクロシステムの研究① 電材料とその応用デバイスの研究

田畑 修教授

(小さな機械と大きな機会)
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
マイクロナノシステム, 微小電気機械システム(MEMS), DNA ナノテクノロジーに関する研究

木村 健二教授

(イオンビーム)
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
イオンビームと物質の相互作用の解明とその応用

立花 明知教授

(量子力学に基づく物性理論とシミュレーション)
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
量子力学に基づく物性理論とシミュレーション及びそのエレクトロニクス材料設計への応用

松原 厚教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
◎高速・高精度位置決め技術
◎加工プロセスのモニタリングと制御

梶見 明弘教授

再生医科学研究所・機械システム学コース
1分子ナノバイオテクノロジーの開発と細胞の構造形成・情報変換・神経回路研究への応用

神野 伊策准教授

(マイクロ・ナノデバイス)
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
薄膜材料工学およびマイクロマシンデバイスに関する研究

土屋 智由准教授

マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
マイクロシステム, マイクロマシン用材料の機械的物性評価

鈴木 基史准教授

(ナノ構造薄膜)
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
◎ナノ構造薄膜の電気的, 光学的物性に関する研究
◎イオンビームを用いた薄膜表面・界面の解析

茨木 創一准教授

(ものづくりのための機械)
マイクロエンジニアリング専攻・機械システム学コース
◎加工機の制御と運動精度計測
◎加工プロセスの制御

玄 丞休准教授

(再生医療のための生態材料)
再生医科学研究所・機械システム学コース
◎有機高分子医療用材料の合成と物性
◎人工関節軟骨・人口関節のバイオメカニクス
◎細胞増殖制御と生体組織の保存

井上 康博准教授

(生命らしさの数理)
再生医科学研究所・機械システム学コース
生命分子, 細胞, 組織のメカノバイオロジー

吉田 英生教授

(エネルギーの要としての熱)
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース
熱エネルギーの有効利用や熱現象を応用したシステムの開発

杉江 俊治教授

(自動制御)
情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
アドバンスト制御理論とそのメカトロニクス系への応用

川上 浩司准教授

(不利益・不便の効用に着目したシステムデザイン)
情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
◎生態学的設計支援
◎人間-機械-環境の共生システム論

西原 修准教授

情報学研究科システム科学専攻・機械システム学コース
◎人間中心システム
◎動力学解析によるパーチャル・プロトタイプング

岩井 裕准教授

(エネルギー有効利用)
航空宇宙工学専攻・機械システム学コース
熱・物質移動現象の解明とその予測および制御

稲室 隆二教授

(移動境界流れ)
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
移動境界を伴う流体力学の基礎的研究とその応用

泉田 啓教授

(航空宇宙の力学と制御)
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
力学的理解と生体の運動知能理解に基づく航空宇宙システムの知能化制御とシステム設計

永田 雅人教授

(流れの安定性)
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
層流から乱流への遷移メカニズムの解明に関する研究

斧 高一教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
電離気体および反応性気体の力学と物性に関する実験的研究とその航空宇宙工学への応用

琵琶 志朗教授

(変形と波動の微視力学解析)
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
材料・構造における弾性波伝搬解析と超音波による機能・健全性評価

大和田 拓准教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
分子気体力学の理論的研究

幸田 武久准教授

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
システムの信頼性および安全性

江利口 浩二准教授

(プラズマ)
航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
プラズマと固体表面・界面との反応機構に関する研究とその航空宇宙工学への応用

杉元 宏講師

航空宇宙工学専攻・宇宙基礎工学コース
微視的流体力学の理論的研究

青木 一生教授

(分子の運動と気体の流れ)
機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース
分子気体力学の理論的研究とその機会理工学・航空宇宙工学への応用

高田 滋准教授

(非平衡状態の気体力学)
機械理工学専攻・宇宙基礎工学コース
マイクロスケール装置や真空装置内の気体流れの理論と応用

福山 淳教授

(核融合プラズマ)
原子核工学専攻・原子核工学コース
◎核融合プラズマの総合シミュレーション
◎電磁波によるプラズマの制御

伊藤 秋男教授

原子核工学専攻・原子核工学コース
◎イオンビーム衝突現象の基礎と原子スケール物質科学
◎クラスター粒子を含む量子線ビームの高度利用研究
◎研究型医学物理士養成に係る量子線研究

山本 克治教授

(量子技術)
原子核工学専攻・原子核工学コース
◎物理学の基礎理論
◎量子系の測定, 状態操作, 制御, ダイナミクス
◎光と原子による量子情報技術

功刀 資彰教授

原子核工学専攻・原子核工学コース
◎数値熱流体力学
◎ナノ・ミクロ熱流体工学
◎核融合炉熱工学

神野 郁夫教授

(放射線検出器)
原子核工学専攻・原子核工学コース
◎放射線物理学
◎放射線検出器の開発とその医療・産業応用

高木 郁二教授

(核材料)
原子核工学専攻・原子核工学コース
◎核融合炉材料
◎軽水炉材料
◎水素エネルギー材料

村上 定義准教授

(核融合エネルギー)
原子核工学専攻・原子核工学コース
◎プラズマ物理学
◎核融合プラズマ工学

土田 秀次准教授

原子核工学専攻・原子核工学コース
◎量子ビーム照射環境下で起こる物理過程の解明
◎高速イオンと物質との衝突反応素過程の解明

松尾 二郎准教授

原子核工学専攻・原子核工学コース
◎量子ビームと物質との相互作用
◎量子ビームによる新材料創製技術
◎反応ダイナミクス

田崎 誠司准教授

原子核工学専攻・原子核工学コース
◎低速中性子光学
◎中性子スピン干渉現象の研究と応用

佐々木 隆之准教授

(原子力の化学)
原子核工学専攻・原子核工学コース
◎アクチノイドの分離分析化学
◎放射性廃棄物の処理処分

柴田 裕美准教授

(放射線の科学と応用)
原子核工学専攻・原子核工学コース
◎高速クラスターイオンと物質との相互作用
◎超高速微粒子生成と宇宙塵計測
◎マイクロイオンビームに依る微量分析

河原 全作 講師

(熱流体)
原子核工学専攻・原子核工学コース
◎エネルギー機器の熱流体工学
◎伝熱工学
◎混相流の物理と工学

瀬木 利夫 講師

原子核工学専攻・原子核工学コース
◎量子ビームの生成と制御
◎量子ビームによる高精度ナノ加工・ナノ材料創成

松原 英一郎 教授

(リチウム電池)
材料工学専攻・材料科学コース
構造解析に基づく金属ガラス転移解明, 金属ナノ粒子製造, 鉛フリーはんだ設計, 磁性薄膜自己組織化等を研究

辻 伸泰 教授

(金属の組織・構造と力学特性)
材料工学専攻・材料科学コース
構造用金属材料のナノ・ミクロ組織の形成と力学特性の発現のメカニズム, パルクナノメタルの科学的

乾 晴行 教授

材料工学専攻・材料科学コース
金属間化合物の格子欠陥と物性

河合 潤 教授

(物質情報)
材料工学専攻・材料科学コース
材料の構造, 物性, 電子状態, 化学状態, 濃度等に関する物質情報を計測したり, 環境物質を分析するための新手法の開発

杉村 博之 教授

材料工学専攻・材料科学コース
物質の集積化と機能構築

田中 功 教授

(新物質探索・設計)
材料工学専攻・材料科学コース
量子材料設計, セラミクス基礎科学, 新エネルギー材料技術

酒井 明 教授

(原子や分子で作る配線の電気抵抗)
材料工学専攻・材料科学コース
ナノテクノロジー, 特にナノワイヤー, ナノ接点の電子伝導の研究

中村 裕之 教授

(磁石の科学)
材料工学専攻・材料科学コース
磁性と磁性材料, 相関電子系の物性と機能

白井 泰治 教授

(陽電子による物質研究)
材料工学専攻・材料科学コース
陽電子(ポジトロン)ビームを用いた物質内部の局所原子配列の解明, 高機能材料開発, 新しい陽電子分析機器の開発

伊藤 和博 准教授

(電子デバイスに役立つ金属薄膜の創製)
材料工学専攻・材料科学コース
半導体と金属との機能的接合の開発; 半導体上の金属配線の微細組織制御, 半導体に効率よく電流を注入する電極開発

邑瀬 邦明 准教授

(表面の機能化)
材料工学専攻・材料科学コース
電気化学的もしくは化学的手法による金属, 合金, および化合物薄膜の作製プロセスとその機能評価

奥田 浩司 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
多相・複合化材料の構造解析と機能最適化デザイン

黒川 修 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
走査プローブ顕微鏡, メソスコピック電子現象の研究

市坪 哲 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
金属ガラスのガラス転移・緩和挙動, ナノ粒子垂直磁化膜の作成, 超音波物性測定

宇田 哲也 准教授

(エネルギー材料)
材料工学専攻・材料科学コース
新しいタイプの燃料電池, チタンの製造プロセスの研究

岸田 恭輔 准教授

(原子スケール構造と物性)
材料工学専攻・材料科学コース
結晶性材料の格子欠陥設計による物性制御, 透過電子顕微鏡法

田畑 吉計 准教授

材料工学専攻・材料科学コース
中性子散乱実験による物性研究, 金属間化合物の磁気的性質に対する基礎的研究

大場 史康 准教授

(半導体技術設計)
材料工学専攻・材料科学コース
化合物半導体および電子セラミックスの電気的機能の設計

井上 耕治 講師

材料工学専攻・材料科学コース
陽電子をプローブとした高機能材料における格子欠陥研究

石原 慶一 教授

(エネルギー社会工学)
エネルギー科学研究科
エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学コース
エネルギー・環境材料, エネルギーシナリオ研究, エネルギー環境負荷評価

奥村 英之 准教授

エネルギー科学研究科
エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学コース
環境材料, 機能性材料, 環境教育, エネルギー環境負荷評価

萩原 理加 教授

エネルギー科学研究科
エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学コース
無機合成化学, 物理化学, 電気化学

岸本 泰明 教授

エネルギー科学研究科
エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学コース
核融合プラズマ乱流輸送・高強度レーザーと物質相互作用に関する理論・シミュレーション, 相対論プラズマ, 高エネルギー密度科学

野平 俊之 准教授

(燃料電池・二次電池)
エネルギー科学研究科
エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学コース
電気化学的エネルギー変換および材料創製

塩路 昌宏 教授

(新燃料とクリーン燃焼)
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学コース
熱機関における燃焼現象の解明とその制御

石山 拓二 教授

(エンジンの燃焼技術)
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学コース
内燃機関の燃焼過程の解析と制御

川那辺 洋 准教授

エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学コース
乱流燃焼の光学計測および数値解析

松本 英治 教授

(先進材料の力学)
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学コース
先進材料・電磁材料の力学と超音波や電磁場を利用した非破壊評価技術の開発

星出 敏彦 教授

(材料の強さ)
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学コース
金属材料の二軸軸露に関する実験と数値シミュレーション, セラミクス薄膜被覆材料の創製とその機械的特性の評価

今谷 勝次 准教授

(構造や材料の変形)
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学コース
高温非弾性変形と材料加工プロセスの解析

平藤 哲司 教授

(環境に優しい方法で価値あるものをつくる)
エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学コース
電気化学を基礎とする機能素材プロセッシング

岩瀬 正則 教授

エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学コース
材料生産プロセスの熱化学

長谷川 将克 准教授

エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学コース
リサイクルプロセスの熱力学

木下 勝之 准教授

(非破壊評価)
エネルギー科学研究科
エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学コース
電・磁・熱・弾性結合効果を利用した新しい材料・構造評価手法の開発

土井 俊哉 准教授

(太陽電池と超伝導材料)
エネルギー科学研究科
エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学コース
結晶方位コントロールによる機能素材の高性能化

電気電子工学科

土居 伸二 教授

非線形システム, 生命システム, 脳神経系・心臓の電気生理学・医工学, システム論的予測医学

古谷 栄光 准教授

システム・制御理論の医療応用, 生体信号解析, むだ時間制御系の理論, 2自由度制御系の設計法

松尾 哲司 教授

計算電磁気学, 磁性材料モデリング

雨宮 尚之 教授

超伝導体の電磁現象, 超伝導のエネルギー・環境応用, 超伝導の医療応用

中村 武恒 准教授

高温超伝導パワー応用, 新磁界応用, 先進電気機器

小林 哲生 教授

ニューロエンジニアリング, 高次脳機能の量子計測とイメージング, 認知神経科学

濱田 昌司 准教授

生体の関与する電界・磁界・電磁界の解析, 脳磁計測用逆計算手法

引原 隆士 教授

非線形力学の工学的応用, MEMS, 電気エネルギーネットワーク, パワーエレクトロニクス

和田 修己 教授

電気回路モデリング, 電気電子システムの電磁的両立性(EMC), EMC実装工学, 電磁波工学

久門 尚史 准教授

回路システム, 電磁現象のモデル化, 電力フローの設計

萩原 朋道 教授

デジタル/サンプル値制御理論, 2自由度最適制御系の理論と応用, 動的システム理論

蛸原 義雄 准教授

数値最適化手法を用いた線形制御系の解析・設計

山本 修 講師

高電圧絶縁, 放電現象の研究

鈴木 実 教授

高温超伝導物質とジョセフソン効果の研究, 巨大磁気抵抗材料, 複合酸化物の電子応用

掛谷 一弘 准教授

超伝導・磁性などの量子論的創発現象を用いた革新的電子材料の研究

後藤 康仁 准教授

真空ナノエレクトロニクス, 物理気相成長による薄膜形成技術開発, イオンビーム分析

酒井 道 准教授

大気圧プラズマの生成とその応用, プラズマによる電磁波制御の研究

木本 恒暢 教授

フイドギャップ半導体の結晶成長, 物性制御とデバイス応用

須田 淳 准教授

フイドギャップ半導体ヘテロエピタキシーと機能デバイスへの応用

松重 和美 教授

分子ナノエレクトロニクス, 有機電子材料の構造制御と電子物性, ナノテクノロジー, 電気自動車

山田 啓文 准教授

ナノスケール構造の光・電子物性とその応用

川上 養一 教授

原子レベルで制御された低次元量子構造において発現する新しい光物性の解明と探索

船戸 充 准教授

光材料の育成と物性探索

野田 進 教授

光子電子工学, フォトニック結晶・光半導体, およびエネルギー・情報・通信への応用

浅野 卓 准教授

半導体光デバイスの研究

北野 正雄 教授

量子エレクトロニクス, 量子光学, 電磁メタマテリアル

杉山 和彦 准教授

量子エレクトロニクス, レーザ原子時計, 光周波数シンセサイザ, 量子計算機

青木 学聡 講師

ナノスケール材料の創製, 評価に関するシミュレーション技術

高岡 義寛 教授

クラスターイオン, ナノプロセス, 表面反応, 高機能材料創製の研究

藤田 静雄 教授

量子機能薄膜材料の育成と物性探索, 有機エレクトロニクスの材料

中村 敏浩 講師

電子材料プロセスの分光診断と反応解析

黒橋 禎夫 教授

自然言語処理, 知識情報処理

河原 大輔 准教授

言語知識獲得, 自然言語解析, Web 情報分析

松山 隆司 教授

デジタル画像・映像の処理, ヒューマン・コミュニケーション, エネルギーの情報化

川嶋 宏彰 講師

パターン認識, ヒューマンコミュニケーション, ハイブリッドダイナミカルシステム

延原 章平 講師

コンピュータビジョン, 多視点画像からの3次元形状・運動復元, 3次元ビデオ

吉田 進 教授

高信頼度デジタル通信技術, 無線情報ネットワーク

村田 英一 准教授

デジタル無線通信技術, 無線通信システムの研究

守倉 正博 教授

伝送信号処理技術を用いた無線 LAN, 無線アクセスシステム構成技術の研究

山本 高至 准教授

無線リソース制御, ゲーム理論の応用

高橋 達郎 教授

マルチメディアネットワークアーキテクチャ, プロトコル, システム構成技術

佐藤 高史 教授

大規模集積回路の設計技術, 設計自動化技術

越智 裕之 准教授

再構成可能アーキテクチャ, 高性能・低消費電力・高信頼 VLSI 設計技術

小野寺 秀俊 教授

VLSI の設計手法と CAD 技術

石原 亨 准教授

組み込みシステムの設計手法と制御技術

佐藤 亨 教授

高分解能レーザーイメージング技術

乗松 誠司 准教授

光通信, 特に光ファイバ通信に関する研究

石井 信 教授

生命システム, 計算論的神経科学, システム神経生物学, 強化学習

大羽 成征 講師

多変量データの確率的モデリング, システム要素の統計学, バイオインフォマティクス

松田 哲也 教授

医用画像診断法および生体物理計測法の開発

中尾 恵 准教授

手術支援システム, 医用グラフィクス, 可視化, 触覚情報処理

下田 宏 准教授

エネルギーシステムを支える情報技術とヒューマンインタフェース技術

中村 祐司 教授

核融合プラズマの閉じ込め及び電磁流体力学的性質に関するコンピュータ数値解析・シミュレーション

野澤 博 教授

強誘電体機能メモリ, 断熱型 CMOS 論理回路, SPICE シミュレーション

白井 康之 教授

先進エネルギーシステム, 超伝導現象のエネルギー応用, 極低温液体の熱流体力学

小山田 耕二 教授

大規模・複雑データ向け可視化, 粒子ボリュームレンダリング, ボリュームコミュニケーション, シミュレーション

中村 裕一 教授

ネットワークを介したコミュニケーションシステム, 画像・映像メディアの撮影・認識・編集

山川 宏 教授

宇宙環境探査工学, 太陽エネルギーを用いた宇宙システム工学, 宇宙機の軌道ダイナミクス

小嶋 浩嗣 准教授

科学衛星による宇宙プラズマ中でのプラズマ波動の探査

篠原 真毅 教授

マイクロ波エネルギー伝送, 宇宙太陽発電所

山本 衛 教授

電離圏イレギュラリティの研究, レーダーによる大気観測方式に関する研究

橋口 浩之 准教授

各種大気レーダーの開発とそれを用いた気象現象のリモートセンシングに関する研究

津田 敏隆 教授

電波・光・音波を用いた地球大気計測技術の開発と大気環境科学への応用

大村 善治 教授

宇宙プラズマ中の非線形現象の計算機実験と宇宙電磁環境工学への応用

海老原 祐輔 准教授

多層多階層に立脚した宇宙環境シミュレーション

水内 亨 教授

高温プラズマ周辺領域の物性・制御技術の研究

南 貴司 准教授

高温プラズマのレーザー計測と輸送物理解の研究

佐野 史道 教授

複合複雑系としての高温プラズマ中の協同現象の機構解明

花谷 清 准教授

トラスプラズマにおける輸送と加熱の計算機シミュレーション

岡田 浩之 准教授

高温プラズマの生成および閉じ込め

長崎 百伸 教授

高周波を用いたプラズマの生成と加熱に関する研究, ミリ波伝送システムの開発

増田 開 准教授

荷電粒子ビーム・電磁界相互作用を用いた高輝度電子ビーム源, 自由電子レーザー, ビーム集束核融合の研究

情報学科**佐藤 雅彦 教授**

構成的プログラミング, コンピュータソフトウェア

山本 章博 教授

(データに潜む構造を発見するプログラム) 人工知能基礎論, 帰納論理, 機械学習, 知識発見

西田 豊明 教授

(人工知能) 会話情報学, 社会知デザイン, 原初知能

奥乃 博 教授

人工知能, 音環境理解, 音楽情景分析, ロボット聴覚

吉川 正俊 教授

(情報の探索と提示) データベース, 情報検索, 社会情報学

田中 克己 教授

(検索エンジン, 情報の検索と分析, 画像・動画の検索, 大量データの検索と管理) Web 情報検索, マルチメディア情報システム, データベース

石田 亨 教授

人工知能, コミュニケーション, 社会情報システム

船越 満明 教授

(水や空気の流れ) 非線形力学, 流体力学, 力学システムのカオス

西村 直志 教授

(大規模科学技術計算, 高速アルゴリズム) 計算力学, 応用力学, 計算工学

山本 裕 教授

システム・制御理論, デジタルシステムと信号処理, システムモデリング

中村 佳正 教授

(応用数学)

可積分系, 計算数学, アルゴリズム, 組合せ論

永持 仁 教授

(最適な組合せ, 配置, 順序を得る算法) 離散最適化問題に対するアルゴリズム理論の研究および実用問題への応用

福岡 雅夫 教授

計画工学, システム最適化の理論とアルゴリズム

太田 快人 教授

(システム制御) システム制御理論, ネットワークと制御, システムのモデリング

岩井 敏洋 教授

(猫はなぜ宙返りができるのか) 力学系の微分幾何学的研究

田中 利幸 教授

確率モデルに基づく情報処理, 情報通信理論, 情報統計力学, 機械学習

酒井 英昭 教授

(信号処理, 統計学) 適応信号処理と通信, 雑音制御への応用

高橋 豊 教授

(待ち事象の科学) システムのモデル化と性能解析, 情報システム, 待ち行列理論

岩間 一雄 教授

(アルゴリズムの神秘的な魅力の発見とその解明) アルゴリズムと計算複雑さの理論

高木 直史 教授

(高性能コンピュータ) ハードウェアアルゴリズム, 演算回路, 論理設計支援

湯浅 太一 教授

(プログラミング言語) プログラミング言語と処理系

美濃 導彦 教授

(教室での学生行動を観測する, 人間の目のしくみの解明, 人間活動をさりげなく支援する) マルチメディア情報処理, 3次元モデル中心処理, 知的映像メディア処理, 環境メディア, スマートクラスルーム, e-Learning

稲垣 耕作 准教授

(コンピュータ学を超える真の情報学へ) 基礎情報学・情報物理学・マクロ情報学

五十嵐 淳 准教授

(ソフトウェアの数学) プログラミング言語の基礎理論

尾形 哲也 准教授

(ロボティクス, ニューラルネットワーク) ヒューマンロボットインタラクション, 認知ロボティクス

馬 強 准教授

(エンティティマイニング, 関係マイニング, 因果関係, 利害関係, ユーザ体験検索) Web 検索, テキストマイニング, マルチメディア情報システム

田島 敬史 准教授

(大量データ検索, 大量データ閲覧支援) データベースシステム, 情報検索

松原 繁夫 准教授

(情報経済学: 情報学と経済学・経営学の接点) 情報経済学, 人工知能

田中 泰明 准教授

(確率力学系, 確率微分方程式, リスク解析) 確率力学系の理論とそのリスク解析への応用, 効率化シミュレーション

青柳 富誌生 准教授

(脳の理論モデル, リズムと同期, 複雑ネットワーク) 理論神経科学, リズム現象, ネットワーク力学系, 非線形物理学

藤岡 久也 准教授

サンプリング制御, ロバスト制御, 数値最適化に基づく制御系設計解析

辻本 諭 准教授

(問題を解くための数学手法の開発, アルゴリズム開発) 離散可積分系と特殊関数の理論とその応用

山下 信雄 准教授

(システムの最適化) 数値最適化, 非線形最適化に対するアルゴリズムの開発とその応用

鷹羽 浄嗣 准教授

ロバスト制御, 最適制御およびフィルタリング

五十嵐 顕人 准教授

(つながりを科学する) 複雑ネットワークと情報伝達, 情報物理学

林 和則 准教授

(携帯電話, 無線 LAN, 地デジ) 通信理論, 統計的信号処理

笠原 正治 准教授

情報システム理論, ネットワークシステム, 待ち行列理論とその応用

伊藤 大雄 准教授

グラフ・ネットワーク理論とアルゴリズム, 離散幾何学, 組合せゲーム・パズル

高木 一義 准教授
(デジタル回路設計)
システムLSI設計, 論理設計支援

八村 昌宏 准教授
プログラミング言語, 並列処理

桜木 雅之 准教授
(画像や映像の解析, 映像内容の理解)
映像メディア処理, コンピュータビジョン

宮崎 修次 講師
複雑力学系や複雑ネットワークの数理解析

吉川 仁 講師
計算力学, 応用力学, 非破壊評価

趙 亮 講師
(グラフ, ネットワーク, 離散最適化, アルゴリズム)
ネットワーク最適化アルゴリズム及び応用

大久保 潤 講師
(揺らぎと確率)
確率過程, 統計物理学, 情報科学や生命科学に関連した数理的研究

工業化学科

三浦 清貴 教授
材料化学専攻 無機材料化学, 無機材料光物性, レーザー反応科学, 微細構造制御

下間 靖彦 准教授
材料化学専攻 機能材料化学, 非線形光学, レーザー科学, ナノフォトニクス

平尾 一之 教授
材料化学専攻 無機材料化学, 非晶質ガラス科学, 無機構造化学, セラミックス工学

田中 勝久 教授
材料化学専攻 無機固体化学, 無機材料科学, スピン工学, 非線形光学

藤田 晃司 准教授
材料化学専攻 無機固体化学, 無機材料化学, 光機能性材料

松原 誠二郎 教授
材料化学専攻 有機反応化学, 立体化学, 有機合成化学, 有機金属化学, 有機材料化学

清水 正毅 准教授
(分子の作り方の開発, 光る分子や電荷を流す分子の開発)
材料化学専攻 有機合成化学, 有機金属化学, 有機ケイ素化学, 有機フッ素化学, 有機材料化学

中尾 佳亮 講師
材料化学専攻 有機合成化学, 有機金属化学, 有機ケイ素化学

大塚 浩二 教授
材料化学専攻 材料解析化学, 分離分析化学, マイクロ/ナノ分析, μ -TAS

瀧川 敏算 教授
(高分子, ゲル, 力学物性)
材料化学専攻 高分子レオロジー, 高分子ゲルの物理化学, コムの力学物性

浦山 健治 准教授
材料化学専攻 高分子ゲルの物理化学, 高分子薄膜の電気力学物性, エラストマーの力学

木村 俊作 教授
材料化学専攻 機能材料, 高分子超分子化学, ペプチド工学

森田 智行 講師
材料化学専攻 超分子化学, 電子移動化学

小山 宗孝 准教授
材料化学専攻 ナノ材料化学, 電子移動化学, 電気分析化学, 分光電気化学

西本 清一 教授
物質エネルギー化学専攻 励起状態の物理化学, 分子イメージング, ケミカルバイオロジー

垣内 隆 教授
物質エネルギー化学専攻 界面の物理化学, 溶液系の界面物性, 電気分析化学, 機能性材料化学

井上 正志 教授
物質エネルギー化学専攻 無機材料の新規合成法とその触媒機能

江口 浩一 教授
物質エネルギー化学専攻 環境およびエネルギーに関連した固体触媒の開発と基礎物性

大江 浩一 教授
物質エネルギー化学専攻 有機活性種化学, 遷移金属錯体を用いる触媒反応の開発

辻 康之 教授
物質エネルギー化学専攻 新規分子触媒の開発とその応用, 触媒反応機構の解明

安部 武志 教授
物質エネルギー化学専攻 新規蓄電デバイスの開発, 電極材料のインターカレーションケミストリー

陰山 洋 教授
物質エネルギー化学専攻 低温合成による酸化物の設計, 革新的な超伝導材料・磁性体などの開発

柴田 誠一 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 放射性同位体の生成と利用に関する放射化学的研究

年光 昭夫 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 有機ヘテロ元素化学を利用する材料合成

小澤 文幸 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 高効率遷移金属錯体触媒の開発と機能物質合成

近藤 輝幸 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 有機金属化学を基盤とする新規分子プローブの設計・合成・機能評価

中村 正治 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 元素科学を基盤とした資源活用型有機合成反応の開発

村田 靖次郎 教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 機能性 π 共役系化合物の合成ならびにフラレン化学

田邊 一仁 准教授
物質エネルギー化学専攻 ゲノム化学・分子イメージング・機能性ナノ材料

寺尾 潤 准教授
物質エネルギー化学専攻 機能性高分子材料, 分子エレクトロニクス, 超分子化学

西 直哉 准教授
物質エネルギー化学専攻 イオン液体の電気分析化学・界面分光学

福塚 友和 准教授
物質エネルギー化学専攻 炭素材料化学, 電気化学デバイス

和田 健司 准教授
物質エネルギー化学専攻 炭素資源変換に用いる新規触媒材料の開発

松井 敏明 准教授
物質エネルギー化学専攻 固体イオニクス, 固体電気化学, 無機固体化学

沖 雄一 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 放射性エアロゾルの生成機構と性質の解明

高谷 光 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 金属結合型人工ペプチドの開発と機能開拓

高宮 幸一 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 放射性同位体を用いた分析手法の開発

若宮 淳志 准教授
物質エネルギー化学専攻 協力講座 機能性 π 電子系化合物群の開発と有機太陽電池への応用

三木 康嗣 講師
物質エネルギー化学専攻 生体イメージング, 機能性 π 共役系分子合成

白川 昌宏 教授
分子工学専攻 生体高分子の立体構造と生体計測手法に関する研究

佐藤 啓文 教授
(理論化学, 量子化学, 溶液, 化学反応, 生体内分子)
分子工学専攻 溶液内分子の量子化学・統計力学と化学反応理論

田中 一義 教授
分子工学専攻 分子ナノ工学, 量子機能材料の設計と電子物性解析

田中 庸裕 教授
分子工学専攻 固体表面に関わる反応化学, 触媒材料の構造・機能・設計

今堀 博 教授
分子工学専攻 人工光合成系の構築, 有機太陽電池の開発

横尾 俊信 教授
分子工学専攻 協力講座 機能性無機材料の創製, 有機-無機ハイブリッドガラス

渡辺 宏 教授
分子工学専攻 協力講座 高分子ダイナミクス, 不均質物質の変形, 流動とダイナミクス

梶 弘典 教授
分子工学専攻 協力講座 有機デバイスの創製と基礎科学の構築, 固体NMRによる構造-有機デバイス機能相関の解明

枋尾 豪人 准教授
(タンパク質の形, 細胞)
分子工学専攻 タンパク質の立体構造・運動性の解析, 細胞計測

佐藤 徹 准教授
分子工学専攻 物性理論化学と炭素材料の電子物性解析

伊藤 彰浩 准教授
分子工学専攻 量子機能材料, 分子磁性, 物理有機化学

穴戸 哲也 准教授
分子工学専攻 固体酸塩基触媒の化学, 選択酸化触媒, 固体触媒の構造・機能・設計

俣野 善博 准教授
分子工学専攻 ヘテロ原子を含む機能性材料の設計と開発

川崎 三津夫 准教授
分子工学専攻 金属ナノ材料・デバイスの光物理化学と表面化学

寺村 謙太郎 講師
分子工学専攻 光触媒化学, 固体表面上での分子の光活性化

橋本 訓 講師
分子工学専攻 光化学反応, ラジカル反応, 大気化学

徳田 陽明 准教授
分子工学専攻 協力講座 無機材料・有機-無機ハイブリッド材料の構造と機能相関

増淵 雄一 准教授
分子工学専攻 協力講座 高分子計算科学, 高分子ダイナミクス

後藤 淳 准教授
分子工学専攻 協力講座 精密高分子合成, 有機非晶質デバイス

中尾 嘉秀 准教授
分子工学専攻 協力講座 機能性分子の量子化学・計算化学による物性の予測と制御

澤本 光男 教授
高分子化学専攻 高分子精密合成, カチオン重合, ラジカル重合

中條 善樹 教授
高分子化学専攻 新しい高分子合成反応の開拓, インテリジェント高分子の創成, 高分子ナノハイブリッド材料

吉崎 武尚 教授
高分子化学専攻 高分子溶液学 (高分子溶液の性質), 高分子ダイナミクス (溶液中における高分子鎖の運動), 高分子統計力学 (高分子鎖の形態と性質に関する理論)

田中 文彦 教授
(高分子の理論的研究)
高分子化学専攻 高分子基礎物理化学, 高分子理論物性学, 高分子の会合とゲル化に関する理論・シミュレーション

伊藤 紳三郎 教授
高分子化学専攻 高分子光物理・光化学, 機能性高分子, 高分子構造, 高分子超薄膜, 有機薄膜太陽電池, 生体イメージング

赤木 和夫 教授
高分子化学専攻 導電性・発光性・液晶性高分子の合成と性質, 不斉液晶場での階層構造盛業, キラル転写・反転による円偏光性発現

長谷川 博一 教授
高分子化学専攻 高分子集合体構造の解析と制御, ブロックコポリマー, ポリマーブレンド, ナノソグラフィ, 電子線トモグラフィ

秋吉 一成 教授
高分子化学専攻 生体機能高分子 タンパク質工学 糖鎖工学 ゲルマテリアル ナノバイオテクノロジー

松岡 秀樹 准教授
高分子化学専攻 高分子界面化学, 両親媒性高分子の自己組織化, 高分子微粒子

三田 文雄 准教授
高分子化学専攻 高分子合成, アミノ酸ポリマー

中村 洋 准教授
高分子化学専攻 分枝高分子溶液物性

大北 英生 准教授
高分子化学専攻 高分子系の光物理・光化学, 高分子の光・電子物性, 高分子太陽電池

古賀 毅 准教授
高分子化学専攻 高分子基礎物理化学, 高分子の構造形成とレオロジーに関する理論・シミュレーション

大内 誠 准教授
(高分子合成)
高分子化学専攻 高分子精密合成, リビング重合, 配列制御重合, 重合触媒

竹中 幹人 講師
高分子化学専攻 高分子アロイの物理化学, ソフトマター, 自己秩序化によるボトムアップ型ナノ材料の構築

森崎 泰弘 講師

高分子化学専攻 高分子合成化学, 構造有機化学, 有機金属化学

金谷 利治 教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子高次構造制御を目指した 1) 高分子結晶化過程の解明 2) 高分子ガラス転移機構の解明 3) 高分子ゲルの生成機構と階層構造

山子 茂 教授

高分子化学専攻・協力講座 新しい高分子合成反応および有機合成反応の開発

岩田 博夫 教授

(医用材料, バイオインテグレーション, 再生医療, 低侵襲医療用デバイス, 糖尿病治療) 高分子化学専攻・協力講座 高分子材料の医療への応用と細胞・組織工学の研究

田畑 泰彦 教授

高分子化学専攻・協力講座 生体材料, 再生医学, ドラッグデリバリーシステム (DDS), 幹細胞工学

辻井 敬亘 教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子表面設計, 高分子超薄膜, 高分子ブラシの合成と物性

辻 正樹 准教授

高分子化学専攻・協力講座 結晶性高分子の固体の構造とその形成過程

西田 幸次 准教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子電解質溶液の構造, 高分子の結晶化

大野 工司 准教授

高分子化学専攻・協力講座 高分子精密合成, 高分子表面設計, 高分子付与微粒子の精密設計

山本 雅哉 准教授

(細胞周辺環境) 高分子化学専攻・協力講座 生体材料, 再生医学, 生体組織工学

青木 裕之 准教授

高分子物性, 近接場光学, 単一分子分光, 生体イメージング

吉田 潤一 教授

合成・生物化学専攻 新しい有機合成法の開発, 機能性物質および生物活性物質の合成

北川 進 教授

合成・生物化学専攻 錯体化学, 多重機能化学, ナノポーラス錯体材料

村上 正浩 教授

合成・生物化学専攻 有機金属化学および有機合成化学

森 泰生 教授

合成・生物化学専攻 細胞生理科学, 遺伝子工学, 分子神経生物学, タンパク質科学, 生体分子機能測定

杉野目 道紀 教授

合成・生物化学専攻 精密有機合成を目指した新反応開拓, 新規高分子材料を指向した精密重合法開拓

浜地 格 教授

合成・生物化学専攻 生命分子化学, 生物有機・無機化学, 細胞内有機化学, 超分子バイオマテリアル

松田 建児 教授

合成・生物化学専攻 物理有機化学, 有機機能材料化学, 有機ナノテクノロジー

跡見 晴幸 教授

合成・生物化学専攻 微生物を対象とした生物化学・生物学・ゲノム科学

梅田 真郷 教授

合成・生物化学専攻 分子生物学, 細胞生物学, 温度生物学, 統合生物学

植村 卓史 准教授

合成・生物化学専攻 ナノ空間を利用した新しい高分子化学の開拓

清中 茂樹 准教授

合成・生物化学専攻 化学生物学, 生物機能化学, 神経化学

池ノ内 順一 准教授

合成・生物化学専攻 細胞生物学, 脂質化学, 分子生物学, 合成生物学

長谷川 淳也 講師

合成・生物化学専攻 量子化学理論の開発, 光合成・視覚・生物発光の理論解析

三浦 智也 講師

合成・生物化学専攻 有機金属化学, 有機合成化学

大村 智通 講師

合成・生物化学専攻 精密分子変換手法の開拓, 機能性有機分子の創出

金井 保 講師

合成・生物化学専攻 微生物を対象とした生化学・分子生物学

野上 敏材 講師

合成・生物化学専攻 有機合成化学, 有機電気化学

山本 量一 教授

化学工学専攻 複雑流体・ソフトマターの流動現象に関する基礎研究, 計算機シミュレーションを用いた物性研究

宮原 稔 教授

(界面・ナノ細孔内物質の状態, ナノ粒子を「自分達で」整列させる) 化学工学専攻 界面の物理と工学, ナノ空間工学, ナノ粒子配列構造形成

河瀬 元明 教授

(化学反応の速度, コーティング, x水素燃料電池) 化学工学専攻 反応工学, 材料反応工学, 電気化学反応工学

田門 肇 教授

(ポーラスマテリアル, 構造制御) 化学工学専攻 分離工学, 吸着工学, 乾燥工学

三浦 孝一 教授

(石炭をクリーンかつ大切に使う) 化学工学専攻 エネルギープロセス工学, 石炭転換工学, 炭素材料工学

大嶋 正裕 教授

化学工学専攻 材料プロセス工学, 高分子成形加工, プロセス制御

長谷部 伸治 教授

(省エネルギー, 自動化) 化学工学専攻 化学プロセスの最適化・設計・操作, 生産管理

前 一廣 教授

(CO2削減のための化学プロセス開発) 化学工学専攻 環境プロセス工学, マイクロリアクター開発, バイオマス転換工学

松坂 修二 教授

(ミクロン, ナノ) 化学工学専攻 粉体工学, エアロゾル工学, 静電気工学

谷口 貴志 准教授

化学工学専攻 ソフトマターの变形流動現象の研究, ソフトマター数値計算科学

佐野 紀彰 准教授

(ナノテクノロジー, 環境浄化) 化学工学専攻 分離工学, ナノ材料の合成およびその応用開発, プラズマ応用, 環境浄化技術

長嶺 信輔 准教授

化学工学専攻 液相内秩序構造, 界面を鋳型にしたナノ材料, 微粒子合成

加納 学 准教授

(生産技術) 化学工学専攻 プロセスデータ解析, 品質マネジメント, 仮想計測技術, プロセス制御, QbD/PAT

牧 泰輔 准教授

化学工学専攻 環境プロセス工学, マイクロリアクター開発

中川 浩行 准教授

化学工学専攻・協力講座 環境安全学, 難処理有害物の効率的処理方法の開発

新戸 浩幸 講師

化学工学専攻 ソフト界面, 生細胞・微粒子間の相互作用, 計算機シミュレーション

八尾 健 教授

(電池, 人工骨) エネルギー基礎科学専攻 結晶化学, 材料電気化学, リチウム二次電池, 生体材料, 無機材料化学

尾形 幸生 教授

(多孔質シリコン) エネルギー理工学研究所・協力講座 半導体電気化学, 表面処理工学

作花 哲夫 准教授

(界面科学) エネルギー理工学研究所・協力講座 界面分光化学, レーザー分光, レーザープロセス

農学部



資源生物科学科

天野 洋 教授

天敵の種類と生き方を解明し, 農業に利用して作物を害虫類から護る研究

荒木 崇 教授

花成を調節する遺伝子の機能やフロリゲンの作用機構を解明する

今井 裕 教授

細胞から個体へーリプログラミング, 多能性幹細胞として個体形成

稲村 達也 教授

環境と調和した安定的で持続可能な農業のための生産技術研究

祝前 博明 教授

DNA 情報を利用した新たな選抜法や交配方法を開発する

裏出 令子 教授

食品タンパク質の小胞体における構造形成機構と食品機能特性の解明

遠藤 隆 教授

ムギ(コムギ, オオムギ, ライムギ)の染色体を細切れにして研究する

奥野 哲郎 教授

植物ウイルスの感染・増殖の分子メカニズムの研究

奥本 裕 教授

突然変異を利用したイネの開花制御機構の解析

北島 宣 教授

食糧やエネルギー問題を解決するための環境と調和した植物生産

久米 新一 教授

地球温暖化などの環境要因と家畜生産の関係の研究する

佐久間 正幸 教授

昆虫の嗅覚と資源探索システムの解明

左子 芳彦 教授

海洋性超好熱菌の分子生態と極限酵素の開発

澤山 茂樹 教授

微細藻類・糸状菌・酵母の遺伝子操作によるバイオ燃料等有用物質生産の研究

白岩 立彦 教授

ダイズ・イネなどの収量形成の生理・生態的機構と増収技術

富永 達 教授
雑草の分布拡大にかかわる生活史特性の進化、適応様式の解明

土井 元章 教授
植物の生理・生態的特性に基づく収穫物の高付加価値化技術の開発

中坊 徹次 教授
海産魚類の進化系統を基礎にして分類学的研究を行っている

縄田 栄治 教授
環境ストレス耐性の解明、農業生態系劣悪化の評価と修復

平田 孝 教授
未利用海洋生物資源の有効利用と機能解析

舟川 晋也 教授
自然および農耕地生態系における物質動態の解明と利用

廣岡 博之 教授
家畜生産に関する品種特性や栄養飼養情報の統合と総合的評価

藤崎 憲治 教授
地球温暖化の昆虫に対するインパクトの解析

藤原 建紀 教授
沿岸海洋の環境変動の解明

二井 一禎 教授
森林流行病に見られる生物相互関係を微生物の視点から研究

松井 徹 教授
ビタミンとミネラルの代謝と新規機能の解明

松村 康生 教授
食品の品質を決定する成分や組織構造の解明。食品の品質制御

守屋 和幸 教授
高度情報技術を活用した家畜生産システムの構築

米森 敬三 教授
果実発育生理の究明と果樹遺伝資源を利用した育種の効率化

荒井 修亮 准教授
情報技術を駆使した目に見えない水圏生物の生態解明

大崎 直太 准教授
植食性昆虫の寄生植物選択機構の解明

刑部 正博 准教授
植物に住むダニ類の生物間相互作用と環境適応の進化機構

笠井 亮秀 准教授
海洋生態系の解明

河原 太八 准教授
コムギとその近縁種の遺伝的多様性を明らかにし保全・利用する

北川 政幸 准教授
環境調和型肉用牛飼養に関する研究

熊谷 元 准教授
未利用資源の飼料化・熱帯地域における畜産技術開発

菅原 達也 准教授
機能性脂質成分の探索と作用機構の解明

田尾 龍太郎 准教授
果樹の組織細胞培養法の開発および花芽形成や受粉受精機構の解明

高野 義孝 准教授
植物と病原菌の相互作用の背景にある分子メカニズムの解明

田川 正朋 准教授
卵～稚魚に起こる形や能力の変化をホルモンから研究している

田中 千尋 准教授
カビ・きのこの遺伝・生理から分類・生態まで

田中 朋之 准教授
イネやソバなどの穀物の品質に関する研究

豊原 治彦 准教授
海洋生物がもつ不思議な機能の解明とその応用

中崎 鉄也 准教授
作物の効率的な品種改良に必要な有用遺伝子の探索と機能解析

林 由佳子 准教授
味の受容機構と外因性要因による味修飾メカニズムの解明

樋口 浩和 准教授
熱帯作物の生理機構の解明と熱帯農業における生態環境の評価

舟場 正幸 准教授
動物細胞の機能が調節される仕組みを探索

細川 宗孝 准教授
微生物・病原体の感染が植物に引き起こす多様な生理・生態反応の解明

丸山 伸之 准教授
食糧問題を解決する作物の開発のための基盤および応用研究

三瀬 和之 准教授
植物とウイルス間における宿主特異性の分子機構の解明

南 直治郎 准教授
胚性ゲノムの活性化に関わる母性因子とそのメカニズム

宮下 直彦 准教授
コムギ、シロイヌナズナ、野生イネなどの遺伝子領域の塩基配列を解析

山田 雅保 准教授
哺乳類生殖細胞の形成と発生を細胞の増殖と死から捉える

吉田 天士 准教授
水圏ウイルスの分子生態とその有用遺伝子の機能解析

三浦 励一 講師
在来農業にみられる雑草の生態と進化／侵略的外来種の生態

寺石 政義 講師
ゲノム情報から探る作物の品種改良に関する研究

応用生命科学科

植田 和光 教授
人の健康をまもる ABC タンパク質：巧妙なしくみを解く

植田 充美 教授
生命の謎解き・真理のトレジャーを発掘

小川 順 教授
ユニークな微生物機能の探索とその産業利用

喜多 恵子 教授
制限修飾系の分子進化をゲノムとタンパク質構造から解明する

加納 健司 教授
酸化還元酵素の機能とバイオセンサ・バイオ電池への応用

河内 孝之 教授
モデル光合成生物で植物の光環境応答の原理を調べる

阪井 康能 教授
有用微生物の分子細胞生物学・生化学と応用機能開発

佐藤 文彦 教授
植物の機能を細胞レベルから再構築する

西田 律夫 教授
生物同士の“化学交信”を探索

間藤 徹 教授
植物の肥料元素、有害元素を極める

三上 文三 教授
タンパク質・酵素の結晶構造解析と構造生物学

宮川 恒 教授
植物ホルモンオーキシンの代謝分解経路の解明

三芳 秀人 教授
ミトコンドリアの機能を制御する生理活性化合物の分子設計と合成

井上 善晴 准教授
メタボリックシンドロームの基盤解明

遠藤 剛 准教授
光化学系Ⅱでのエネルギーの分配と循環的電子伝達系

木岡 紀幸 准教授
動物細胞を取り巻く環境が細胞の生存、移動、がん化を制御する仕組み

黒田 浩一 准教授
地球環境はバイオで守る

小林 優 准教授
細胞壁ペクチンの機能を解明する

白井 理 准教授
細胞膜でのイオンや電子の動きの理解とその応用

中川 好秋 准教授
昆虫だけが持つ成長の仕組みを攪乱する害虫制御剤の探索

森 直樹 准教授
化学の目で見た昆虫と植物、昆虫と動物の攻防

由里本 博也 准教授
微生物の代謝生理・遺伝子発現制御機構の解明と応用機能開発

地域環境工学科

川島 茂人 教授
大気と生物圏の相互作用に関する研究

河地 利彦 教授
流域水資源管理のための水環境のモデリングとコントロール

小林 慎太郎 教授
土地利用計画・地域分析および国内外の持続的・自立的な地域発展研究

近藤 直 教授
マシンビジョン等を利用した生体、農畜産物、食品の計測と自動化

清水 浩 教授
環境調節による植物の成長制御およびそのモデリング

星野 敏 教授
ナレッジマネジメントを応用した農村計画手法の開発

村上 章 教授
土構造物・地盤挙動のデータ同化、逆解析

飯田 訓久 准教授
可変制御で安全に美味しく、ロボット作業で簡単に！

宇波 耕一 准教授
利水システムのコントロールと半乾燥域における水開発

小川 雄一 准教授
テラヘルツ波を中心とした電磁波利用による生体・農産物計測

中嶋 洋 准教授
土と機械(車両)のテラメカニクス、計算力学、農業物理モデリング

中村 公人 講師
流域圏および農地土壌中の水循環と物質循環の制御と管理

橋本 禪 講師
多主体の参加と協調にもとづく農村の計画・管理システムの開発

前田 滋哉 講師
河川・湖沼・用水システムのモデリングと水量・水質の管理最適化

食料・環境経済学科

小田 滋晃 教授
地域農業の活性化に資する農工商連携のあり方と農業経営の役割

加賀爪 優 教授
食料農産物の貿易自由化が経済発展と環境資源に及ぼす影響の分析

栗山 浩一 教授
森林や自然環境の価値評価と環境政策に関する研究

末原 達郎 教授
地球規模における食料・農業・地域社会の存続に関する比較農学的研究

武部 隆 教授
農業・農村における社会的課題の解決に向け政策的に究明する

新山 陽子 教授
食品安全と市民のリスク認知、農業再生と食品価格判断メカニズムの研究

野田 公夫 教授
農業・農村の世界類型および日本的個性に関する研究

福井 清一 教授
発展途上国の社会経済発展を推進するための政策に関する研究

秋津 元輝 准教授
日本における農山村社会の存続および農業をめぐる倫理的研究

浅見 淳之 准教授
途上国農村を支える伝統的・近代的な経済システムに関する研究

仙田 徹志 准教授
食料・農業における統計情報の体系的保存と高度利用に関する研究

足立 芳宏 准教授
20世紀ヨーロッパ農業の形成に関する比較的研究

伊藤 順一 准教授

ミクロ経済学をベースとした農業・農村政策に関する実証研究

香川 文庸 准教授

農業会計の計算構造・評価方式と情報開示のあり方に関する研究

川村 誠 准教授

森林資源・環境・木材貿易・林業イノベーションの調査・政策研究

沈 金虎 准教授

農業政策、農産物貿易の国際比較と中国の3農問題を研究

辻村 英之 准教授

アフリカを事例としたフードシステム、農家経済経営、農村発展の研究

森林科学科

東 順一 教授

資源循環型社会をめざしたバイオマスの有効利用と森林の生化学

井鷲 裕司 教授

繁殖プロセス、系統、遺伝特性等の情報に基づく森林生物の保全

大澤 晃 教授

成長に伴う森林のつくりの変化にどんな規則があるか調べています

太田 誠一 教授

熱帯大規模産植林の持続的管理と温暖化防止機能の最大化方策

奥村 正悟 教授

木材を削る、乾かす、調べるための科学と技術

北山 兼弘 教授

森林生態系を生物地球化学と生物多様性科学から解き明かす

木村 恒久 教授

磁場を用いたバイオマスの構造解析と高機能化に関する研究

坂 志朗 教授

超臨界流体によるバイオ燃料・バイオケミカルの先駆的研究

酒井 徹朗 教授

自然と人間が共生する循環型社会を支える情報技術について

高野 俊幸 教授

木材成分の化学分析、化学合成 & 機能性化

高部 圭司 教授

樹木の細胞壁形成とその微細構造

谷 誠 教授

森林資源を使いながら気候変動・洪水渇水変動をやわらげる方策を探る

中野 隆人 教授

木材の基礎的物性特性の解明と理論解析

西尾 嘉之 教授

生物由来素材を対象とした環境調和型・先進機能マテリアルの創製

水山 高久 教授

崩壊、土石流、流砂、鉄砲水、河床変動などの機構と災害対策の研究

森本 幸裕 教授

ランドスケープエコロジーを手掛かりに生物親和都市をデザイン

大澤 直哉 准教授

生物種間の相互関係を通じ、森林の構造や機能を明らかにする研究

岡田 直紀 准教授

光、水、養分をめぐる樹木の競争を人間社会と比べながら考えています

河本 晴雄 准教授

分子レベルでの木質バイオマス熱分解機構解明

神崎 護 准教授

熱帯季節林や熱帯山地林の生物多様性ならびにその攪乱に対する応答

小杉 賢一朗 准教授

森林の土が雨水を蓄える仕組みの解明、豪雨による山崩れの予測

小山 里奈 准教授

植物が森林生態系を維持していくために果たしている役割について

深町 加津枝 准教授

地域固有の景観の保全および活用を目指した環境デザイン

藤井 義久 准教授

伝統工法木造の劣化診断と保存技術の開発、住まいと木材

松下 幸司 准教授

森林計画に関する制度、統計、調査法、法規等に関する研究

坂本 正弘 講師

タケ・ササ類を中心とした単子葉植物の資源植物への転換

高柳 敦 講師

野生動物による被害発生機構の解明と共存のための総合的システムの構築

仲村 匡司 講師

木材の生理・感性的特性とその定量的評価

吉岡 まり子 講師

植物バイオマスを高効率的に活用したナノ複合材料の調製と機能発現

食品生物科学科

安達 修二 教授

食品製造および保存過程で起こる諸反応の速度解析と工学的応用

井上 國世 教授

酵素の構造と機能を解析し、応用面での新規機能を酵素に与える

入江 一浩 教授

がん、アルツハイマー病に係わる蛋白質の構造機能解析と薬剤開発

河田 照雄 教授

肥満・生活習慣病と“食品の機能”についての基礎・応用研究

永尾 雅哉 教授

健康に良い天然物探索とその作用メカニズム解明

伏木 亨 教授

おいしさの科学。特に油脂とダシのおいしさのメカニズム解明

村田 幸作 教授

微生物の生態・構造・機能・進化の解析

芦田 久 准教授

糖鎖を介した微生物とヒトとの関わりについて研究

井上 和生 准教授

運動による疲労や代謝変化について、脳や神経の働きを探る

大日向 耕作 准教授

食欲調節、ストレス緩和、学習促進作用等を示す機能性食品の創生

神戸 大朋 准教授

亜鉛など必須微量元素の生理機能の解明

谷 史人 准教授

粘膜免疫系のはたらきをよくする高分子の構造を探る・創る

橋本 渉 准教授

細胞表面多糖の構造と細菌感染症の解析

増田 誠司 准教授

RNAの代謝を制御する因子と細胞増殖の関わり

保川 清 准教授

RNAからDNAを合成する酵素（逆転写酵素）を改良する